アシストパック Ｐｒｏ ＢＨＴ－８００
取扱説明書　第１０版

２０１６年 8月 ２５日
コンピュータ・アシスト株式会社

SAMPLE

A

目次

１ 動作環境 1

２ マネージャープログラム 1

２－１ プログラムの起動 1
２－２ メニュー 2
２－３ 業務設定 3
２－３－１ 新規作成 4
２－３－２ 開く 5
２－３－３ 業務設定受信 5
２－３－４ 基本設定 6
１）オートパワーオフ時間 6
２）バーコード読取条件 6
３）エラーメッセージ表示時間 7
４）確認/警告ブザー設定 7
５）アドイン通信プログラム 8
６）データファイル転送プロトコル 8
７）Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ通信設定 9
８）送信完了後のデータ消去 10
９）サブメニュー表示 10
１０）処理メニュー表示 11
１１）保存データ修正機能 11
２－３－５ 動作設定 12
１）業務メニューのポップアップメニュー 12

２）グループ項目のポップアップメニュー 16
３）データ項目のポップアップメニュー 19
４）設定データ 23
５）バーコード読取（データ収集モードとバーコード情報表示モード） 32
６）マスター参照（データ収集モードとバーコード情報表示モード） 53
２－３－６ 送信データレイアウト表示 56
２－３－７ 業務設定送信 56
２－３－８ 保存 57
２－３－９ 閉じる 58
２－３－１０ 終了 58
２－４ マスターデータ編集 59
２－４－１ 新規作成 60
２－４－２ 開く 61
２－４－３ インポート 62
２－４－４ データ編集 63
２－４－５ 送信 64
２－４－６ 保存 65
２－４－７ 閉じる 66
２－４－８ 終了 66
２－５ アシストパックプログラム転送 66
２－６ アドインプログラム転送 67
２－７ ＡＩコードテーブル転送 68
２－８ データ受信 69
２－９ データ送信 70
２－１０ 通信条件設定 71
２－１１ 問い合わせ 72

２－１２ サポートWEBサイト 73
３ ハンディターミナルプログラム 74
３－１ キーの説明 74
３－２ 通信 75
３－３ アシストパックプログラムのダウンロード手順 76
３－４ 動作モード 79
１）データ収集 79
２）商品コード＋数量収集 80
３）未送信データの全送信 81
４）ファイル受信 81
５）リモート受信 81
６）バーコード情報表示 81
７）バーコード読取テスト 82
８）アドインプログラム 82
３－５ 電源投入 83
３－６ 業務メニュー 86
３－７ データ収集モード 93
３－７－１ 処理メニュー 93
３－７－２ データ入力処理 96
３－７－３ データ訂正処理 108
３－７－４ データ送信処理 111
３－７－５ 比較日付設定 112
３－８ 商品コード＋数量収集モード 113
３－９ 未送信データの全送信モード 114
３－１０ ファイル受信モード 116

３－１１ リモート受信モード.....117
３－１２ バーコード情報表示モード.....118
３－１３ バーコード読取テストモード.....119
３－１４ サブメニュー.....120
３－１４－１ システム情報表示.....120
３－１４－２ 日付時刻設定.....122
３－１４－３ ＨｔＮｏ設定.....122
３－１４－４ Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ設定.....123
３－１４－５ 業務設定受信.....124
３－１４－６ 業務設定送信.....126
３－１４－７ バーコード読取テスト.....128
３－１４－８ 全データ消去.....129
３－１４－９ ファイル受信.....129
３－１４－１０ リモート受信.....131
３－１４－１１ ファイル管理.....133
３－１５ ﾌﾞｻﾞｰ音量，ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀ，画面の明るさおよび省電力設定.....134
３－１６ バッテリー.....135
３－１６－１ バッテリー電圧表示.....135
３－１６－２ 電圧低下した場合.....135
３－１６－３ 電圧低下検出による電源オフの場合.....136
３－１６－４ 充電池カートリッジを外してＢＨＴ－８００を保管する場合.....136

１ 動作環境

① ネージャープログラム動作環境

ＯＳ：　　Ｗｉｎｄｏｗｓ Ｖｉｓｔａ（３２ｂｉｔ）／７（３２ｂｉｔ／６４ｂｉｔ）／８（３２ｂｉｔ／６４ｂｉｔ）
８．１（３２ｂｉｔ／６４ｂｉｔ）／１０（３２ｂｉｔ／６４ｂｉｔ）

② ンディターミナル・プログラム動作環境

ＨＴ：　　ＢＨＴ－８００Ｂ，ＢＨＴ－８００ＢＷ，ＢＨＴ－８００ＢＢ，
ＢＨＴ－８００Ｑ，ＢＨＴ－８００ＱＷ，ＢＨＴ－８００ＱＢ

２ マネージャープログラム

２－１ プログラムの起動

デスクトップ上のショートカットをダブルクリックするか、［スタート］ボタンから［スタート］→［すべてのプログラム］→［アシストパック］→［アシストパック Ｐｒｏ ＢＨＴ－８００ マネージャー］とクリックして起動します。

アイコン：

［スタート］ボタンから：

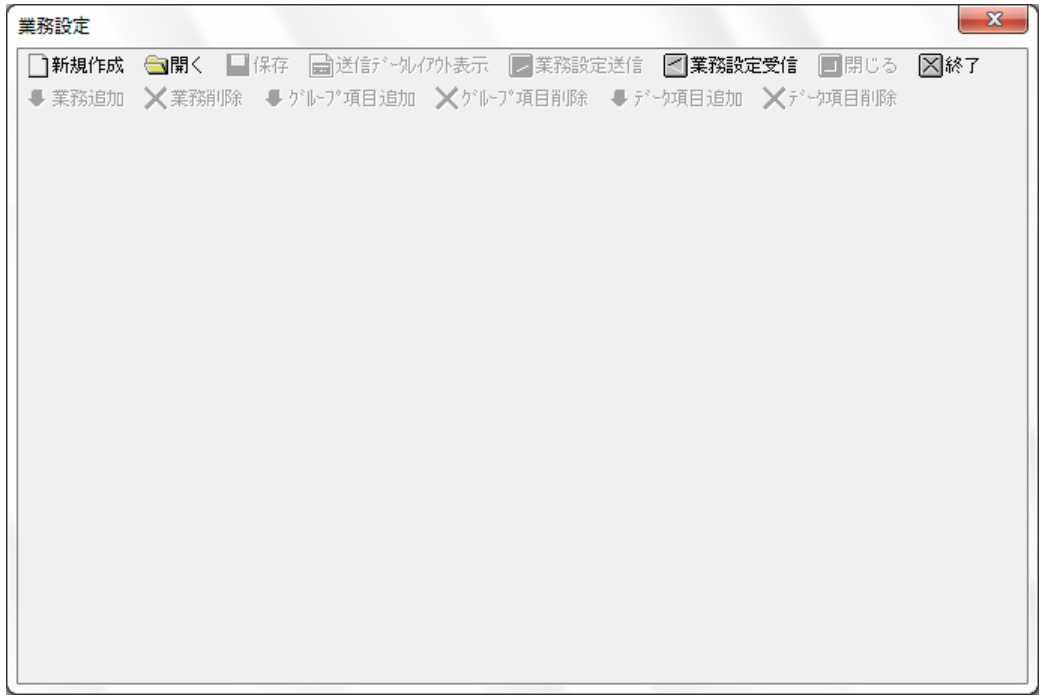
２－２ メニュー

アシストパックＰｒｏ　ＢＨＴ－８００のマネージャープログラムを起動するとメニュー画面を表示します。

ボタン	動作説明
業務設定ﾃﾞｰﾀ作成/編集/転送	業務設定データを作成/編集し､ハンディターミナルに転送します。
マスターファイル作成/編集/転送	マスターファイルを作成/編集し､ハンディターミナルに転送します。
アシストパックプログラム転送	アシストパックプログラムをハンディターミナルにダウンロードします。
アドインプログラム転送	アドインプログラムをハンディターミナルにダウンロードします。
ＡＩコードテーブル転送	ＡＩコードを使用して、データチェックまたはデータ振り分けをする場合に、ハンディターミナルに転送します。
データ受信	データ受信プログラムを起動します。
データ送信	データ送信プログラムを起動します。
通信条件設定	通信ポート，通信スピードなどの通信条件を設定します。
問い合わせ	ＦＡＸまたはＥメールで問い合わせをします。
サポートＷｅｂサイト	プログラムのバージョンアップやアドインプログラムのＷｅｂサイトから入手をします。

２－３ 業務設定

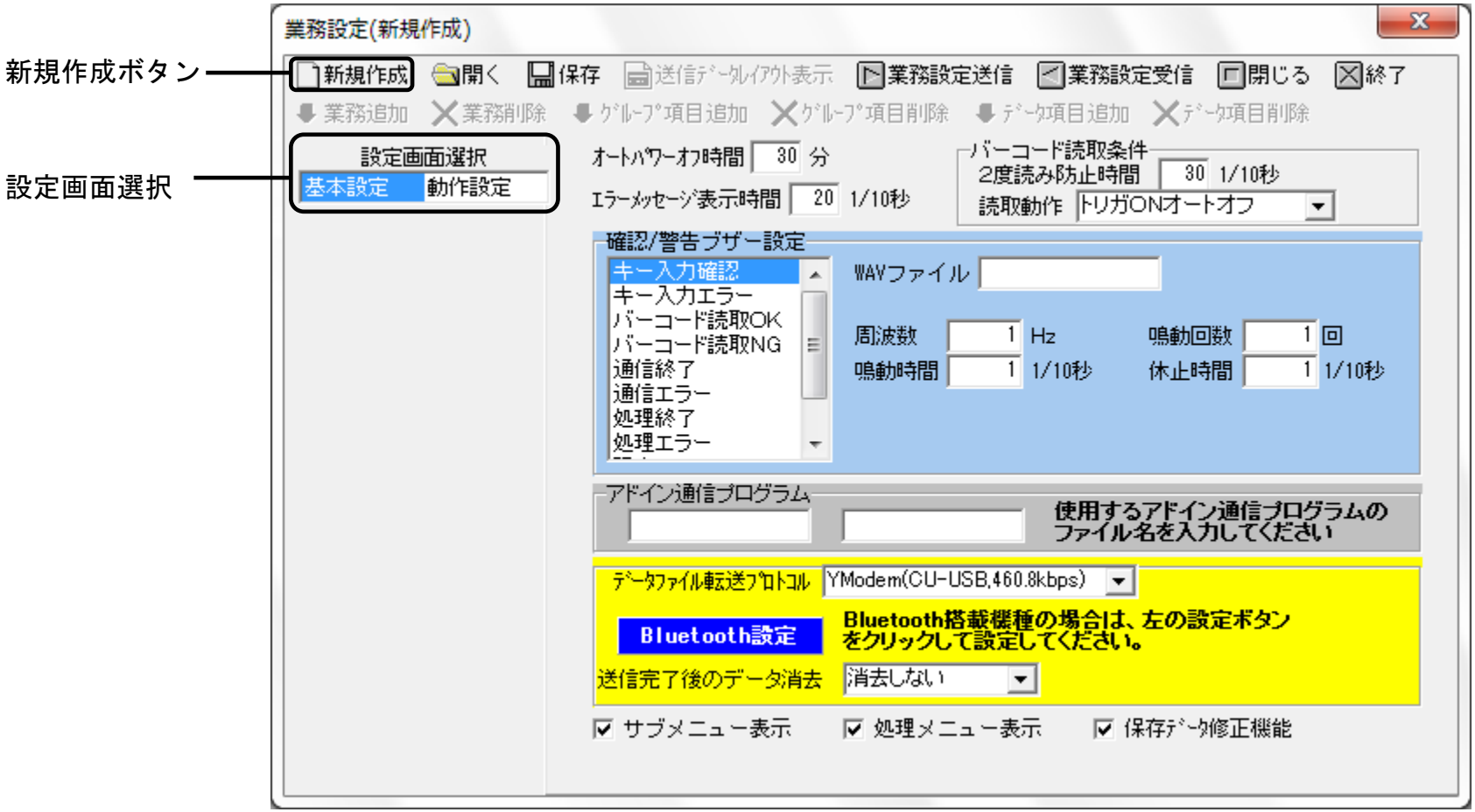
業務設定データの作成/編集/転送/保存を行ないます。アシストパックのハンディターミナルプログラムは、業務設定データがないと動作しません。ここで作成/編集した業務設定データをハンディターミナルに転送することで、プログラムは業務設定データに従って動作します。



ボタン	動作説明
新規作成	業務設定データを新規作成します。
開く	既存の業務設定データファイルを開きます。
保存	編集中の業務設定データを保存します。
送信データレイアウト表示	編集中の業務における送信データレイアウトを表示します。
業務設定送信	業務設定データをハンディターミナルへ送信します。
業務設定受信	業務設定データをハンディターミナルから受信します。
閉じる	編集中の業務設定データを閉じます。
終了	業務設定を終了します。
業務追加	業務処理を追加します。
業務削除	業務処理を削除します。
ｸﾞﾙｰﾌﾟ項目追加	グループ項目を追加します。
ｸﾞﾙｰﾌﾟ項目削除	グループ項目を削除します。
ﾃﾞｰﾀ項目追加	データ項目を追加します。
ﾃﾞｰﾀ項目削除	データ項目を削除します。

２－３－１ 新規作成

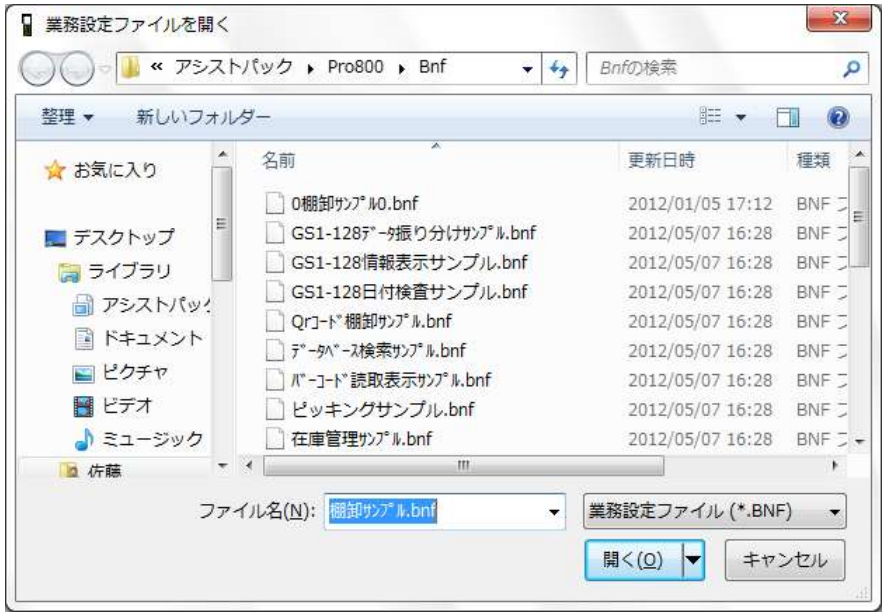
［新規作成］ボタンをクリックして業務設定データを新規作成します。



業務設定には、**基本設定**と**動作設定**があります。設定画面選択の ［**基本設定**］，［**動作設定**］ からマウスポイントで選択してください。

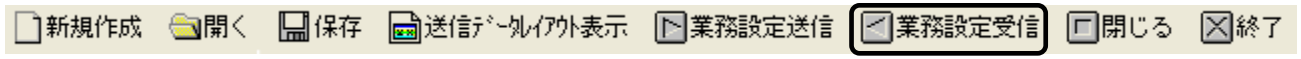
２－３－２ 開く

［**開く**］をクリックして、「業務設定ファイルを開く」の画面で、既存の業務設定ファイルを選択して開きます。



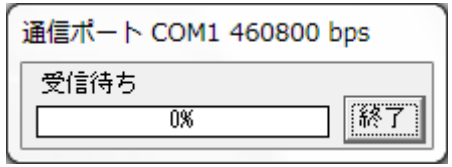
２－３－３ 業務設定受信

［**業務設定受信**］をクリックして、ハンディターミナルの「業務設定データ」を受信し、編集することができます。



ハンディターミナルの［サブメニュー］－［5.業務送信］を実行し通信ユニットにセット

ここをクリックする



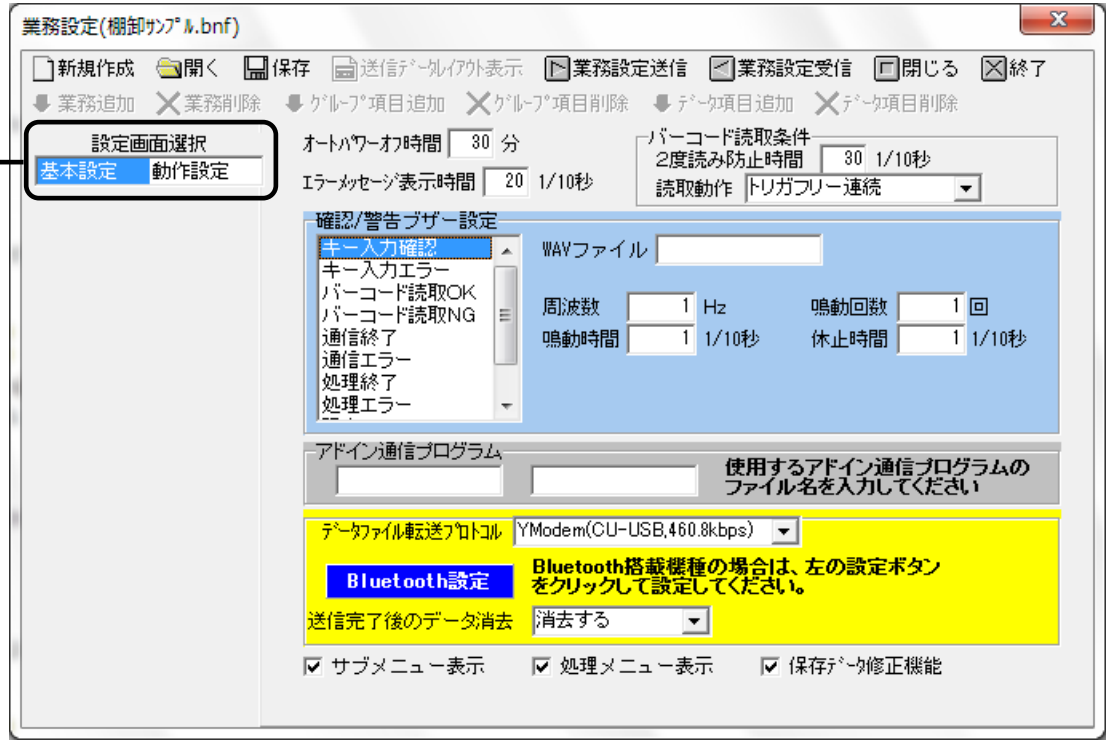
次に、ハンディターミナルのサブメニューから「５．業務送信」を実行して業務設定データを送信します。

２－３－４ 基本設定

設定画面選択の［**基本設定**］をマウスポイントで選択してください。

0

基本設定を選択



１）オートパワーオフ時間

キー入力やバーコード入力がない状態における自動電源 OFF の時間（１～５４０）を分単位で設定します。

２）バーコード読取条件

●２度読み防止時間

バーコードの２度読みを防止する時間（０～９９）を１／１０秒単位で設定します。０を設定すると、同じバーコードを続けて読まなくなります。

●読取動作

トリガＯＮオートオフ読取，トリガＯＮ同種コード連続読取，トリガフリー連続読取から選択します。

① トリガＯＮオートオフ読取	トリガスィッチＯＮで読取可になり、読取完了跡に自動読取不可になります。
② トリガＯＮ同種コード連続読取	トリガスィッチＯＮで同種バー-コードの連続読取が可能になります。
③ トリガフリー連続読取	トリガスィッチに関係なく連続読取が可能になります。

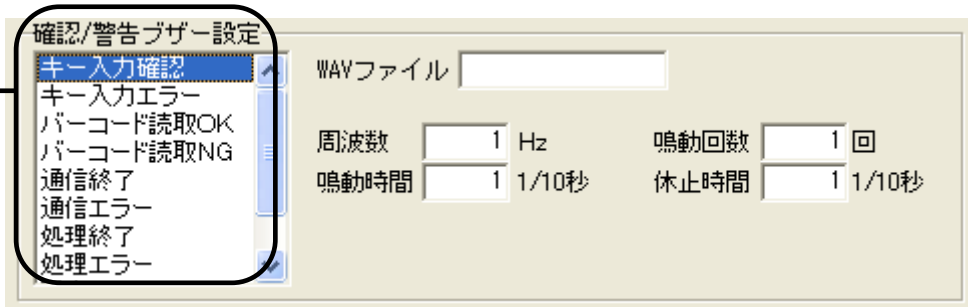
３）エラーメッセージ表示時間

入力エラー，通信エラー，処理エラーのエラー表示を表示している時間（１～９９）を１／１０秒単位で設定します。

４）確認/警告ブザー設定

キー入力確認，キー入力エラー，バーコード読取ＯＫ，バーコード読取ＮＧ，通信終了，通信エラー，処理終了，処理エラーの確認/警告音またはブザー動作を設定します。ＷＡＶファイルを設定すると音声を再生します。ＷＡＶファイルを設定しないかＷＡＶファイルが存在しない場合は、ブザーを鳴らします。ブザーは、設定した周波数で鳴動時間の間作動し、休止時間の間は止めます。この動作を鳴動回数分繰り返します。

この中から設定動作を選択してブザーの周波数，鳴動回数，鳴動時間，休止時間を設定します。



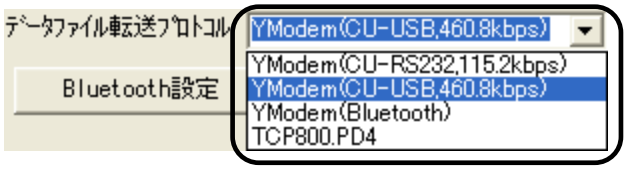
①WAV ﾌｧｲﾙ	下記の形式の音声ファイルを設定します。 ｉ）ファイル形式　　ＷＡＶ ｉ）オーディオ形式　　ＰＣＭ（リニアＰＣＭ） ⅱ）サンプル周波数　　８ＫＨｚ～４８ＫＨｚ ⅲ）サンプルサイズ　　８ｂｉｔ，１６ｂｉｔ ⅳ）チャンネル　　１ｃｈ（モノラル），２ｃｈ（ステレオ） ２ｃｈの場合、ｌｅｆｔチャンネルを再生
②周波数	0=低音 1=中音 2=高音　62～5000Hz　3～61 の値は設定できません。 0,1,2 を設定した場合、「LCD ｺﾝﾄﾗｽﾄ/ﾌﾞｻﾞｰ/ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀの調整画面」でブザー音量を変更することができます。 62～5000Hz を設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
③鳴動回数	0～99　0 を設定するとブザーは鳴りません。
④鳴動時間	1～99　1/10 秒単位で設定
⑤休止時間	1～99　1/10 秒単位で設定

５）アドイン通信プログラム

コンピュータ･アシストが提供する「アドイン通信プログラム」のファイル名（拡張子ＰＤ４のファイル）を入力します。アドイン通信プログラムのファイル名が「ＢＨＴＩＲ．ＰＤ４」の場合は下図のように入力します。

６）データファイル転送プロトコル

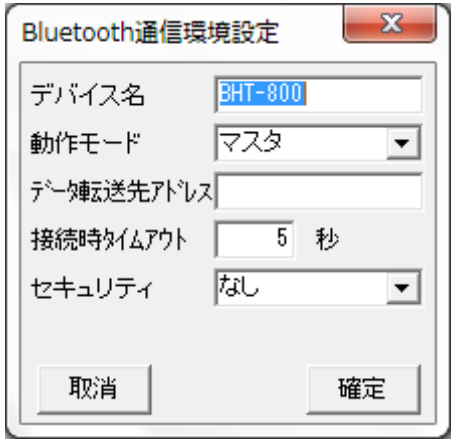
データファイル転送の通信プログラムを、「YModem(CU-RS232)」，「YModem(CU-USB)」，「YModem(Bluetooth)」，「アドイン通信プログラムで設定したファイル名」から選択します。



ﾌｧｲﾙ転送ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	通信ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	通信ｽﾋﾟｰﾄﾞ	通信ﾎﾟｰﾄ/通信ﾕﾆｯﾄ
YModem(CU-RS232,115.2kbps)	YModem	１１５．２ｋｂｐｓ	BHT-800 の IrDaI/F ⇔ PC の通信ﾎﾟｰﾄ ＣＵ－８０１とＣＵ－８２１で通信できます。
YModem(CU-USB,460.8kbps)	YModem	４６０．８ｋｂｐｓ	BHT-800 の IrDaI/F ⇔ PC のＵＳＢ通信ﾎﾟｰﾄ ＣＵ－８２１を使用します。
YModem(Bluetooth)	YModem	－	BHT-800 の BluetoothI/F ⇔ PC の通信ﾎﾟｰﾄ
ｱﾄﾞｲﾝ通信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ１	→	→	使用するアドイン通信プログラムの取扱説明書に従って設定してください。
ｱﾄﾞｲﾝ通信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ２	→	→	同上

７）Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ通信設定

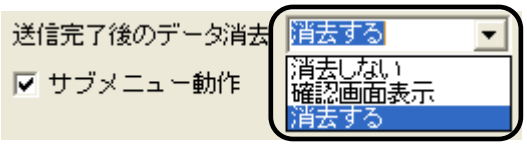
Bluetooth 搭載機種を使用する場合、「Bluetooth 設定」ボタンをクリックして設定してください。



設定項目	説明
デバイス名	Bluetooth のﾃﾞﾊﾞｲｽ名を半角英数字最大１６文字で設定してください。
動作モード	マスタ／スレーブを選択します。
ﾃﾞｰﾀ転送先ｱﾄﾞﾚｽ	動作ﾓｰﾄﾞを「マスタ」に選択した場合、ﾃﾞｰﾀ転送先の Bluetooth ｱﾄﾞﾚｽを設定してください。（半角１２文字）
接続時ﾀｲﾑｱｳﾄ	接続時のﾀｲﾑｱｳﾄ時間を１～２５５秒に設定してください。
セキュリティ	「なし」，「サービス」，「リンク」から選択して、接続相手と同じ設定にしてください。
パスキー	ｾｷｭﾘﾃｨに「ｻｰﾋﾞｽ」または「ﾘﾝｸ」を選択した場合、接続相手と同じパスキーを半角英数字１６文字で設定してください。

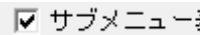
８）送信完了後のデータ消去

収集したデータを送信した後のデータ処理を、「消去しない」，「確認画面表示」，「消去する」から選択します。

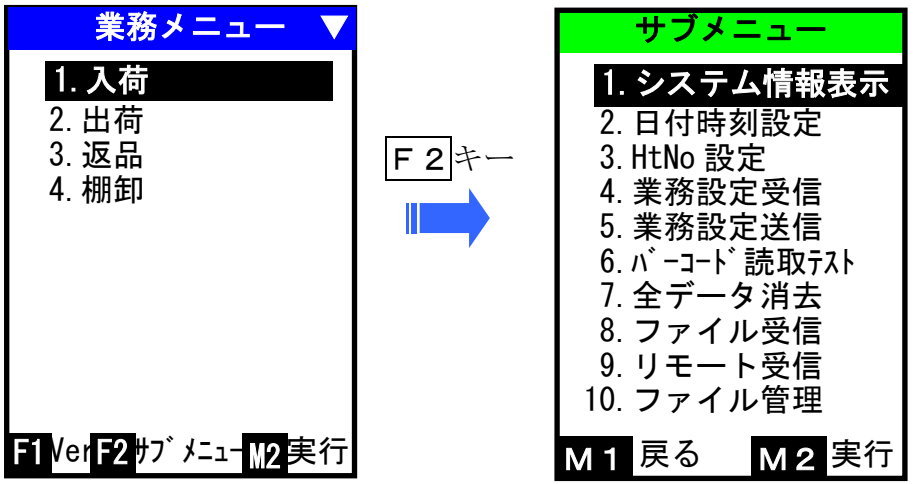


①消去しない	送信完了後、送信済みデータとして管理され、再送信が可能です。
②確認画面表示	送信完了後に、データを消去しますか？という確認画面を表示し、消去するか、消去しないかを選択できます。
③消去する	送信完了後、自動的に消去します。

９）サブメニュー表示

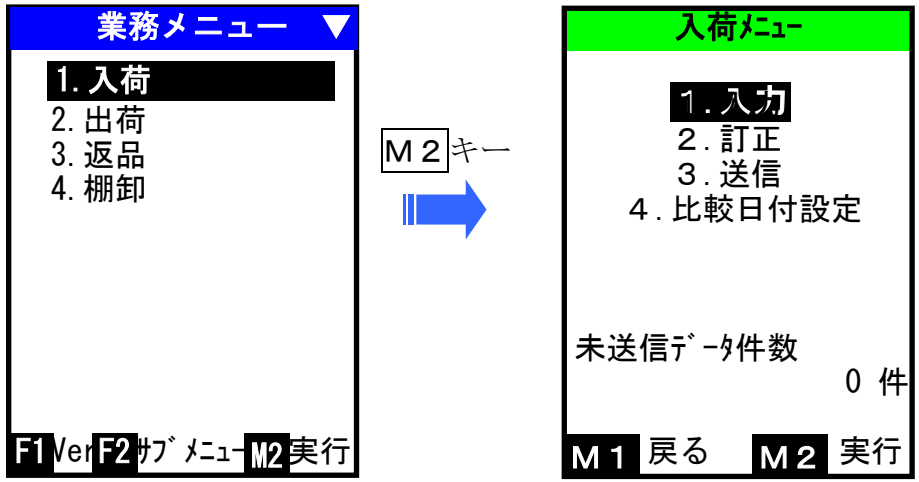


ここをチェックすることにより、ＨＴプログラムの「サブメニュー」が使用可能になります。
「サブメニュー」の説明は、ＨＴプログラムのサブメニューの項目を参照してください。



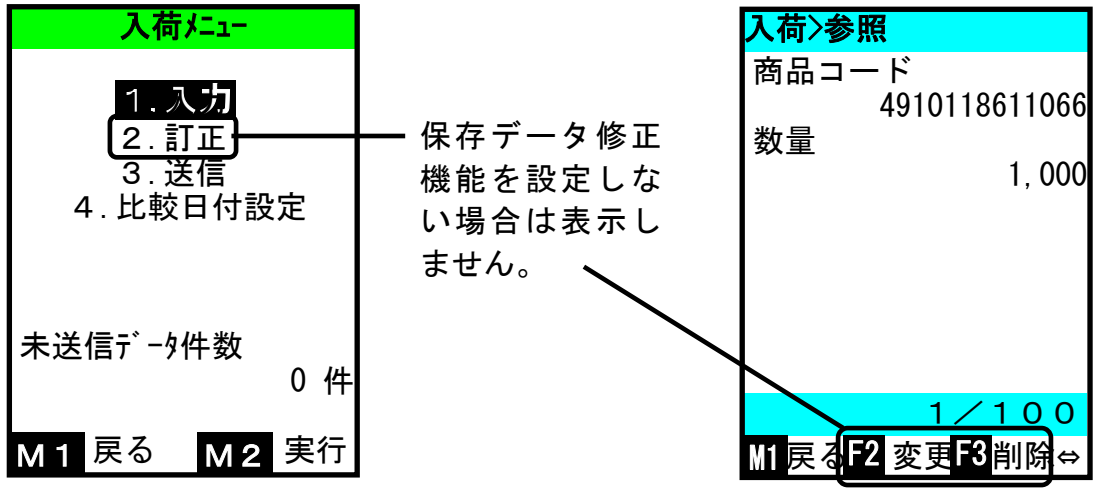
１０）処理メニュー表示

☑ 処理メニュー表示　ここをチェックすることにより、ＨＴプログラムの「処理メニュー」を表示します。
「処理メニュー表示」を使用しない場合は、直接入力画面を表示します。



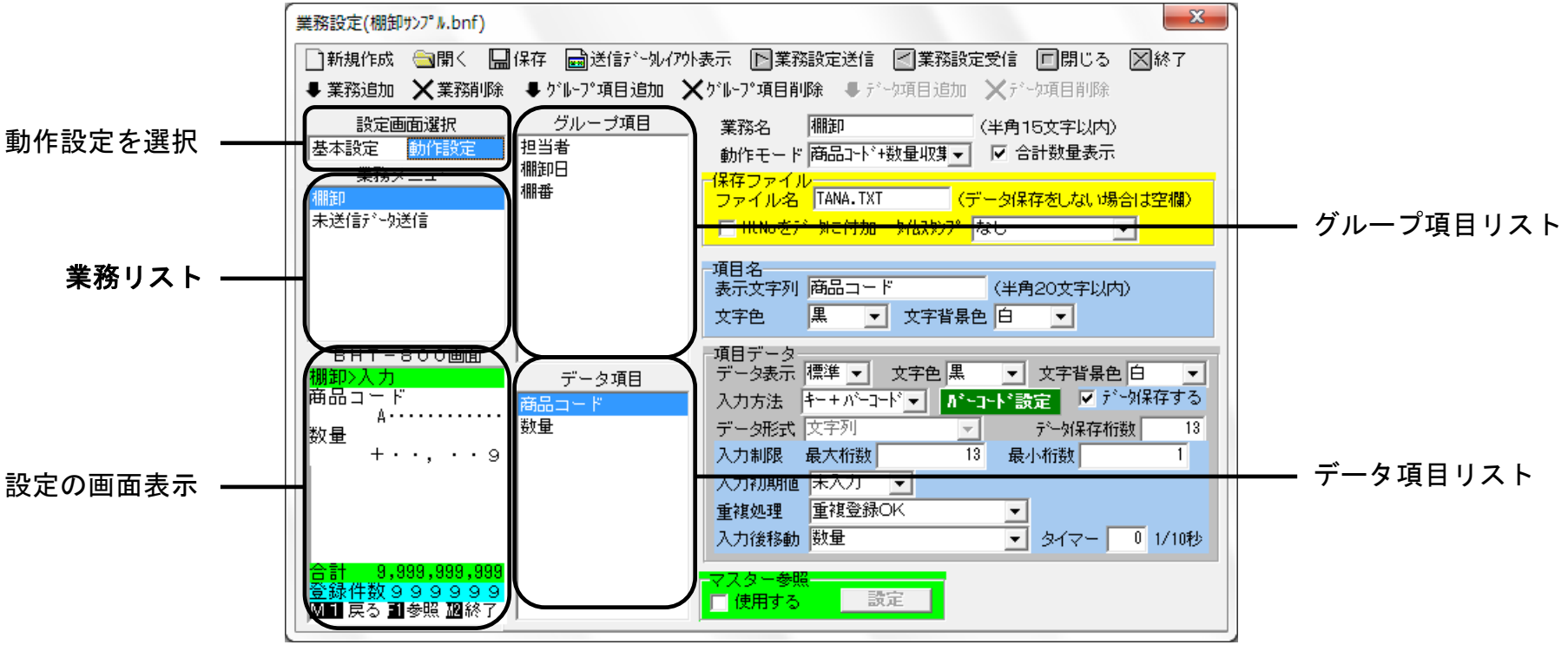
１１）保存データ修正機能

☑ 保存ﾃﾞｰﾀ修正機能　ここをチェックすることにより、処理メニューの訂正，データ入力における保存データの参照画面でデータ変更／削除が可能になります。



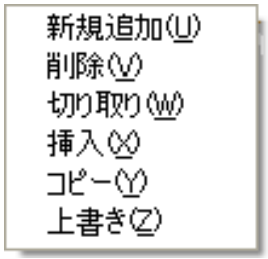
２－３－５ 動作設定

設定画面選択の［**動作設定**］をマウスポイントで選択してください。



１）業務メニューのポップアップメニュー

マウスポイントを業務リストに移動して、マウスの右ボタンをクリックすると、下図のポップアップメニューを表示します。新規追加，削除，切り取り，挿入，コピー，上書き　から選択して左ボタンをクリックします。

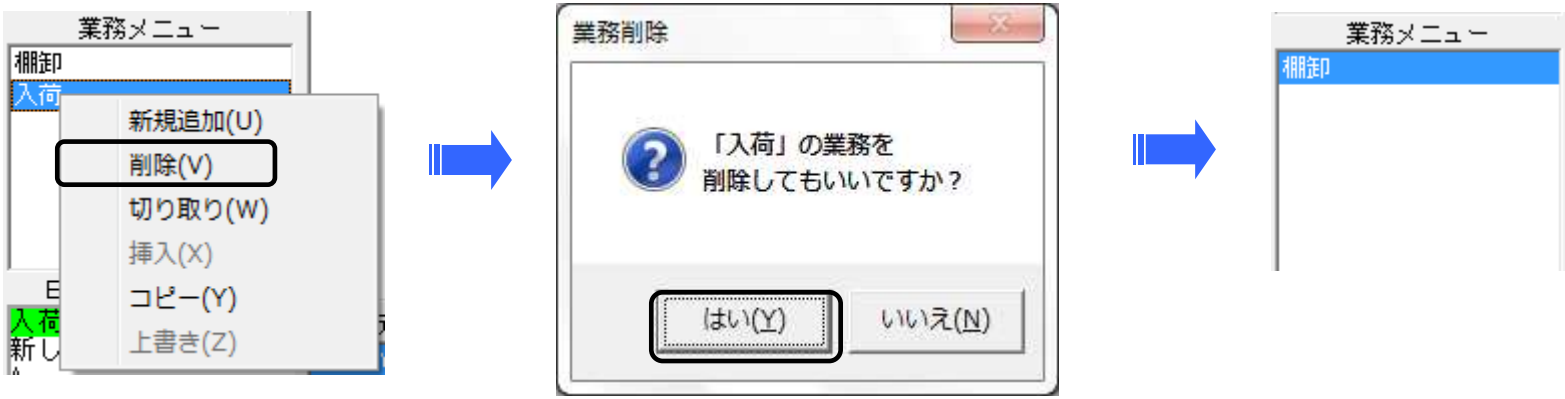


① 業務の新規追加

ポップアップメニューの「**新規追加**」をクリックすると、「業務追加」ダイアログを表示します。必要な項目に入力して「確定」ボタンをクリックすると業務を新規追加します。

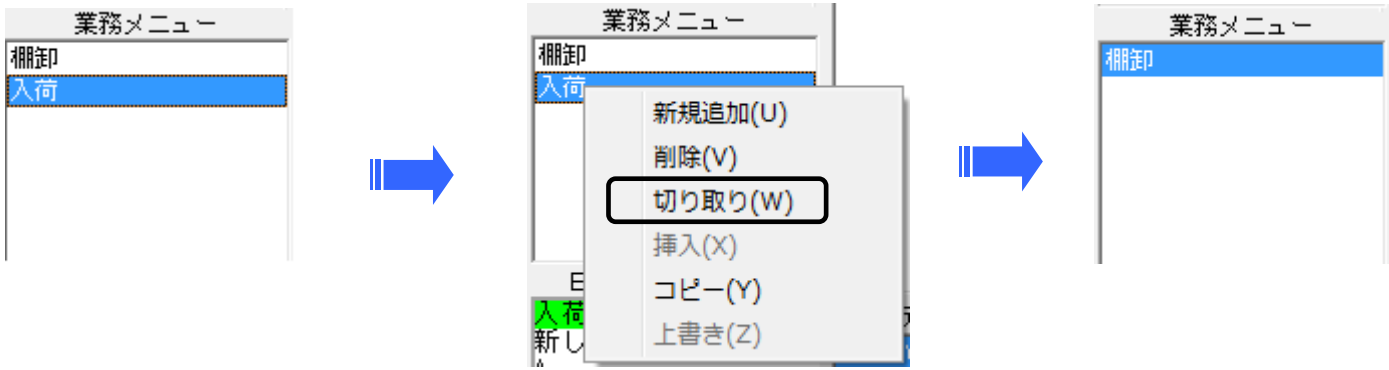
② 業務の削除

削除する業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**削除**」をクリックすると、選択した業務の設定データを削除します。業務設定が１つの場合は削除できません。



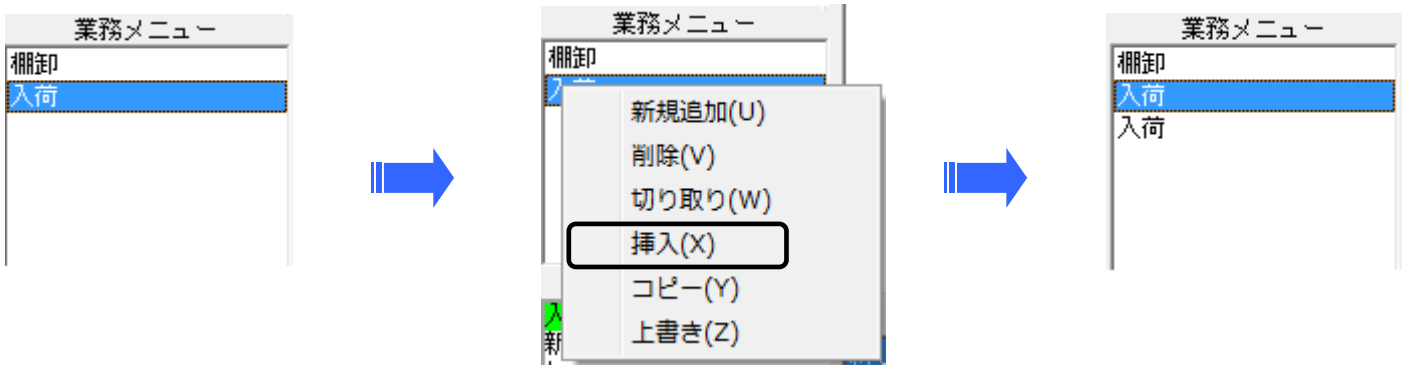
③ 業務の切り取り

切り取る業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**切り取り**」をクリックすると、選択した業務の設定データを切り取り、バッファーにコピーします。業務設定が１つの場合は切り取りできません。



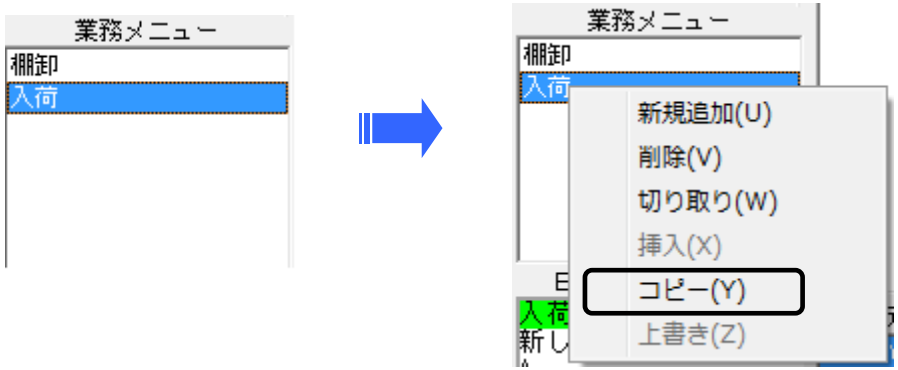
④ 業務の挿入

業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**挿入**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファーにコピーされた業務の設定データを、選択した業務の前に挿入します。



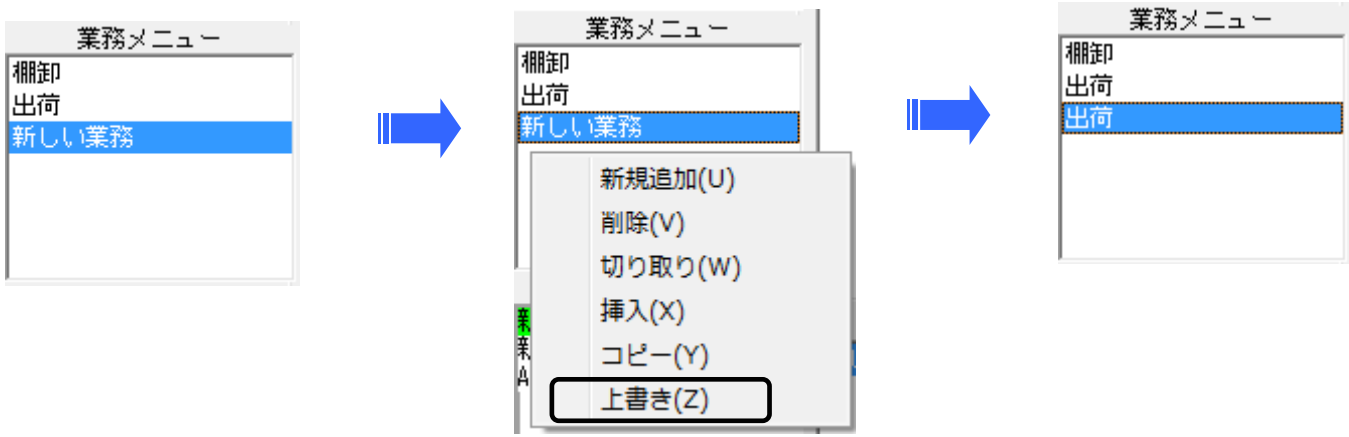
⑤ 業務のコピー

コピーする業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**コピー**」をクリックすると、選択した業務の設定データをバッファーにコピーします。



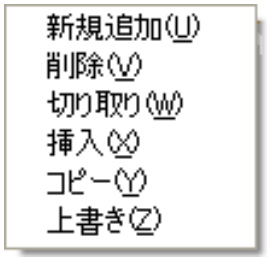
⑥ 業務の上書き

業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**上書き**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファーにコピーされた業務の設定データを、選択した業務に設定を上書きします。



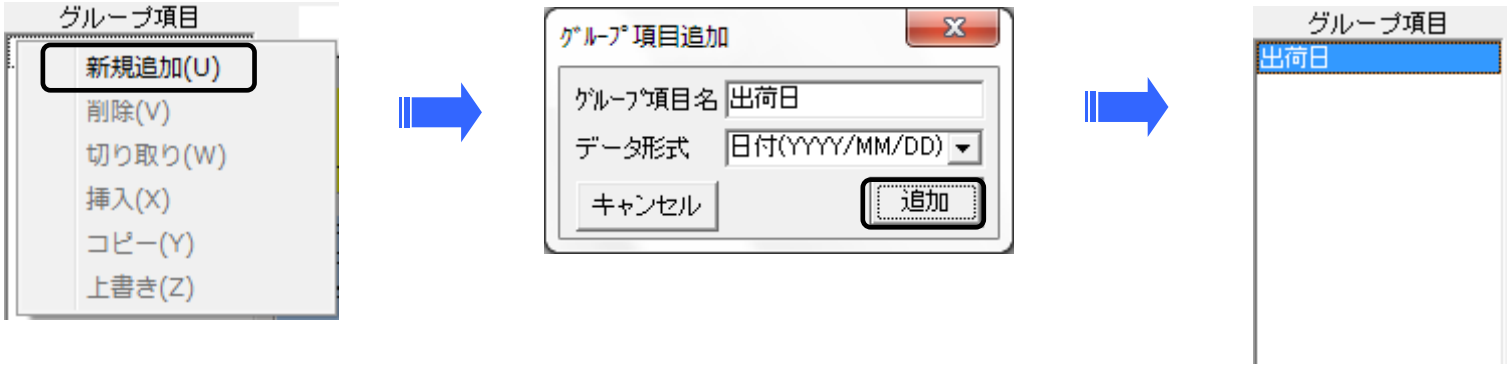
2）グループ項目のポップアップメニュー

マウスポイントをグループ項目リストに移動して、マウスの右ボタンをクリックすると、下図のポップアップメニューを表示します。新規追加，削除，切り取り，挿入，コピー，上書き　から選択して左ボタンをクリックします。



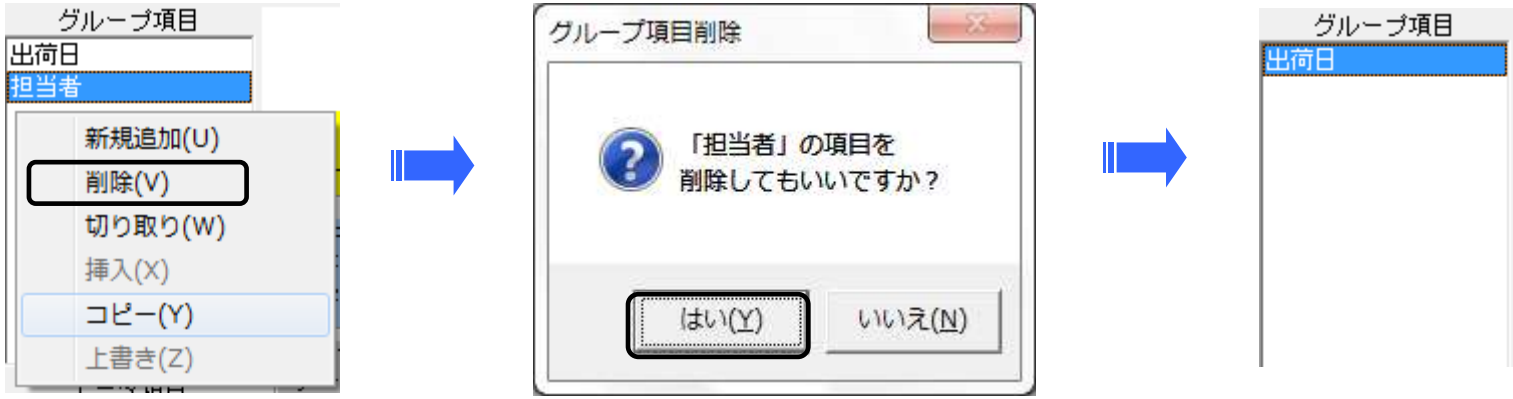
① グループ項目の新規追加

ポップアップメニューの「**新規追加**」をクリックすると、「新しいｸﾞﾙｰﾌﾟ項目」というグループ項目設定データを追加します。入力した項目名でグループ項目を新規追加します。



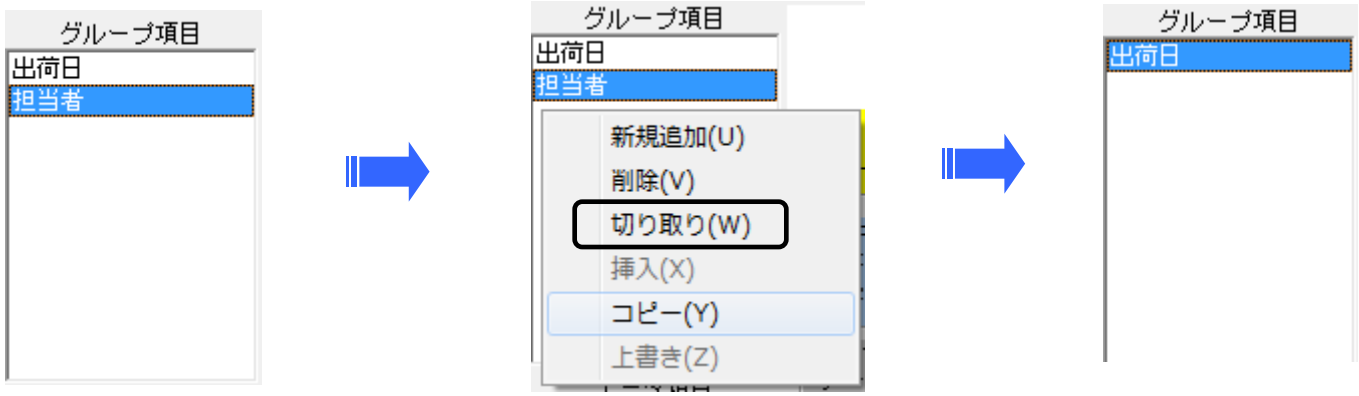
② グループ項目の削除

削除するグループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**削除**」をクリックすると、選択したグループ項目の設定データを削除します。



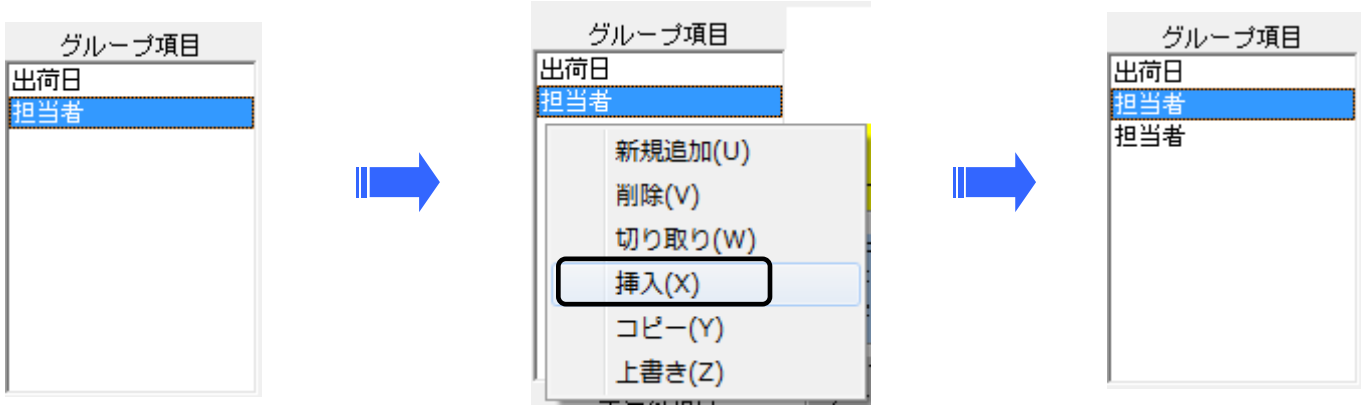
③ グループ項目の切り取り

切り取るグループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**切り取り**」をクリックすると、選択したグループ項目の設定データを切り取り、バッファーにコピーします。



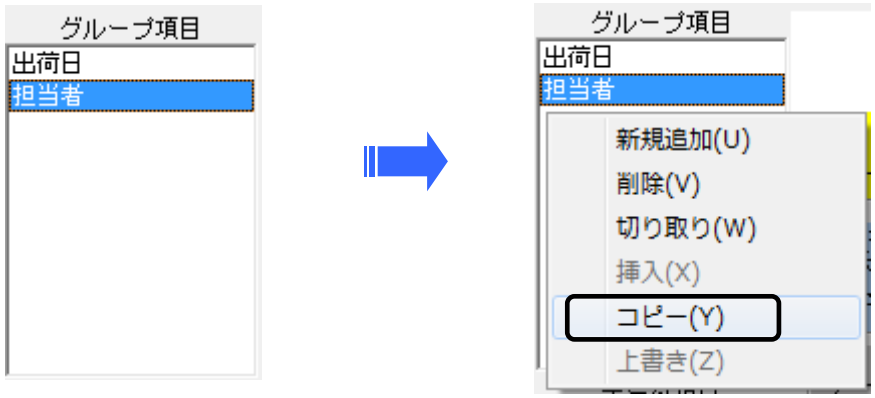
④ グループ項目の挿入

グループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**挿入**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファーにコピーされたグループ項目の設定データを、選択したグループ項目の前に挿入します。



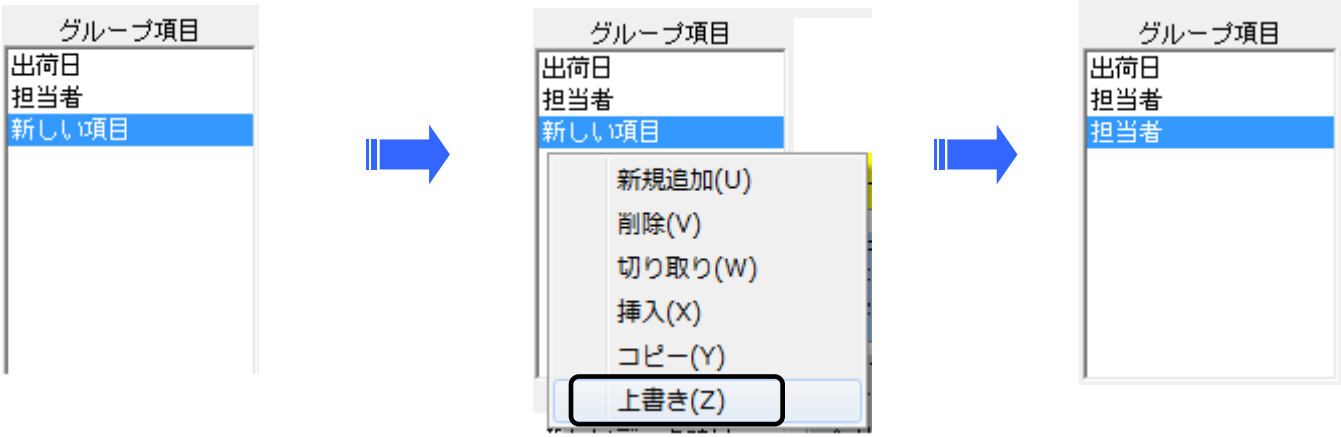
⑤ グループ項目のコピー

コピーするグループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**コピー**」をクリックすると、選択したグループ項目の設定データをバッファーにコピーします。



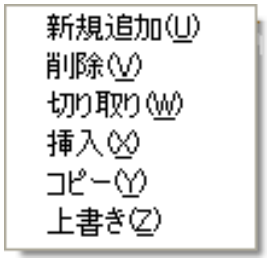
⑥ グループ項目の上書き

グループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**上書き**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファーにコピーされたグループ項目の設定データを、選択したグループ項目に上書きします。



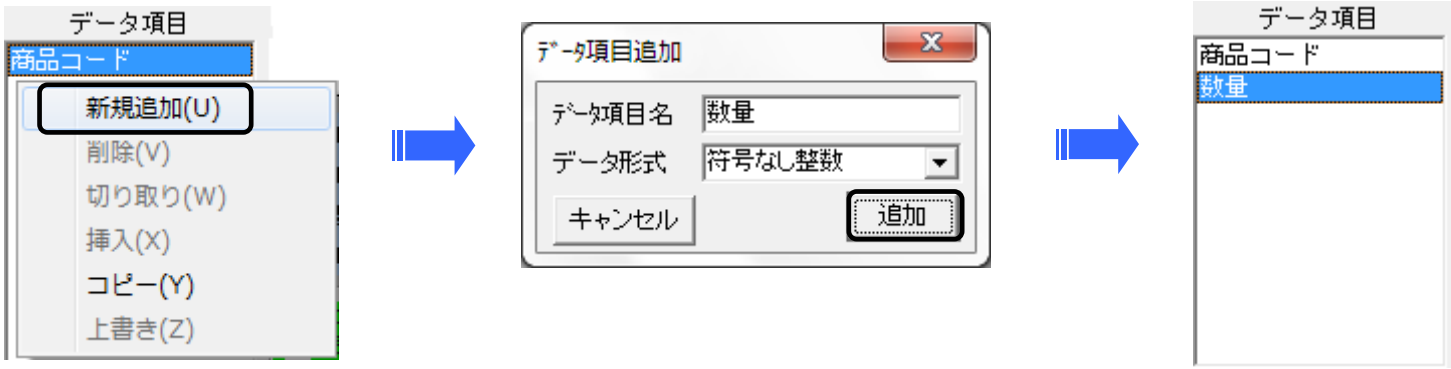
3）データ項目のポップアップメニュー

マウスポイントをデータ項目リストに移動して、マウスの右ボタンをクリックすると、下図のポップアップメニューを表示します。新規追加，削除，切り取り，挿入，コピー，上書き　から選択して左ボタンをクリックします。



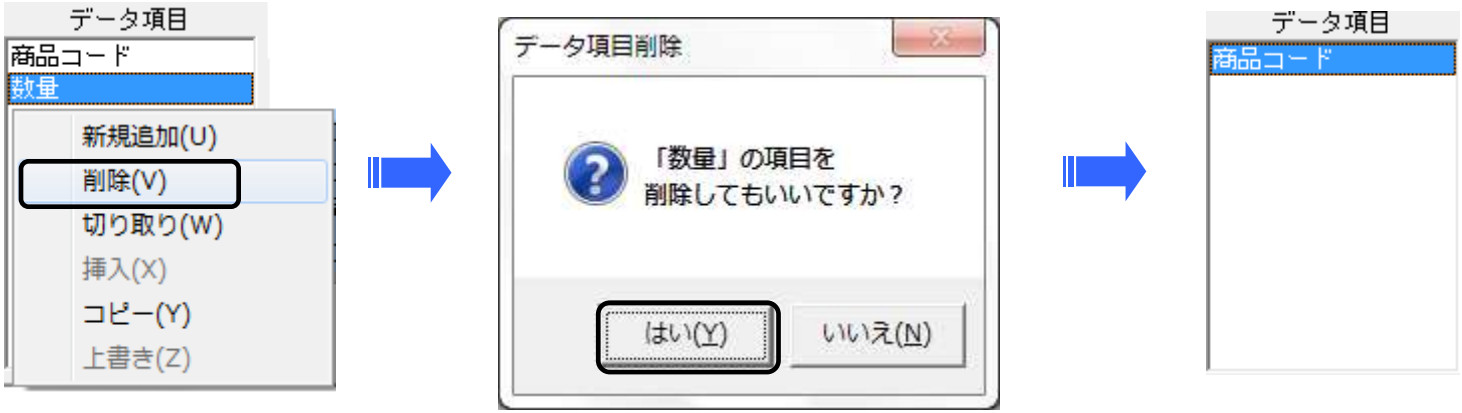
① データ項目の新規追加

ポップアップメニューの「**新規追加**」をクリックすると、「新しいデータ項目」というデータ項目設定データを追加します。入力した項目名でデータ項目を新規追加します。



② データ項目の削除

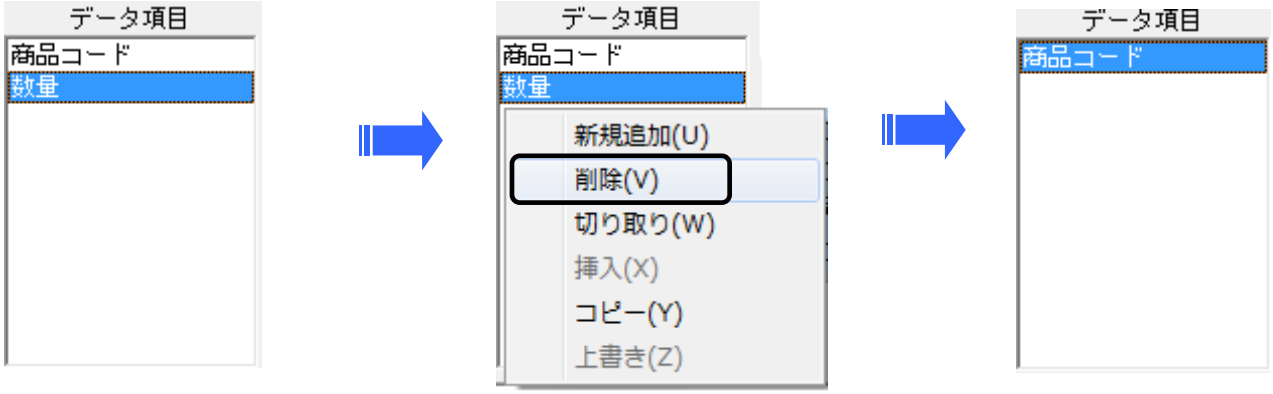
削除するデータ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**削除**」をクリックすると、選択したデータ項目の設定データを削除します。データ項目が１つの場合は削除できません。



株式会社ＳＳＳＴ

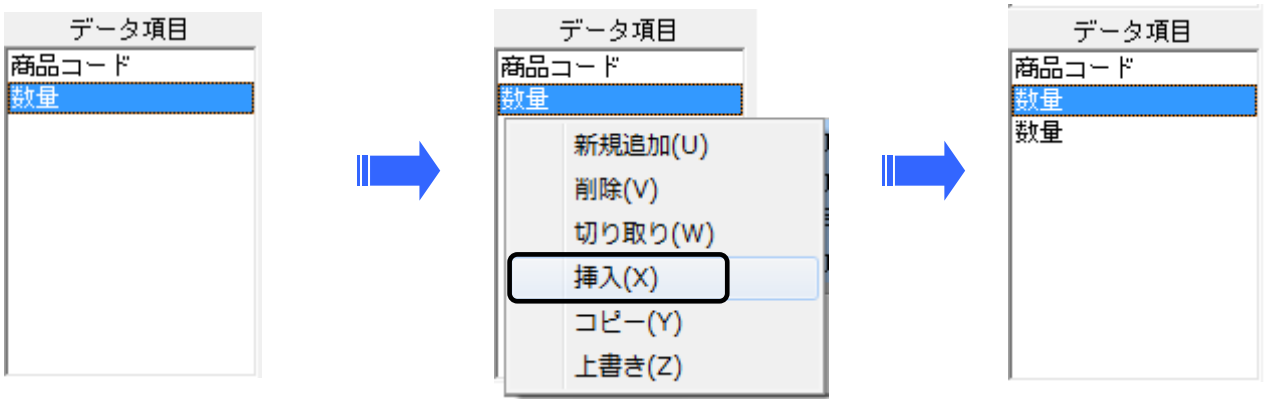
③ データ項目の切り取り

切り取るデータ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**切り取り**」をクリックすると、選択したデータ項目の設定データを切り取り、バッファーにコピーします。データ項目が１つの場合は切り取りできません。



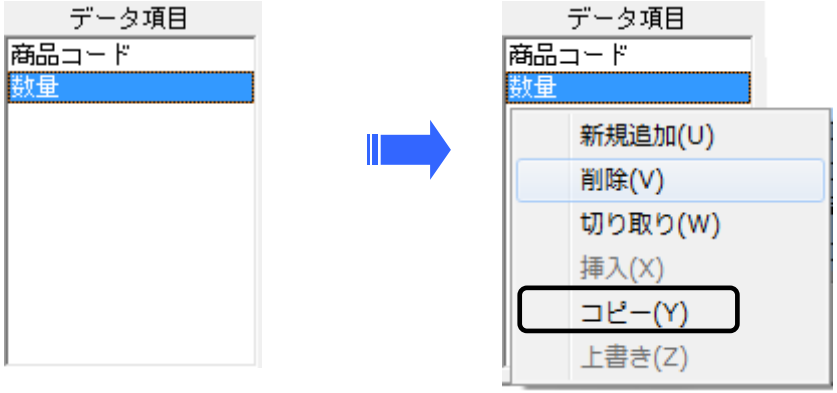
④ データ項目の挿入

データ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**挿入**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファーにコピーされたデータ項目の設定データを、選択したデータ項目の前に挿入します。



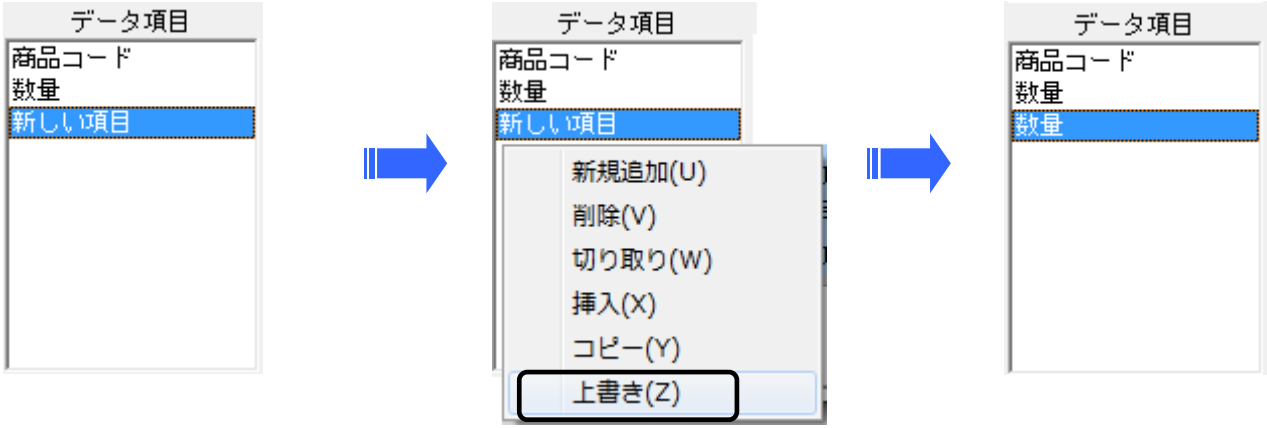
④ データ項目のコピー

コピーするデータ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**コピー**」をクリックすると、選択したデータ項目の設定データをバッファーにコピーします。



⑤ データ項目の上書き

データ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**上書き**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファーにコピーされたデータ項目の設定データを、選択したデータ項目に上書きします。



４）設定データ

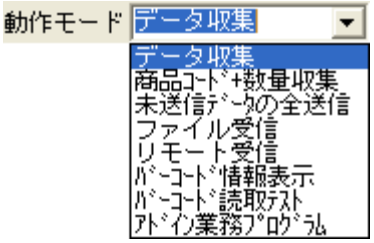
Ａ）業務名

業務メニューに表示する文字列を、全角の場合７文字以内、半角の場合１５文字以内で入力します。

業務名 [　　] （半角15文字以内）

Ｂ）動作モード

動作モードにより設定データ項目が異なります。



動作モード	説明
データ収集	キー入力，バーコード入力のデータを収集します。
商品ｺｰﾄﾞ+数量収集	商品コードと数量に限定したデータを収集します。
未送信ﾃﾞｰﾀの全送信	未送信の業務データをすべて送信します。
ファイル受信	データファイル，プログラムファイルを受信します。
リモート受信	BhtYmCom.exe 通信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑでﾌｧｲﾙをﾘﾓｰﾄ受信できます。
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ情報表示	バーコードのデータとマスター検索による参照データを表示します。
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ読取ﾃｽﾄ	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞを読取り、ﾊﾞｰｺｰﾄﾞの種類，桁数，ﾃﾞｰﾀを表示します。
ｱﾄﾞｲﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	アドインプログラムを実行します。

ｉ）データ収集モード，商品コード＋数量収集モードとバーコード情報表示モードの設定

① 合計数量表示（商品コード＋数量収集モードのみ）

グループ内の合計数量を下から３行目に符号付き１０桁で表示します。

② ファイル名（データ収集モードと商品コード＋数量収集モード）

収集したデータを保存するファイル名を入力します。業務ごとに重複しないように、下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字１～８文字＞．＜拡張子（大文字半角英数字１～３文字）＞

拡張子は省略してもかまいませんが、省略する場合は「ピリオド」をつけないでください。次に示す拡張子は使用しないでください。

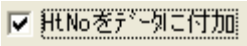
（PD@，PD@，EX@，FN@，BM@，JP@，FLD，EXE，BAT，DLL，TMP　@は 0～9 の数字１文字）

保存ファイル
ファイル名 [　　] （データ保存をしない場合は空欄）

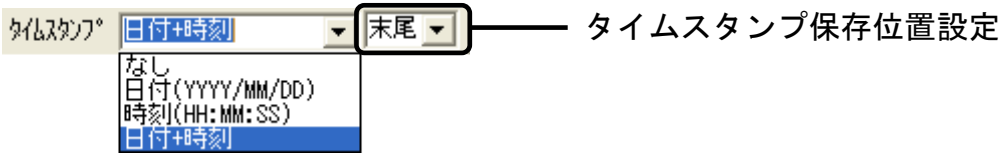
●データを保存しない場合は、空欄にします。
●ファイル名に**シリアルＮｏ**を埋め込みたい場合は、「＊」を入れてください。例えば、「ＴＡ＊＊＊＊.ＤＡＴ」と設定した場合は、シリアルＮｏの下４桁が「＊＊＊＊」のところに入ります、シリアルＮｏはファイルが新規作成されると更新します。
●ファイル名に**ＨｔＮｏ**を埋め込みたい場合は、「#」を入れてください。例えば、「ＴＡ＃＃＃＃.ＤＡＴ」と設定した場合は、ＨｔＮｏの下４桁が「＃＃＃＃」のところに入ります、ＨｔＮｏはハンディターミナルの「サブメニュー」－「３．ＨｔＮｏ設定」で設定します。

② ＨｔＮｏをデータに付加（データ収集モードと商品コード＋数量収集モード）

これをチェックするとデータの先頭に「ＨｔＮｏ」４桁を付加します。「ＨｔＮｏ」はハンディターミナルの「サブメニュー」－「３．ＨｔＮｏ設定」で設定します。



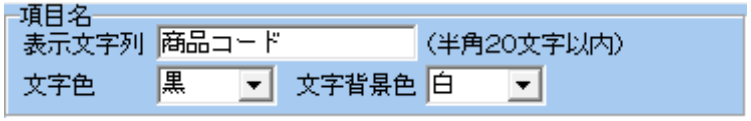
③ タイムスタンプ（データ収集モードと商品コード＋数量収集モード）



タイムスタンプ	説明
なし	タイムスタンプをしません。
日付（YYYY/MM/DD）	データ登録/変更時に日付（ＹＹＹＹ/MM/ＤＤ）を付加します。
時刻（HH:MM:SS）	データ登録/変更時に時刻（ＨＨ：ＭＭ：ＳＳ）を付加します。
日付＋時刻	データ登録/変更時に日付＋時刻を付加します。

タイムスタンプ保存位置設定：　レコードの先頭に保存する場合は、「**先頭**」を設定する。
レコードの最後に保存する場合は、「**末尾**」を設定する。

④ 項目名



a) 表示文字列

入力項目名としてＨＴに表示される文字列を、全角の場合１０文字以内、半角の場合２０文字以内で入力します。

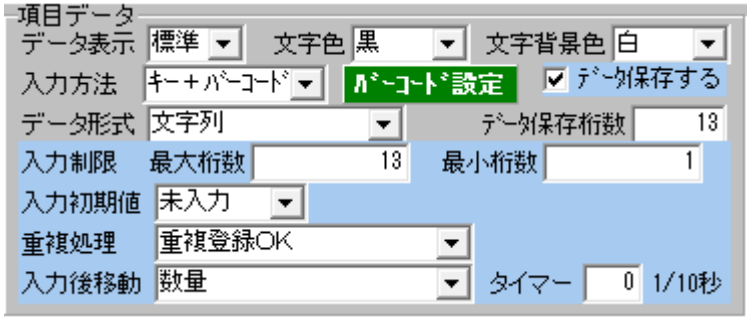
b) 文字色

表示する文字色を、黒，白，赤，緑，青，シアン，マゼンダ，黄　から選択します。

c) 文字背景色

表示する文字背景色を、黒，白，赤，緑，青，シアン，マゼンダ，黄　から選択します。

⑤ 項目データ



ａ）データ表示

表示文字を**標準**，**横倍**　から選択します。
符号なし整数９桁以上，符号付き実数９桁以上（符号を含む），金額８桁以上の場合、**横倍**を設定できません。

ｂ）文字色

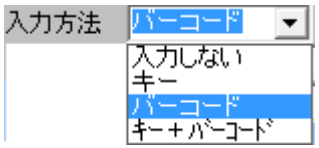
表示する文字色を、黒，白，赤，緑，青，シアン，マゼンダ，黄　から選択します。

ｃ）文字背景色

表示する文字背景色を、黒，白，赤，緑，青，シアン，マゼンダ，黄　から選択します。

d）入力方法

項目データのキー入力，バーコード読取を選択します。**バーコード**または**キー＋バーコード**を選択すると、右に**バーコード読取**ボタンを表示します。



入力方法	説明
入力しない	データを入力しない
キー	データをキー入力します。
バーコード	データをバーコード読取します。
きー＋バーコード	データをキーとバーコード読取で入力します。

e）データの保存

「**データ保存**」をチェックした項目のみデータを保存します。チェックしない項目は、入力データの表示または検査データの入力項目として動作します。

f）データ形式

データ形式	ｷｰ入力桁数	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ入力桁数	表示	保存データ
文字列	１～７２	１～３５００	左詰め表示	英数字
数字（0 詰め表示）	１～７２	１～７２ 英字はｴﾗｰ	先頭 0 詰め表示	先頭に 0 詰めして桁合わせする
数字（0 サプレス表示）	１～７２	１～７２ 英字はｴﾗｰ	右詰め表示	先頭に 0 詰めして桁合わせする
符号なし整数	１～１０	不可	右詰め表示	先頭に 0 詰めして桁合わせする
符号付き実数	１～１２	不可	右詰め表示	符号の次に 0 詰めして桁合わせする
金額	１～１０	不可	右詰め表示	先頭に 0 詰めして桁合わせする
日付(YYYY/MM/DD)	１０	不可	YYYY/MM/DD 右詰め表示	YYYY/MM/DD
日付(YY/MM/DD)	８	不可	YY/MM/DD 右詰め表示	YY/MM/DD
日付(MM/DD)	５	不可	MM/DD 右詰め表示	MM/DD
時刻(HH;MM)	５	不可	HH;MM 右詰め表示	HH;MM

ｇ）保存桁数（バーコード情報表示の場合はデータ桁数）

データを保存する桁数を設定します。

データ形式	保存桁数
文字列	１～３５００
数字（0 詰め表示）	１～７２
数字（0 サプレス表示）	１～７２
符号なし整数	１～１０
符号付き実数	２～１２ （符号，小数点を含む）
金額	１～１０
日付(YYYY/MM/DD)	１０
日付(YY/MM/DD)	８
日付(MM/DD)	５
時刻(HH:MM)	５

ｈ）入力制限（データ収集モードのみ）

データ形式が文字列，数字（0 詰め表示），数字（0 サプレス表示）の場合は、最大桁数と最小桁数の入力制限を、符号なし整数，符号付き実数，金額の場合は、最大値と最小値の入力制限を設定します。

入力桁数の制限外の入力の場合、「入力文字数エラー」を表示、入力値の制限外の入力の場合、「最大入力値ｵｰﾊﾞｰ」，「最小入力値エラー」を表示します。

データ形式	入力制限			
	最大桁数	最小桁数	最大値	最小値
文字列	１～３５００	１～３５００		
数字（0 詰め表示）	１～７２	１～７２		
数字（0 サプレス表示）	１～７２	１～７２		
符号なし整数			0～2,147,483,647	0～2,147,483,647
符号付き実数			-2,147,483,647 ～2,147,483,647	-2,147,483,647 ～2,147,483,647
金額			0～2,147,483,647	0～2,147,483,647

ｉ）入力初期値（データ収集モードと商品コード＋数量収集モード）

グループ項目データ：処理メニューからグループ項目入力画面を表示するとき初期化します。

データ項目データ：　処理メニューまたはグループ項目からデータ項目入力画面を表示するときと、次のデータ入力のときに初期化します。

入力初期値	説明
未入力	初期値が未入力になります。
設定値	これを選択して初期値にする設定値を右表にしたがって入力します。
前回の入力	前回の入力値を
システム日付	データ形式が日付の場合システム日付を初期値にします。
システム時刻	データ形式が時刻の場合システム時刻を初期値にします。

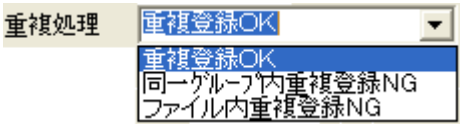
データ形式	設定値
文字列	最大入力桁数以下で６４桁以下の英数字
数字（0 詰め表示）	最大入力桁数以下で６４桁以下の数字
数字（0 サプレス表示）	最大入力桁数以下で６４桁以下の数字
符号なし整数	入力制限範囲内の値
符号付き実数	入力制限範囲内の値
金額	入力制限範囲内の値
日付(YYYY/MM/DD)	ＹＹＹＹ／ＭＭ／ＤＤの形式で入力
日付(YY/MM/DD)	ＹＹ／ＭＭ／ＤＤの形式で入力
日付(MM/DD)	ＭＭ／ＤＤの形式で入力
時刻(HH;MM)	ＨＨ：ＭＭの形式で入力

ｊ）同一データの場合に数値を加算（データ収集モードと商品コード＋数量収集モードのデータ項目のみ）

データ項目の最後の項目のデータ形式に、「符号なし整数」または「符号付き実数」を設定した場合に、設定可能になります。「同一データの場合に数値を加算」を設定すると、グループ項目と最後の項目を除くデータ項目のデータと同じデータが既に保存されている場合、「符号なし整数」または「符号付き実数」の数値を保存された数値に加算します。

ｋ）重複処理（データ収集モードと商品コード＋数量収集モードのデータ項目のみ）

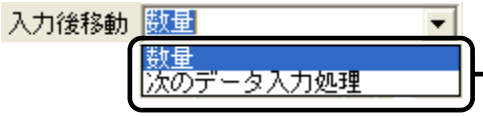
データ項目の最初の項目データの重複処理を設定します。



重複登録ＯＫ	重複登録できます。
同一ｸﾞﾙｰﾌﾟ内重複登録ＮＧ	同じグループにおける重複登録はエラーになります。
ファイル内重複登録ＮＧ	同じ業務における重複登録はエラーになります。

ｌ）入力後移動

入力後の次の入力項目を選択します。選択できる項目は、現在の項目以降の項目になります。前には戻れません。最後の項目の場合は、次のデータ入力処理になります。



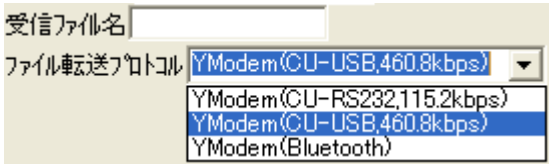
「設定した項目名」と「次のデータ入力処理」から選択します

ｍ）タイマー

次の入力項目へ移動するときの遅延タイマーです。入力後次の画面を表示するために、入力したデータやマスター参照により表示した文字列を確認できない場合に設定してください。**１／１０秒単位**で設定します。

ⅱ）ファイル受信モードの設定

受信ファイル名で設定したファイルを指定のファイル転送プロトコルで受信します。



① 受信ファイル名

受信するファイル名を入力します。設定ファイル以外の受信はエラーになります。未入力の場合は送られてきたファイルを受信できます。下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字１～８文字＞．＜拡張子（大文字半角英数字１～３文字）＞

拡張子は省略してもかまいませんが、省略する場合は「ピリオド」をつけないでください。次に示す拡張子は使用しないでください。（FLD，EXE，BAT，DLL，TMP）

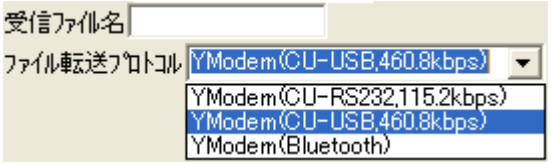
「ＡＳＴＰＫ８００．ＰＤ４」は受信できませんので入力しないでください。

② ファイル転送プロトコル

ﾌｧｲﾙ転送ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	通信ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	通信ｽﾋﾟｰﾄﾞ	通信ﾎﾟｰﾄ/通信ﾕﾆｯﾄ
YModem(CU-RS232,115.2kbps)	YModem	１１５．２ｋｂｐｓ	BHT-800 の IrDaI/F ⇔ PC の通信ﾎﾟｰﾄ ＣＵ－８０１とＣＵ－８２１で通信できます。
YModem(CU-USB,460.8kbps)	YModem	４６０．８ｋｂｐｓ	BHT-800 の IrDaI/F ⇔ PC のＵＳＢ通信ﾎﾟｰﾄ ＣＵ－８２１を使用します。
YModem(Bluetooth)	YModem	－	BHT-800 の BluetoothI/F ⇔ PC の通信ﾎﾟｰﾄ
ｱﾄﾞｲﾝ通信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ１	→	→	使用するアドイン通信プログラムの取扱説明書に従って設定してください。
ｱﾄﾞｲﾝ通信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ２	→	→	同上

iii） リモート受信モードの設定

受信ファイル名で設定したファイルを指定のファイル転送プロトコルで BhtYmCom.exe 通信プログラムからリモート受信します。



① 受信ファイル名

受信するファイル名を入力します。設定ファイル以外の受信はエラーになります。未入力の場合は、業務設定送信時にエラーになります。下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字１～８文字＞．＜拡張子（大文字半角英数字１～３文字）＞

拡張子は省略してもかまいませんが、省略する場合は「ピリオド」をつけないでください。次に示す拡張子は使用しないでください。（FLD，EXE，BAT，DLL，TMP）

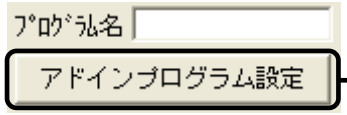
「ＡＳＴＰＫ８００．ＰＤ４」は受信できませんので入力しないでください。

② ファイル転送プロトコル

ﾌｧｲﾙ転送ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	通信ﾌﾟﾛﾄｺﾙ	通信ｽﾋﾟｰﾄﾞ	通信ﾎﾟｰﾄ/通信ﾕﾆｯﾄ
YModem(CU-RS232,115.2kbps)	YModem	１１５．２ｋｂｐｓ	BHT-800 の IrDaI/F ⇔ PC の通信ﾎﾟｰﾄ ＣＵ－８０１とＣＵ－８２１で通信できます。
YModem(CU-USB,460.8kbps)	YModem	４６０．８ｋｂｐｓ	BHT-800 の IrDaI/F ⇔ PC のＵＳＢ通信ﾎﾟｰﾄ ＣＵ－８２１を使用します。
YModem(Bluetooth,115.2kbps)	YModem	－	BHT-800 の BluetoothI/F ⇔ PC の通信ﾎﾟｰﾄ
ｱﾄﾞｲﾝ通信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 1	→	→	使用するアドイン通信プログラムの取扱説明書に従って設定してください。
ｱﾄﾞｲﾝ通信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 2	→	→	同上

ⅳ）アドイン業務プログラムモードの設定

設定したアドインプログラムを業務メニューから実行できるように設定します。



アドインプログラムに設定プログラムがある場合はここをクリックしてください

① プログラム名

アドインプログラム（拡張子．ＰＤ４）のファイル名を入力します。

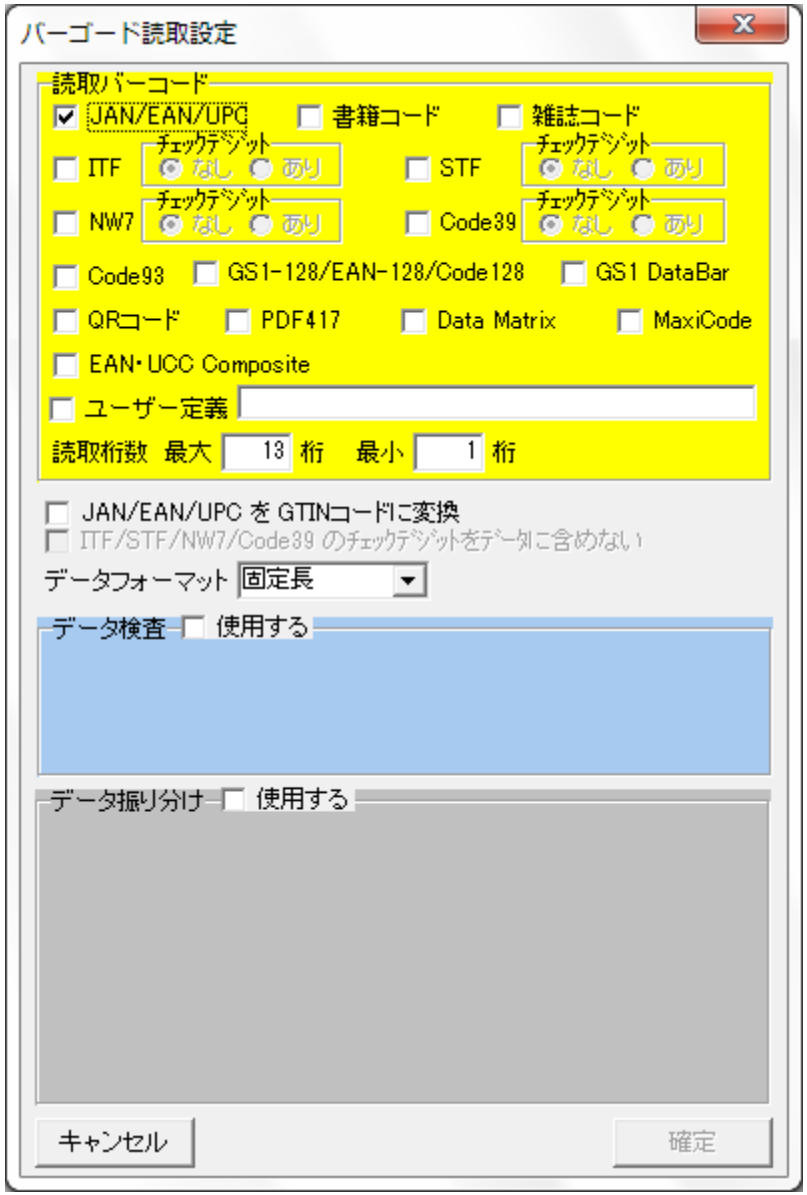
② アドインプログラム設定ボタン

プログラム名を設定してから［アドインプログラム設定］ボタンをクリックすると、アドインプログラムの設定プログラムが起動しますので、アドインプログラムの取扱説明書にしたがって設定してください。

５）バーコード読取（データ収集モードとバーコード情報表示モード）

データ形式が「文字列」，「数字(0 詰め表示)」，「数字(0 ｻﾌﾟﾚｽ表示)」で、入力方法が「バーコード」または「キー＋バーコード」の場合にバーコード読取を設定できます。バーコード読取を設定する場合は、バーコード読取のボタンをクリックしてください。

右の画面を表示しますので、「**読取バーコード**」，「**データ検査**」，「**データ振り分け**」 を設定します。



① 読取バーコード（データ収集モードとバーコード情報表示モード）

バーコード	備考
ＪＡＮ/ＥＡＮ/ＵＰＣ	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E ＋ アドオンコード
書籍コード	先頭９７のＪＡＮ－１３と先頭１９のＪＡＮ－１３の２段バーコート読取 読み取ったデータは、２６桁のデータになります。 注）ＪＡＮ/ＥＡＮ/ＵＰＣを同時に指定しないでください。
雑誌コード	先頭４９のＪＡＮ－１３＋アドオンコード５桁の合計１８桁のデータ 注）ＪＡＮ/ＥＡＮ/ＵＰＣを同時に指定しないでください。
ＩＴＦ（ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5)	チェックデジット（モジュラス１０）の設定可能
ＳＴＦ（ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ 2of5)	チェックデジット（モジュラス１０）の設定可能　（ＢＨＴ－８００Ｂのみ）
ＮＷ７	チェックデジット（モジュラス１６）の設定可能
Ｃｏｄｅ３９	チェックデジット（モジュラス４３）の設定可能 数字（０～９），英字（Ａ～Ｚ），６種類の記号とスペース
Ｃｏｄｅ９３	数字（０～９），英字（Ａ～Ｚ），６種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	ＧＳ１－１２８，ＵＣＣ／ＥＡＮ－１２８とＣｏｄｅ１２８ 数字（０～９），英字（Ａ～Ｚ，ａ～ｚ），記号
ＧＳ１ ＤａｔａＢａｒ	リミテッド，エクスパンデッド，エクスパンデッドスタック
ＱＲコード	マイクロＱＲ，ＱＲモデル１，ＱＲモデル２　（ＢＨＴ－８００Ｑのみ）
ＰＤＦ４１７	マイクロＰＤＦ４１７，ＰＤＦ４１７　（ＢＨＴ－８００Ｑのみ）
Data Matrix	正方形 Data Matrix，長方形 Data Matrix（ＢＨＴ－８００Ｑのみ）
MaxiCode	ＢＨＴ－８００Ｑのみ
EAN・UCC Composite	共通商品コード，ＥＡＮ－１２８，ＲＳＳのＣＯＭＰＯＳＩＴＥバーコード （ＢＨＴ－８００Ｑのみ）
ユーザー定義	２段バーコード，３バーコード(BHT-800Q のみ)の読取設定など、ユーザー独自に読取設定をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 ＜第 1 読み取りｺｰﾄﾞ＞，＜第 2 読み取りｺｰﾄﾞ＞，・・・・・・，＜第 20 読み取りｺｰﾄﾞ＞ 不正な設定をすると、ＨＴプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。

【 読取バーコードのユーザー定義設定 】

ＢＨＴ－ＢＡＳＩＣプログラミングマニュアル（ＢＨＴ－８００シリーズ用）より

読取バーコードのユーザー定義は、ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。
＜第１読み取りコード＞，＜第２読み取りコード＞，・・・・・・・・，＜第１６読み取りコード＞

■ 読み取りコード（ＢＨＴ－８００Ｂ）

読み取りコードには、共通商品コード（ＪＡＮ，ＥＡＮ，ＵＰＣ），インターリーブド2of５（ＩＴＦ），Ｃｏｄａｂａｒ（ＮＷ７），Ｃｏｄｅ３９，Ｃｏｄｅ９３，Ｃｏｄｅ１２８，スタンダード2of５（ＳＴＦ），ＲＳＳ があります。

□ 共通商品コード（ＪＡＮ，ＥＡＮ，ＵＰＣ）

書式：　A [:[**コード**] [**１文字目** [**２文字目**]] [**サプリメンタル**]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。
１文字目と**２文字目**は先頭文字（国フラグ）であり、０～９の数字で指定してください。
サプリメンタルにＳを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド2of５（ＩＴＦ）

書式：　I [: [**最小桁数** [-**最大桁数**]] [CD]

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CD にＣを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはＭＯＤ－１０によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Ｃｏｄａｂａｒ（ＮＷ７）

書式： N［:［**最小桁数**［-**最大桁数**］］［**スタート ストップ**］［CD］

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートと**ストップ**は、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, C または D を指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはＭＯＤ－１６によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Ｃｏｄｅ３９

書式： M［:［**最小桁数**［-**最大桁数**］］［CD］

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはＭＯＤ－４３によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Ｃｏｄｅ９３

書式： L［:［**最小桁数**［-**最大桁数**］］

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ ＧＳ１－１２８，ＥＡＮ－１２８，Ｃｏｄｅ１２８
書式： K［:［**最小桁数**［-**最大桁数**］］

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ スタンダード２of５（ＳＴＦ）
書式： H［:［**最小桁数**［-**最大桁数**］］［CD］［**スタート ストップ**］

最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。
CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはＭＯＤ－１０によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。
スタートと**ストップ**は、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準，短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。N を指定すると標準、S を指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

□ ＧＳ１ ＤａｔａＢａｒ（ＲＳＳ）
書式： R

■ 読み取りコード（ＢＨＴ－８００Ｑ）

読み取りコードには、２ＤコードのＱＲコード，ＰＤＦ４１７，ＭａｘｉＣｏｄｅ，ＤａｔａＭａｔｒｉｘ，ＥＡＮ・ＵＣＣ Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅおよび共通商品コード（ＪＡＮ，ＥＡＮ，ＵＰＣ），インターリーブド2of５（ＩＴＦ），Ｃｏｄａｂａｒ（ＮＷ７），Ｃｏｄｅ３９，Ｃｏｄｅ９３，Ｃｏｄｅ１２８，ＲＳＳ があります。

□ ＱＲコード

書式： Ｑ［:［**シンボル種別**［**最小コードバージョン**］［-**最大コードバージョン**］［**連結モード**］］］

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロＱＲ
M	ＱＲモデル１
L	ＱＲモデル２

シンボル種別を省略すると、マイクロＱＲ，ＱＲモデル１，ＱＲモデル２を読むことができます。

最小コードバージョンと**最大コードバージョン**は、読み取り可能なＱＲコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
１～４	S
１～２２	M
１～４０	L

最小コードバージョン≦最大コードバージョンでなければなりません。

最小コードバージョンと**最大コードバージョン**の両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでのＱＲコードを読み取ることができます。**最大コードバージョン**だけを省略すると、**最小コードバージョン**で指定したバージョンのＱＲコードしか読み取れません。

連結モードにＥを指定すると、最大１６分割されたＱＲコードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割されたＱＲコードシンボルの読み取りは禁止となります。

連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが２回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが１回鳴動し、最後のコードを読み取ると、３回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。
連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。
次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

・ 連結コードでないＱＲコードを読み取った場合
・ 別の連結コードをを読み取った場合
・ 読み取り口を３秒以上コードから外した場合
・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、ＱＲコード以外の読み取りは禁止となります。

□ ＰＤＦ４１７

書式： Y［:［**シンボル種別**］］

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロＰＤＦ４１７
M	ＰＤＦ４１７

シンボル種別を省略すると、マイクロＰＤＦ４１７，ＰＤＦ４１７を読むことができます。

□ ＭａｘｉＣｏｄｅ

書式： X

□ Ｄａｔａ Ｍａｔｒｉｘ

書式： Z［:［**シンボル種別**［**最小コード番号**］［-**最大コード番号**］］］

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形ＤａｔａＭａｔｒｉｘ
R	長方形ＤａｔａＭａｔｒｉｘ

シンボル種別を省略すると、正方形ＤａｔａＭａｔｒｉｘ，長方形ＤａｔａＭａｔｒｉｘを読むことができます。

最小コード番号と**最大コード番号**は、読み取り可能なＤａｔａＭａｔｒｉｘの最小と最大のコード番号で、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コード番号	シンボル種別
１～２４	S
１～６	R

最小コード番号 ≦ 最大コード番号でなければなりません。

最小コード番号と**最大コード番号**の両方を省略すると、各シンボル種別の最大コード番号までのＤａｔａＭａｔｒｉｘを読み取ることができます。**最大コード番号**だけを省略すると、**最小コード番号**で指定したコード番号のＤａｔａＭａｔｒｉｘしか読み取れません。コード番号とセル数の対応は以下の通りです。

正方形ＤａｔａＭａｔｒｉｘ

コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL
1	10 X 10	7	22 X 22	１３	44 X 44	１９	88 X 88
2	12 X 12	8	24 X 24	１４	48 X 48	２０	96 X 96
3	14 X 14	9	26 X 26	１５	52 X 62	２１	104 X 104
4	16 X 16	１０	32 X 32	１６	64 X 64	２２	120 X 120
5	18 X 18	１１	36 X 36	１７	75 X 72	２３	132 X 132
6	20 X 20	１２	40 X 40	１８	80 X 80	２４	144 X 144

長方形ＤａｔａＭａｔｒｉｘ

コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL
1	8 X 18	4	12 X 36
2	8 X 32	5	16 X 36
3	12 X 26	6	16 X 48

□ ＥＡＮ・ＵＣＣ Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ
書式： V

共通商品コード、ＥＡＮ－１２８、ＲＳＳのＣｏｍｐｏｓｉｔｅバーコードを読み取ることができます。

□ 共通商品コード（ＪＡＮ，ＥＡＮ，ＵＰＣ）
書式： A [:[コード] [１文字目 [２文字目]] [サプリメンタル]
コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。
１文字目と２文字目は先頭文字（国フラグ）であり、０～９の数字で指定してください。
サプリメンタルにＳを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド２of５（ＩＴＦ）
書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、最小桁数≦最大桁数でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。
CD にＣを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはＭＯＤ－１０によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Ｃｏｄａｂａｒ（NW7）
書式： N [: [最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、最小桁数≦最大桁数でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁

までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。
　スタートと**ストップ**は、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A，B，C または D を指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。
　CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはＭＯＤ－１６によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Ｃｏｄｅ３９
　書式：　M［:［**最小桁数**［-**最大桁数**］］［CD］

　最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。
　CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはＭＯＤ－４３によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Ｃｏｄｅ９３
　書式：　L［:［**最小桁数**［-**最大桁数**］］

　最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ ＧＳ１－１２８，ＥＡＮ－１２８，Ｃｏｄｅ１２８
　書式：　K［:［**最小桁数**［-**最大桁数**］］

　最小桁数と**最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。２～９９の値を指定できますが、**最小桁数≦最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から９９桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ ＧＳ１ ＤａｔａＢａｒ（ＲＳＳ）
書式： R

□ 多段コード読み取り
書式： &

多段コードを読み取るには、&を指定し、その後に続けて読み取るコードを指定します。段数は３段まで設定できます。
&，＜１段目読み取りコード＞，＜２段目読み取りコード＞，＜３段目読み取りコード＞と設定してください。
多段コードとして指定できる読み取りコードは、共通商品コード，インターリーブドof２５（ＩＴＦ），Ｃｏｄａｂａｒ（ＮＷ７），Ｃｏｄｅ３９，Ｃｏｄｅ９３，Ｃｏｄｅ１２８です。

（１）多段コード指定は１段で読む読み取りコードの指定とは独立しています。
例：共通商品コードＥＡＮ－８とＥＡＮ－１３の２段の場合
&,A:B,A:A
例：共通商品コードＥＡＮ－８を１段とＣｏｄｅ３９を２段の場合
A:B,&,M,M
２段コードは最後に指定します。
（２）２次元コードと多段コードを同時に指定で指定することができます。
例：ＱＲコードとＣｏｄｅ３９ ３段の場合
１０桁のコードでＣＤ付き」
Q,&,M,M,M
（３）多段コード指定では先頭の２文字を指定することで読み取り順序を指定することが可能です。
例：ＩＴＦ ３段（文字指定付き）次の順序で読み取る場合－「“１２”で始まるコード」，「“３４”で始まる６～１０桁のコードでＣＤ付き」，「“５６”で始まる１２桁のコード」
&,I:;12,I:6-10C;34,I:12;56
（４）コード種類が同じでデータも同じコードが含まれる場合は読み取りができません。
１段目 ＥＡＮ－１３ ４９１２３４５６７８９０１
２段目 ＥＡＮ－１３ １２０００００００００３
３段目 ＥＡＮ－１３ ４９１２３４５６７８９０１
上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。
&,A:A49,A:A12,A:A49

（５）コード種類，桁数，条件が同じ指定を１段読み取りと多段コード読み取りに指定した場合、１段コードは読み取りができません。
１段コード　ＥＡＮ－１３　４９０１２３４５６７８９４
多段コード　ＥＡＮ－１３　４９０９８７６５４３２１４
　　ＥＡＮ－１３　１２０００００００００３
上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。
A:A49,&,A:A49,A:A12
（５）多段コード指定ではＩＴＦは４桁未満のものを読み取ることができません。ただし、桁数を指定した場合は読み取ることができます。
（６）共通商品コードのサプリメンタルコードの多段コード指定はできません。

---

② 読取桁数

読取桁数の最大と最小を設定します。この範囲外のバーコードを読み取ると「バーコード桁数エラー」を表示した後、再入力待ちになります。

③ ＪＡＮ/ＥＡＮ/ＵＰＣをＧＴＩＮコードに変換

「JAN/EAN/UPC を GTIN コードに変換」をチェックすると、ＪＡＮ/ＥＡＮ/ＵＰＣのバーコードを読み取り、１３桁以下の場合、ＧＴＩＮコードに変換します。

④ ＩＴＦ/ＳＴＦ/NW7/Ｃｏｄｅ３９のチェックデジットをデータに含めない

「ITF/STF/NW7/Code39 のﾁｪｯｸﾃﾞｼﾞｯﾄをﾃﾞｰﾀに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 のバーコードデータの最後の１文字を削除します。チェックデジット「あり」に設定した場合のみ有効です。ユーザー定義の場合は無効です。

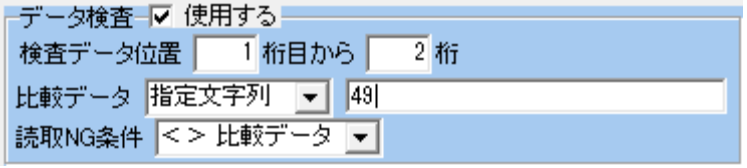
⑤ データフォーマット

バーコードのデータフォーマットを「固定長」，「カンマ区切り」，「スペース区切り」，「タブ記号区切り」，「ＣＲ記号区切り」，「ＡＩコード」から選択します。データ検査，データ振り分けの処理で使用します。

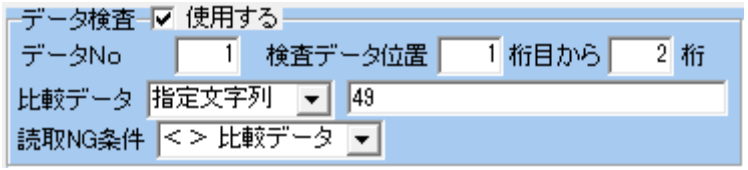
⑥ データ検査

「**使用する**」をチェックすると、設定項目を表示します。

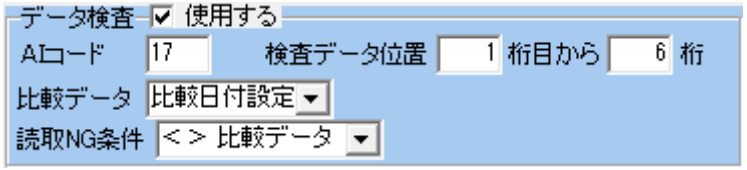
・データフォーマットが「固定長」の場合



・データフォーマットが「カンマ区切り」，「スペース区切り」，「タブ記号区切り」，「ＣＲ記号区切り」の場合



・データフォーマットが「ＡＩコード」の場合



ｉ）データＮｏ

「カンマ」，「スペース」，「タブ記号」，「ＣＲ記号」で区切られたデータの何番目のデータをチェックするか指定します。指定範囲は、１～９９ です。

例）１１１１，２２２２，３３３３，４４４４，・・・・・・・・

ﾃﾞｰﾀNo1　ﾃﾞｰﾀNo2　ﾃﾞｰﾀNo3　ﾃﾞｰﾀNo4

ⅱ）ＡＩコード

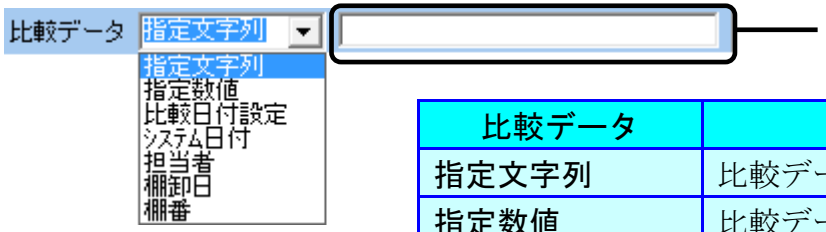
検査するデータのＡＩコードを**ＡＩコード表**から指定します。

ⅲ）検査データ位置，桁数

検査するデータの先頭の位置（１～３５００）と桁数（１～６０）を指定します。

ⅳ）比較データ

バーコードデータ検査に使用する比較データを設定します。



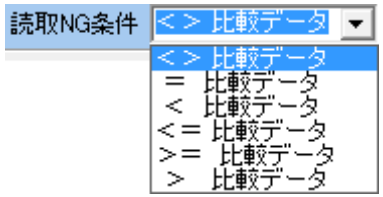
「指定文字列」と「指定数値」を選択した場合に表示します。

比較データ	説明
指定文字列	比較データとして半角６０桁以下の文字列を指定します。
指定数値	比較データとして半半角１０桁以下の数値を指定します。
比較日付設定	比較する日付はハンディターミナルの「比較日付設定」画面において設定します。
システム日付	比較する日付はシステム日付になります。
入力項目	設定した項目のデータと比較します。選択項目に設定した項目名を表示しますので比較データしたい項目名を選択してください。

ⅴ）読取ＮＧ条件

「＜＞ 比較データ」，「＝ 比較データ」，「＜ 比較データ」，「＜＝ 比較データ」，「＞＝ 比較データ」，「＞ 比較データ」の設定条件を満足した場合、警告メッセージを表示し、再入力待ちになります。

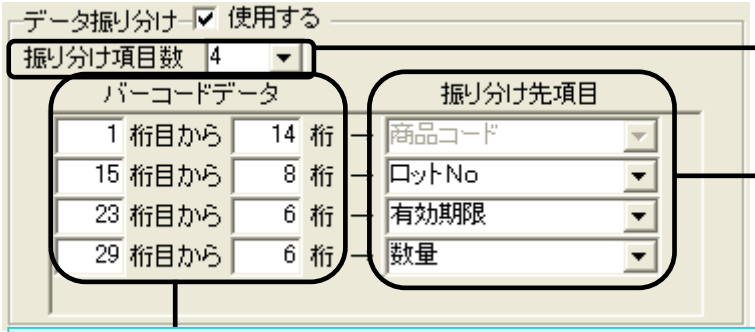
文字列データの場合は、文字コードの値で比較します。



⑦ データ振り分け

振り分け先の項目設定をしてからデータ振り分け設定をしてください。データ振り分け設定後に項目順番を変更すると、不具合が発生しますので注意してください。「**使用する**」をチェックすると、設定項目を表示します。

・データフォーマットが「固定長」の場合

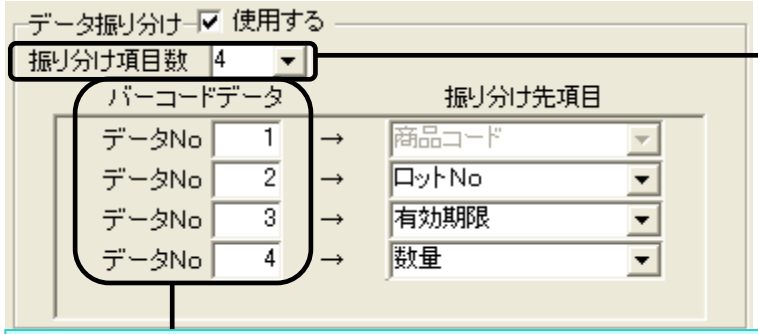


振り分け項目数を設定します。
バーコード読取項目から最後の項目までの項目数です。

バーコードを読取する項目とそれ以降の項目を、
振り分け先項目として設定します。

バーコードデータの何桁目から何桁のデータを、どの「振り分け先項目」へ保存するか設定します。
「振り分け先項目」の入力制限範囲外の場合は、「**ﾃﾞｰﾀ振り分けｴﾗｰ**」になります。

・データフォーマットが「カンマ区切り」，「スペース区切り」，「タブ記号区切り」，「ＣＲ記号区切り」の場合



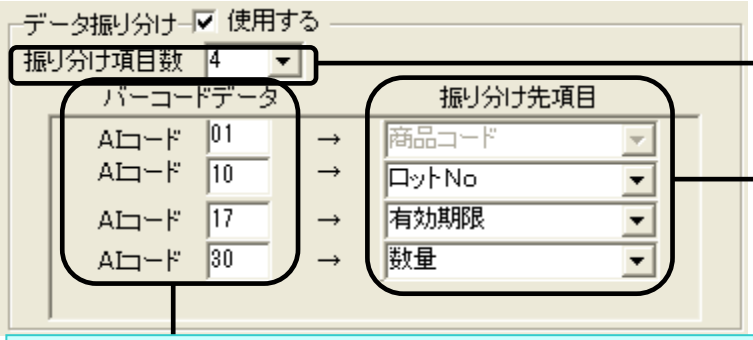
振り分け項目数を設定します。
バーコード読取項目から最後の項目までの項目数です。

データフォーマットがカンマ区切りの場合の
バーコードデータとデータＮｏの関係
１１１１，２２２２，３３３３，４４４４，・・・・・・・・
ﾃﾞｰﾀNo1　ﾃﾞｰﾀNo2　ﾃﾞｰﾀNo3　ﾃﾞｰﾀNo4

データＮｏが示すデータを、どの「振り分け先項目」へ保存か設定します。
「振り分け先項目」の入力制限範囲外の場合は、「**ﾃﾞｰﾀ振り分けｴﾗｰ**」になります。

・データフォーマットが「ＡＩコード」の場合

「AICODE.TBL」ファイルが必要です。このファイルがないと、データ振り分け処理時に「AICODE.TBL がない」というエラーメッセージを表示します。



振り分け項目数を設定します。
バーコード読取項目から最後の項目までの項目数です。

バーコードを読取する項目とそれ以降の項目を、
振り分け先項目として設定します。

ＡＩコードが示すデータを、どの「振り分け先項目」へ保存か設定します。
「振り分け先項目」の入力制限範囲外の場合は、「ﾃﾞｰﾀ振り分けｴﾗｰ」になります。

設定するＡＩコードは、ＡＩコード表から設定してください。振り分け先項目のデータ形式と最大入力桁数は、ＡＩコード表に示す値を設定してください。

●ＡＩコード表

分類		ＡＩコード	振り分けデータ	振り分け先	
				ﾃﾞｰﾀ形式	最大桁数
ｼﾘｱﾙ･ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞ･ｺﾝﾃﾅ･ｺｰﾄﾞ(SSCC)		００	数字固定長 18 桁ﾃﾞｰﾀ	文字列	１８
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾄﾚｰﾄﾞ･ｱｲﾃﾑ･ﾅﾝﾊﾞｰ(GTIN)		０１	数字固定長 14 桁の GTIN 商品コード	文字列	１４
		０２	数字固定長 14 桁の GTIN 商品コード	文字列	１４
バッチ・ロット番号		１０	英数字可変長最大 20 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	２０
年月日	製造年月日	１１	データ形式により異なります。 文字列　：YYMMDD 日付(YYYY/MM/DD)　：YYYY/MM/DD 日付(YY/MM/DD)　：YY/MM/DD 日付(MM/DD)　：MM/DD	文字列	６
	支払期限日	１２		日付(YYYY/MM/DD)	１０
	包装年月日	１３		日付(YY/MM/DD)	８
	販売期限日	１５		日付(MM/DD)	５
	保証期限日	１７			
リニューアル商品		２０	数字固定長 2 桁ﾃﾞｰﾀ	文字列	２
連続番号		２１	英数字可変長最大 20 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	２０
		２２	英数字可変長最大 29 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	２９
		２３	英数字可変長最大 19 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１９
		２４０	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
		２４１			
		２５０			
原材料参照番号		２５１	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
数量		３０	数字可変長最大 8 桁のﾃﾞｰﾀ	符号なし整数	８
計量単位	正味重量(kg)	３１０	数字固定長 7 桁ﾃﾞｰﾀ(小数点を含む) 小数点がない場合は先頭に 0 を追加する。	符号付き実数 (小数点がない場合は符号なし整数も可能)	７
	長さ(m)	３１１			
	幅(m)	３１２			
	高さ(m)	３１３			
	面積(m2)	３１４			
	容量(l)	３１５			

分類		ＡＩコード	振り分けデータ	振り分け先	
				ﾃﾞｰﾀ形式	最大桁数
計量単位	体積(m3)	３１６	数字固定長７桁ﾃﾞｰﾀ(小数点を含む) 小数点がない場合は先頭に０を追加する。	符号付き実数 (小数点がない場合は符号なし整数も可能)	7
	正味重量(ﾎﾟﾝﾄﾞ)	３２０			
	長さ(ｲﾝﾁ)	３２１			
	長さ(ﾌｨｰﾄ)	３２２			
	長さ(ﾔｰﾄﾞ)	３２３			
	幅(ｲﾝﾁ)	３２４			
	幅(ﾌｨｰﾄ)	３２５			
	幅(ﾔｰﾄﾞ)	３２６			
	高さ(ｲﾝﾁ)	３２７			
	高さ(ﾌｨｰﾄ)	３２８			
	高さ(ﾔｰﾄﾞ)	３２９			
	全体の重量(ﾎﾟﾝﾄﾞ)	３３０			
	長さ(ﾒｰﾄﾙ換算)	３３１			
	幅(ﾒｰﾄﾙ換算)	３３２			
	高さ(ﾒｰﾄﾙ換算)	３３３			
	面積(ﾒｰﾄﾙ換算)	３３４			
	全体の容量(ﾒｰﾄﾙ換算)	３３５			
	全体の体積(ﾒｰﾄﾙ換算)	３３６			
	圧力(kg/m2)	３３７			
	全体の重量(ﾎﾟﾝﾄﾞ)	３４０			
	長さ(ｲﾝﾁ換算)	３４１			
	長さ(ﾌｨｰﾄ換算)	３４２			
	長さ(ﾔｰﾄﾞ換算)	３４３			
	幅(ｲﾝﾁ換算)	３４４			
	幅(ﾌｨｰﾄ換算)	３４５			

分類		ＡＩコード	振り分けデータ	振り分け先	
				ﾃﾞｰﾀ形式	最大桁数
計量単位	幅(ﾔｰﾄﾞ換算)	３４６	数字固定長 7 桁ﾃﾞｰﾀ(小数点を含む) 小数点がない場合は先頭に 0 を追加する。	符号付き実数 (小数点がない場合は符号なし整数も可能)	7
	高さ(ｲﾝﾁ換算)	３４７			
	高さ(ﾌｨｰﾄ換算)	３４８			
	高さ(ﾔｰﾄﾞ換算)	３４９			
	面積(平方ｲﾝﾁ)	３５０			
	面積(平方ﾌｨｰﾄ)	３５１			
	面積(平方ﾔｰﾄﾞ)	３５２			
	面積(平方ｲﾝﾁ換算)	３５３			
	面積(平方ﾌｨｰﾄ換算)	３５４			
	面積(平方ﾔｰﾄﾞ換算)	３５５			
	正味重量(ﾄﾛｲｵﾝｽ)	３５６			
	容量(ｸｫｰﾄ)	３６０			
	容量(ｶﾞﾛﾝ)	３６１			
	全体の容量(ｸｫｰﾄ)	３６２			
	全体の容量(ｶﾞﾛﾝ)	３６３			
	体積(立方ｲﾝﾁ)	３６４			
	体積(立方ﾌｨｰﾄ)	３６５			
	体積(立方ﾔｰﾄﾞ)	３６６			
	全体の体積(立方ｲﾝﾁ)	３６７			
	全体の体積(立方ﾌｨｰﾄ)	３６８			
	全体の体積(立方ﾔｰﾄﾞ)	３６９			
数量		３７	数字可変長最大 8 桁のﾃﾞｰﾀ	符号なし整数	８
金額(各国通貨)		３９０	数字可変長最大 16 桁のﾃﾞｰﾀ	符号付き実数	１６
金額(ISO 通貨ｺｰﾄﾞ)		３９１	通貨ｺｰﾄﾞ 3 桁数字+数字可変長最大 19 桁のﾃﾞｰﾀ	符号付き実数	２２
計量商品金額(各国通貨)		３９２	数字可変長最大 16 桁のﾃﾞｰﾀ	符号付き実数	１６

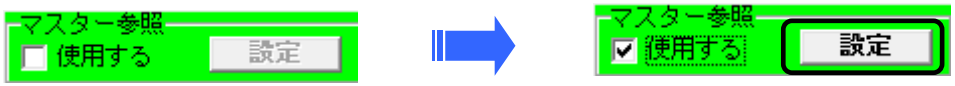
分類	ＡＩコード	振り分けデータ	振り分け先	
			ﾃﾞｰﾀ形式	最大桁数
計量商品金額(ISO 通貨ｺｰﾄﾞ)	３９３	通貨ｺｰﾄﾞ 3 桁数字+数字可変長最大 19 桁のﾃﾞｰﾀ	符号付き実数	２２
顧客発注番号	４００	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
商品託送番号	４０１	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
出荷ＩＤ番号	４０２	数字固定長最大 18 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１８
追跡コード	４０３	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾛｹｰｼｮﾝ･ﾅﾝﾊﾞｰ（企業，事業所，特定場所の表示）	４１０	数字固定長 13 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１３
	４１１			
	４１２			
	４１３			
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾛｹｰｼｮﾝ･ﾅﾝﾊﾞｰ（企業，事業所，特定場所の表示）	４１４	数字固定長 13 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１３
	４１５			
国内の送り先所在地コード	４２０	英数字可変長最大 9 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	９
国外の送り先所在地コード	４２１	国別ｺｰﾄﾞ 3 桁+英数字可変長最大 9 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１２
ＩＳＯ原産国コード	４２２	数字固定長 3 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３
商品加工国コード(複数)	４２３	数字可変長最大 15 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１５
商品加工国コード(単独)	４２４	数字固定長 3 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３
商品消費国コード	４２５	数字固定長 3 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３
商品全体処理国コード	４２６	数字固定長 3 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３
ＮＡＴＯストックナンバー	７００１	分類ｺｰﾄﾞ数字 4 桁+承認国番号数字 2 桁+連続番号数字 7 桁	文字列	１３
枝肉番号・カット規格番号	７００２	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
屠蓄施設・加工施設承認番号	７０３	施設承認番号 1 桁+国別ｺｰﾄﾞ 3 桁+英数字可変長最大 27 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３１
計量単位	８００１	数字固定長 14 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１４

JCSTEST

分類	ＡＩコード	振り分けデータ	振り分け先	
			ﾃﾞｰﾀ形式	最大桁数
携帯電話ｼﾘｱﾙ番号	８００２	英数字可変長最大 20 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	２０
返品管理番号	８００３	出荷ｺﾝﾃﾅｺｰﾄﾞ数字 14 桁+梱包番号 英数字か偏重最大 16 桁	文字列	３０
シリアル番号	８００４	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
単価表示	８００５	数字固定長 6 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列 符号なし整数 金額	６
４構成部品の管理番号	８００６	数字固定長 18 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１８
国際銀行アカウント番号	８００７	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
製造日・製造時刻	８００８	数字 8 桁+数字可変長最大 4 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１２
サービス関連番号	８０１８	数字固定長 18 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	１８
支払参照番号	８０２０	英数字可変長最大 25 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	２５
クーポン拡張コード	８１００	UPC ﾅﾝﾊﾞｰｼｽﾃﾑｷｬﾗｸﾀ数字 1 桁+申込番号数字 5 桁	文字列	６
	８１０１	UPC ﾅﾝﾊﾞｰｼｽﾃﾑｷｬﾗｸﾀ数字 1 桁+申込番号数字 5 桁+有効年月数字 4 桁(YYMM)	文字列	６
	８１０２	“0” +UPC ﾅﾝﾊﾞｰｼｽﾃﾑｷｬﾗｸﾀ数字 1 桁	文字列	２
ＦＡＣＴデータ識別子	９０	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０
内部使用	91～99	英数字可変長最大 30 桁のﾃﾞｰﾀ	文字列	３０

６）マスター参照（データ収集モードとバーコード情報表示モード）

マスター参照をする場合は、マスター参照の［**使用する**］をチェックしてください。



設定ボタンが使用可能になりますのでクリックしてください。下の画面を表示しますので、「**部分検索キー設定**」，「**マスターファイル**」，「**マスターチェック**」，「**表示文字列参照**」，「**データ参照**」 を設定します。

このボタンをクリックしてマスターファイルの設定を追加、設定の変更を行ないます。
最大２０までマスターファイルを設定できます。

ｉ）マスター追加/変更

［マスター追加/変更］ボタンをクリックして、「ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙ追加/変更」の画面を表示し、マスターファイルのフィールド定義と変更を行ないます。ここで設定したマスターを使用してマスター参照をします。**最大２０ファイル**までマスターファイルを設定できます。

・マスターファイルリスト
設定したマスターファイルを表示します。マウスポイントで選択すると、選択したマスターファイルの設定内容を右に表示します。

マスターファイル名： 〈大文字半角英数字 1～8 文字〉.〈拡張子（大文字半角英数字 1～3 文字)〉を設定
先頭文字はＡ～Ｚを使用してください。

検索キー桁数： 検索に使用するﾃﾞｰﾀの桁数 1～99 を設定

参照データ数： 参照するデータ項目数１～５を選択

参照データ１～５桁数：参照データの桁数 1～3500 を設定

・マスターファイル削除
マスターファイルリストから削除するマスターファイルを選択し［削除］ボタンをクリックします。

・マスターファイル追加（最大２０ファイルまで追加できます）
ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙ名，検索ｷｰ桁数，参照ﾃﾞｰﾀ項目数，参照ﾃﾞｰﾀ１～５桁数 を設定して、［追加/変更］ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸします。

・マスターファイル変更
ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙﾘｽﾄから変更するﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙを選択し、ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙ名，検索ｷｰ桁数，参照ﾃﾞｰﾀ項目数，参照ﾃﾞｰﾀ１～５桁数 を変更して［追加/変更］ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸします。

・マスターファイルフォーマット（参照データ数５の場合）

検索キー	参照データ１	参照データ２	参照データ３	参照データ４	参照データ５

ii）マスター参照設定

マスターを選択して、参照動作を設定します。

・マスターファイル
使用マスターファイルを選択します。

・表示文字列参照
［使用する］をチェックして参照データを選択すると、選択した参照データを、マスター参照を設定した項目の画面に表示します。

設定したデータを取り消して終了します。

・部分検索キー設定
入力データの１部分を検索キーに設定してマスター参照します。

・ﾏｽﾀｰﾃﾞｰﾀがない場合ｴﾗｰ
マスターファイルの検索キーに検索データがない場合、エラー表示して再入力待ちになります。

設定したデータを確定して終了します。

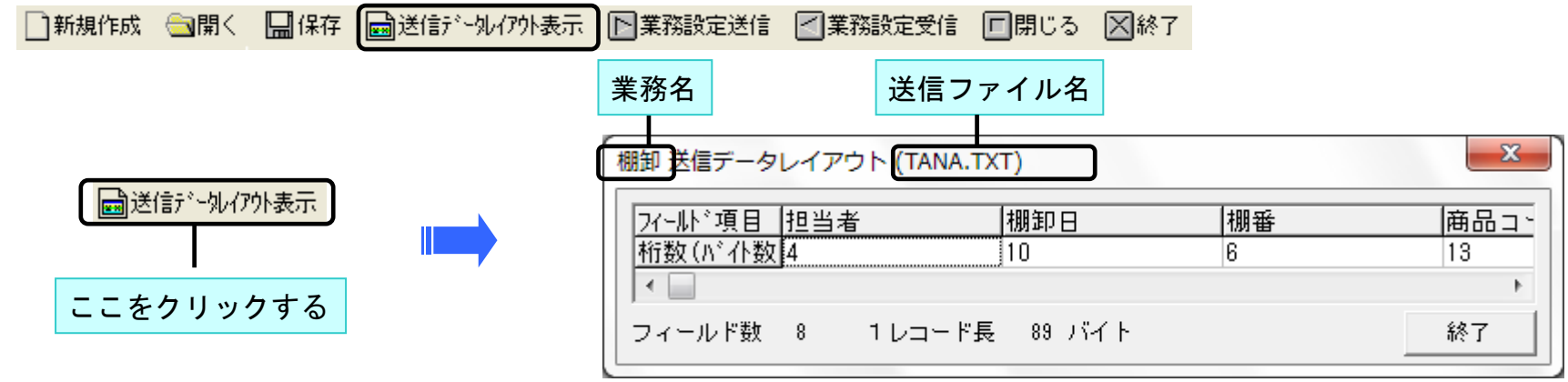
・データ参照項目数
データ参照する項目数を選択します。マスターファイル設定の参照データ数まで選択できます。この設定数により、設定に必要な参照データ項目と保存項目を表示します。

・参照データ
マスターファイルを検索して参照するデータを選択します。

・保存項目
マスター参照を設定した項目の次の項目から最後の項目までの中から、参照データを保存する項目を選択します。

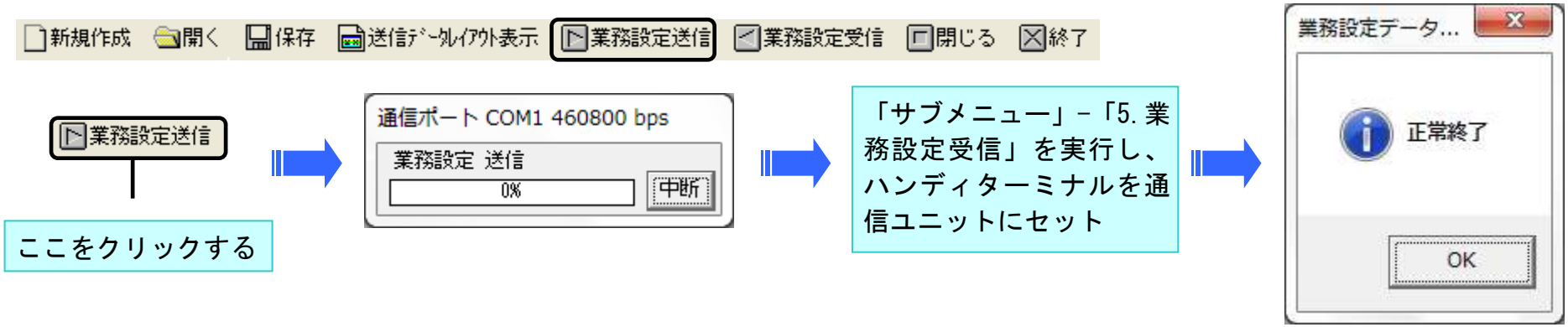
２－３－６ 送信データレイアウト表示

「業務設定データ」をハンディターミナルに送信する前に、送信データレイアウトを表示して確認してください。
送信データレイアウトを表示したい業務を選択して、［**送信データレイアウト表示**］をクリックしてください。



２－３－７ 業務設定送信

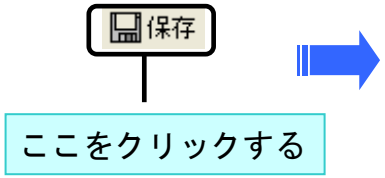
ハンディターミナルの「サブメニュー」－「5. 業務設定受信」を実行し、通信ポートを選択して通信ユニットにセット、［**業務設定送信**］をクリックすると、現在編集中の「業務設定データ」をハンディターミナルに送信します。

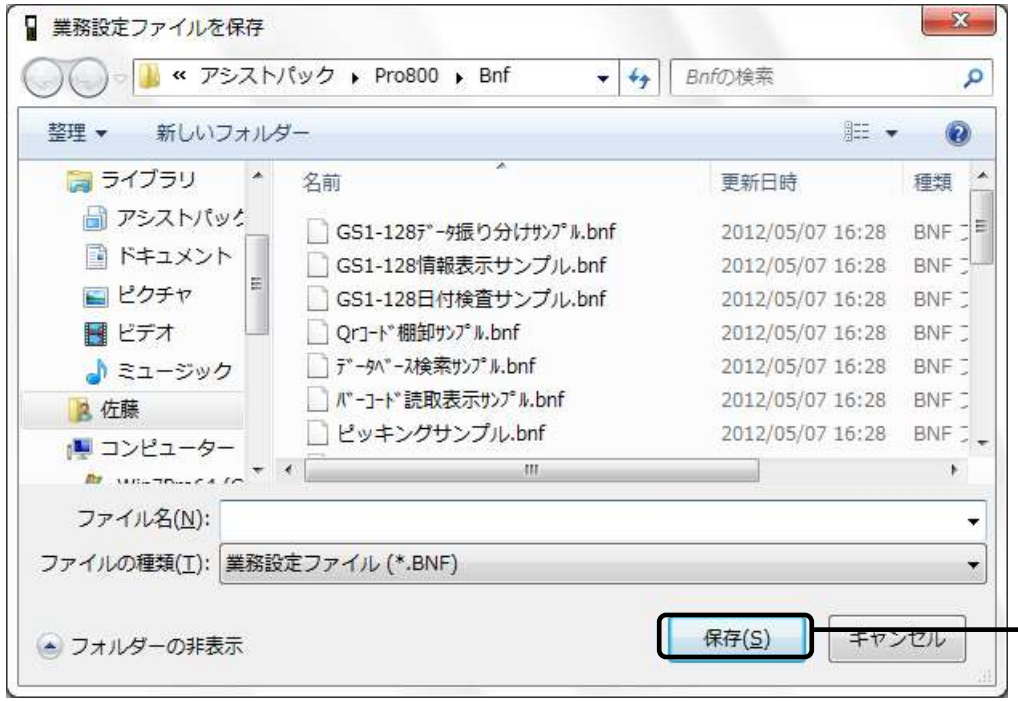


２－３－８ 保存

編集した「業務設定データ」を拡張子「ｂｎｆ」の管理しやすいファイル名にして保存してください。

［**保存**］をクリックすると、「業務設定ファイルを保存」の画面を表示します。

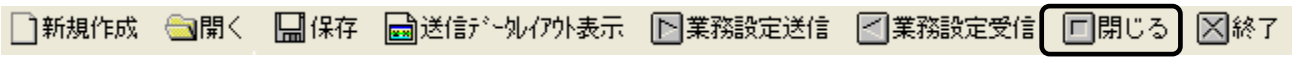


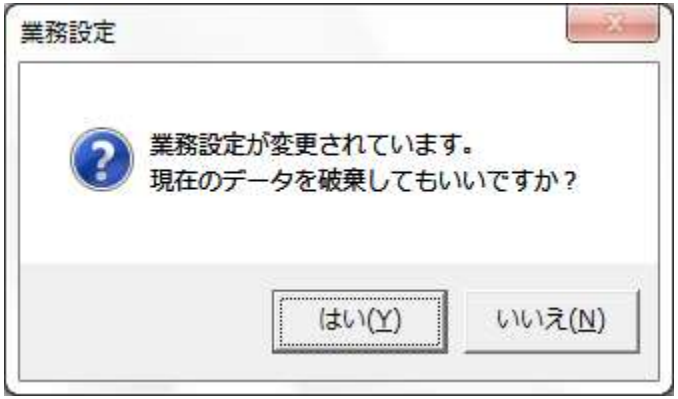


保存するファイル名を入力して［保存］ボタンをクリックしてください

２－３－９ 閉じる

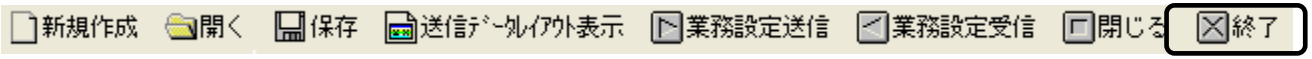
［**閉じる**］をクリックすると、編集中の画面を閉じます。データが変更されていると「業務設定が変更されています。現在のデータを破棄してもいいですか？」を表示します。［はい］ボタンをクリックすると編集画面を閉じます。［いいえ］ボタンをクリックすると編集状態に戻ります。業務設定を保存してから［**閉じる**］をクリックしてください。





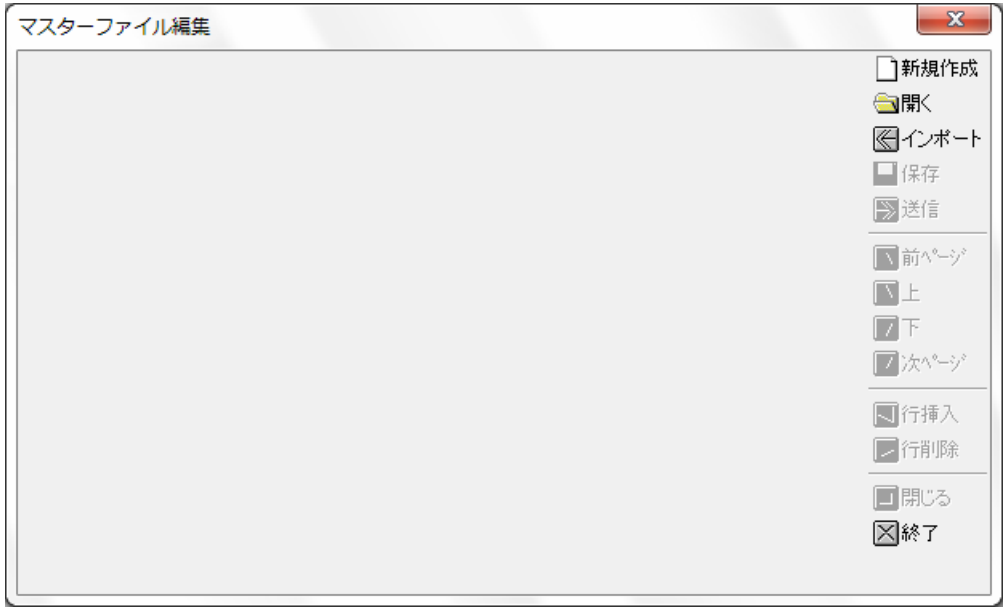
２－３－１０ 終了

［**終了**］をクリックすると、アシストパックマネージャーのメニュー画面に戻ります。データが変更されていると「業務設定が変更されています。現在のデータを破棄してもいいですか？」を表示します。
［はい］ボタンをクリックするとアシストパックマネージャーのメニュー画面に戻ります。［いいえ］ボタンをクリックすると編集状態に戻ります。業務設定を保存してから［**終了**］をクリックしてください。



２－４ マスターデータ編集

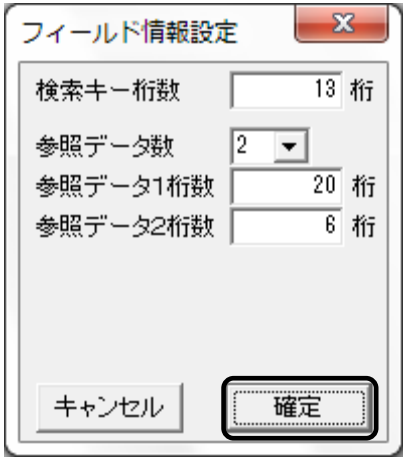
［マスターファイル作成/編集/転送］ボタンをクリックして、マスターデータの作成/編集/転送/保存を行ないます。



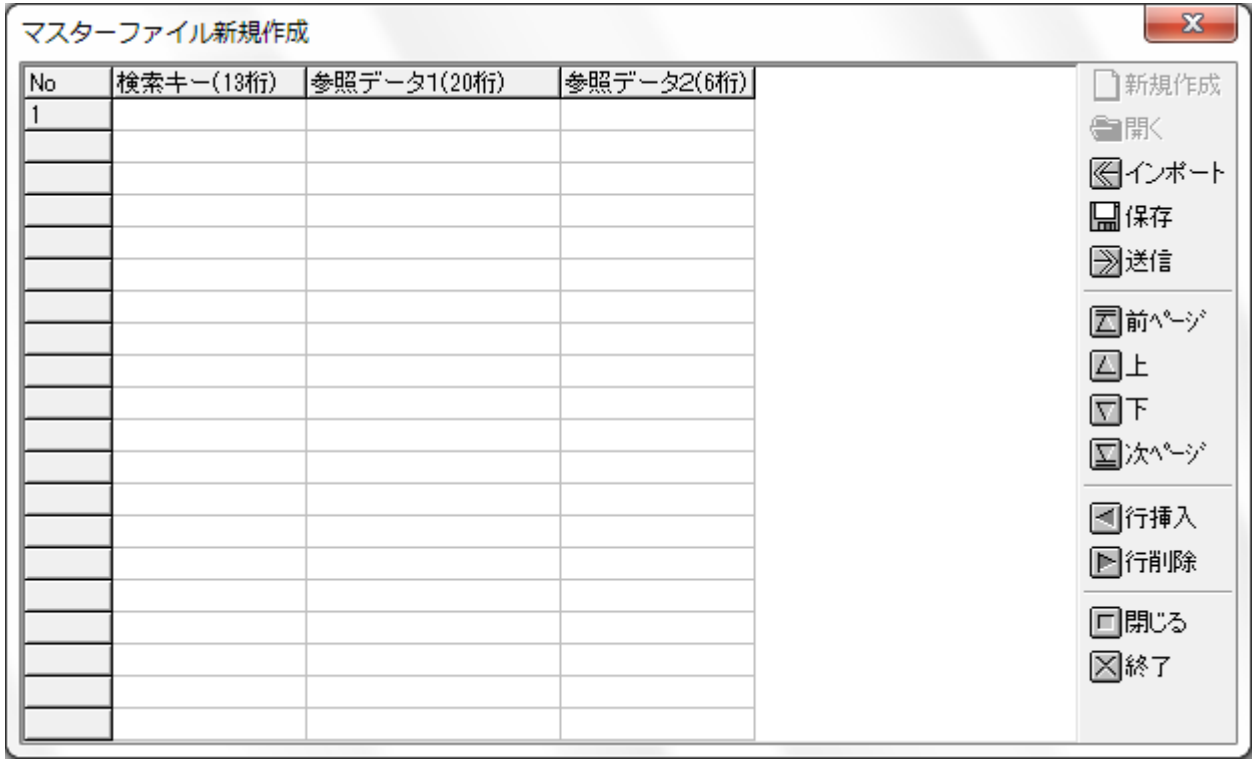
ボタン	動作説明
新規作成	マスターファイルを新規作成します。
開く	既存のマスターファイルを開きます。
インポート	Ｅｘｃｅｌシート，Ａｃｃｅｓｓテーブルからデータをインポートします。
保存	編集中のマスターファイルを保存します。
送信	マスターファイルをハンディターミナルへ送信します。
閉じる	編集中の画面を閉じます。
終了	マスターファイル編集を終了します。

２－４－１ 新規作成

［**新規作成**］をクリックして、「フィールド情報設定」画面において検索キーと参照データの桁数を設定してから、マスターデータを入力します。



確定



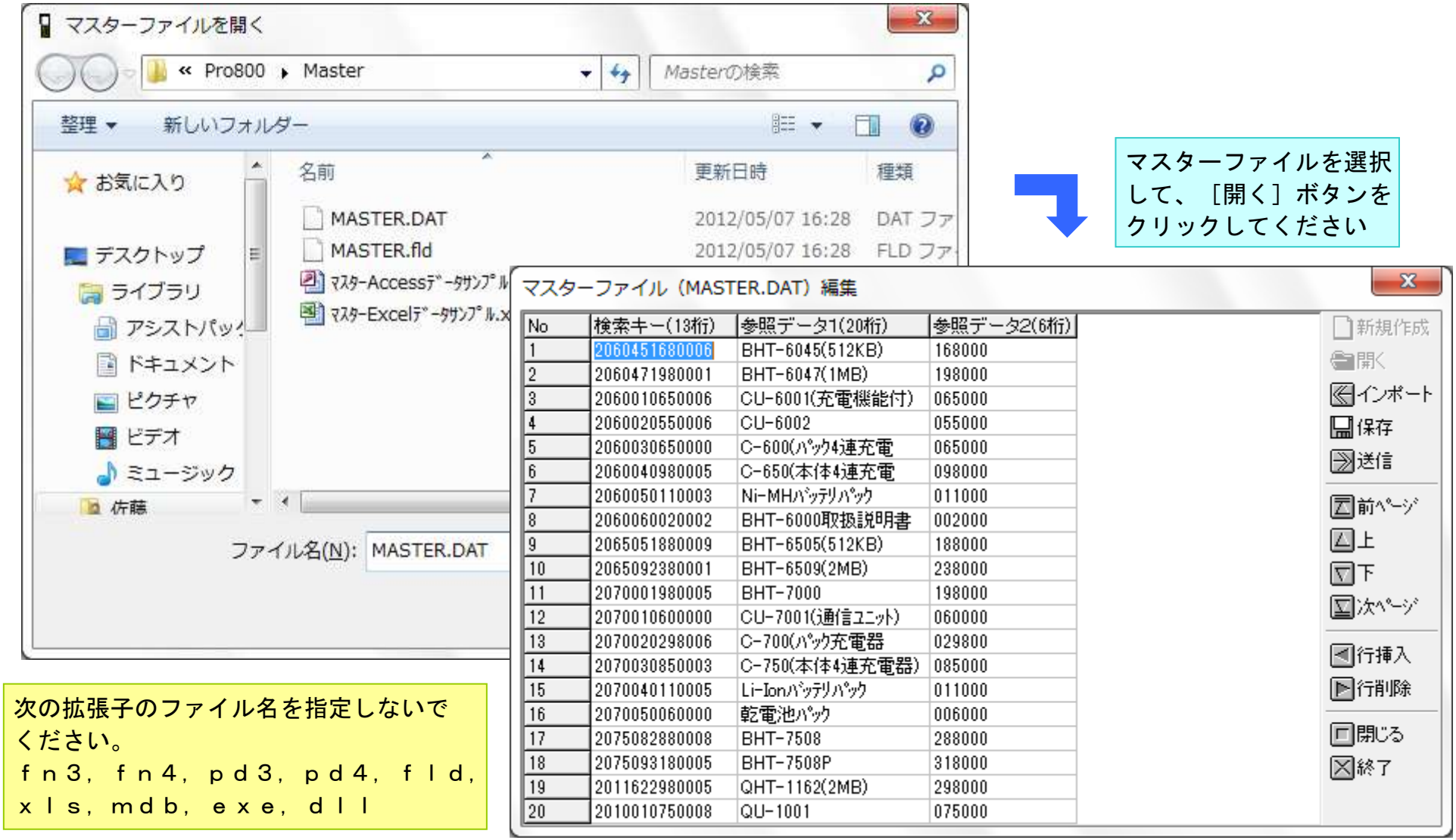
検索キー桁数
　検索に使用するキーの桁数を設定します。（設定範囲　１～９９）

参照データ数
　参照するデータ数を設定します。（設定範囲　１～５）

参照データ桁数
　参照データの桁数を設定します。（設定範囲　１～１００）

２－４－２ 開く

［**開く**］をクリックして、「マスターファイルを開く」画面においてマスターファイルを選択すると、「マスターファイル編集」画面にマスターデータを表示します。

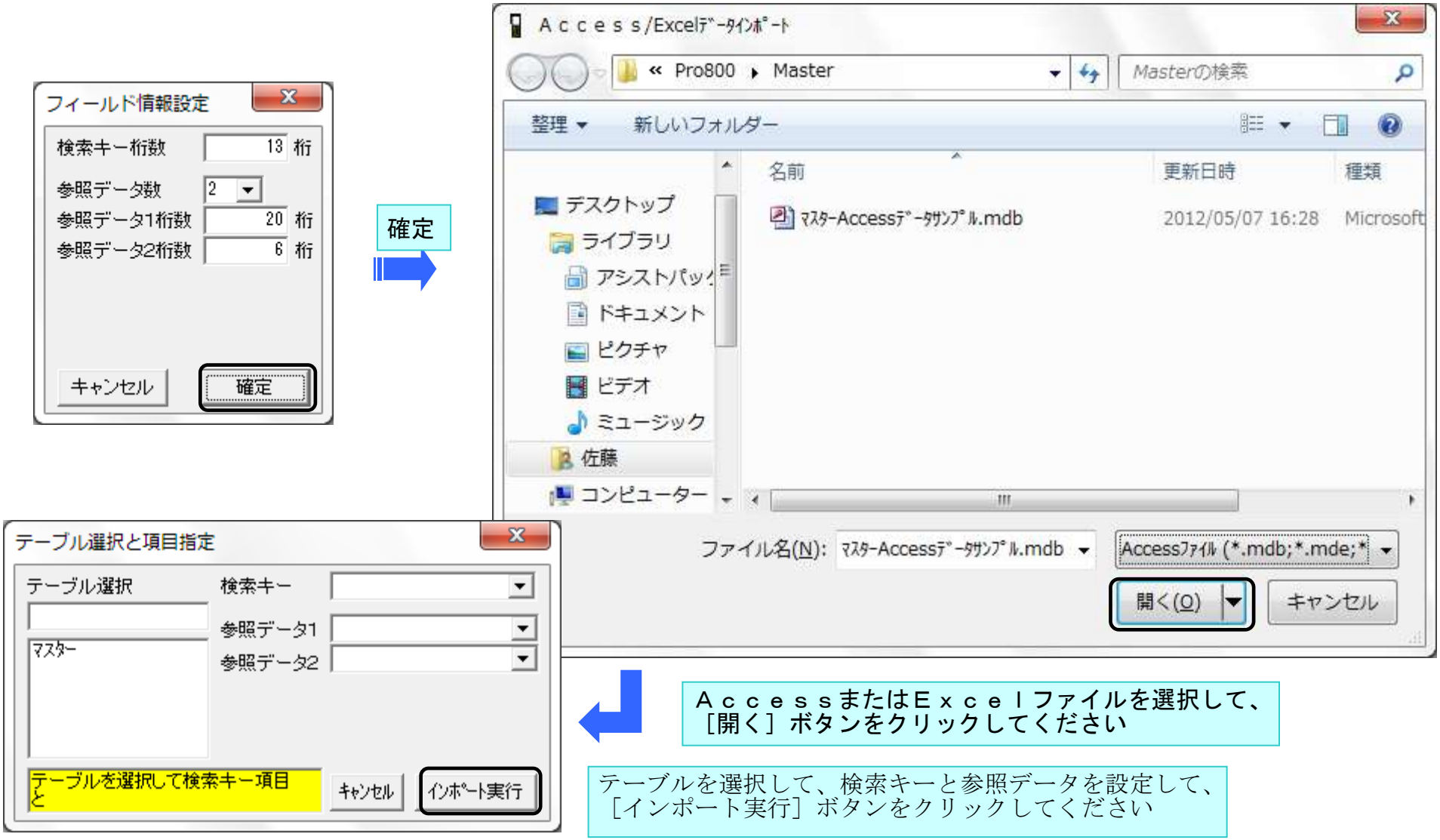


マスターファイルを選択して、［開く］ボタンをクリックしてください

次の拡張子のファイル名を指定しないでください。
ｆｎ３，ｆｎ４，ｐｄ３，ｐｄ４，ｆｌｄ，ｘｌｓ，ｍｄｂ，ｅｘｅ，ｄｌｌ

２－４－３ インポート

閉じた状態で［**インポート**］をクリックすると、Ａｃｃｅｓｓテーブルまたは Ｅｘｃｅｌシートからデータをインポートして、マスターファイルを新規作成します。マスターファイルの編集中に［**インポート**］をクリックした場合は、インポートしたデータを末尾に追加します。



２－４－４ データ編集

編集画面において、［前ページ］，［次ページ］，［上］，［下］のボタンを使用して表示位置を変更して、データ入力/変更を、［行挿入］，［行削除］でデータの追加/削除をします。

ボタン	動作説明
前ページ	前のページを表示
上	データを上にスクロール
下	データを下にスクロール
次ページ	次のページを表示

ボタン	動作説明
行挿入	カーソル位置の前に空白行を挿入します。
行削除	カーソル位置の行を削除します。

［↑］，［↓］キーまたはマウスポイントで編集レコードに移動します。

２－４－５ 送信

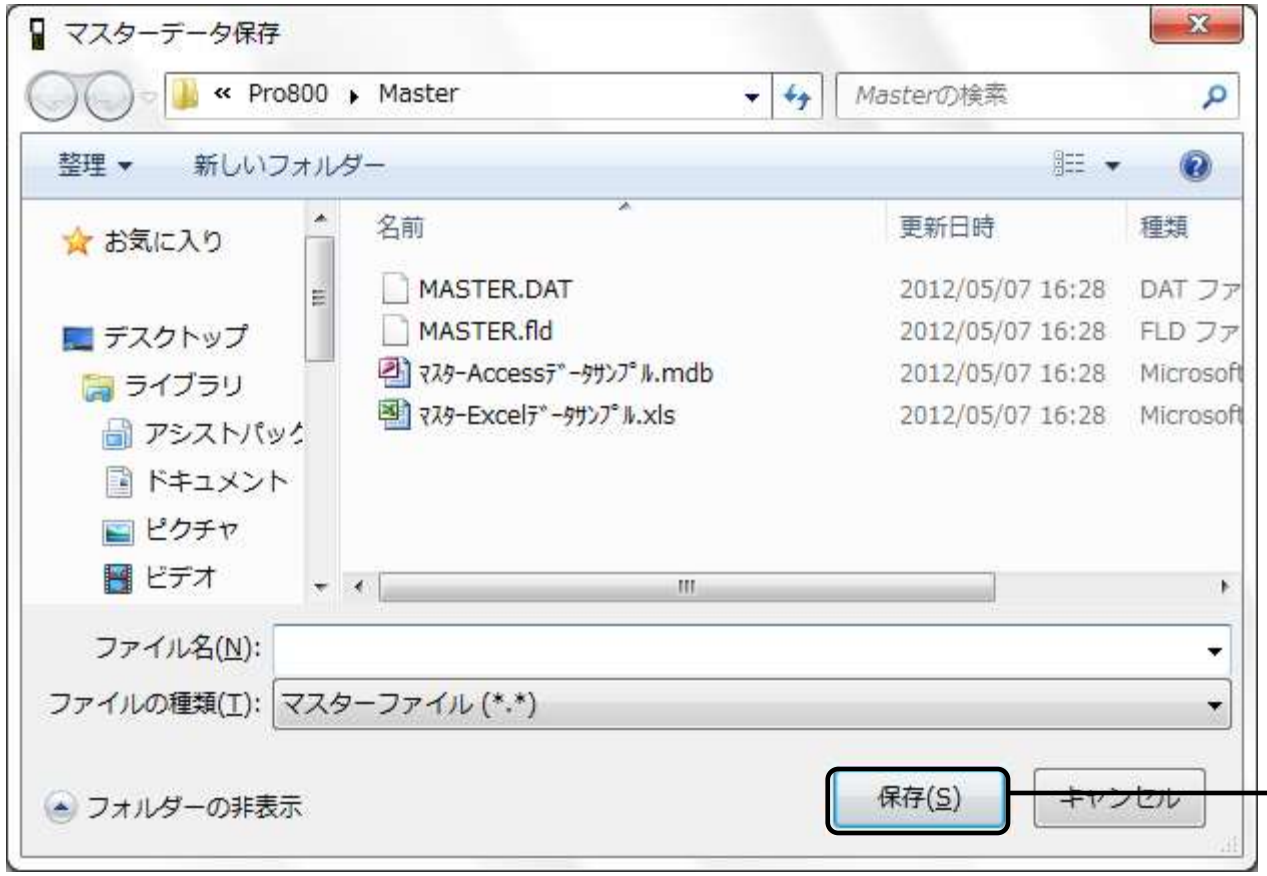
［**送信**］をクリックすると「ハンディターミナル内で使用するマスターファイル名を入力する」画面を表示します。マスターファイル名を入力して、［送信］ボタンをクリックすると、指定したマスターファイル名で送信します。

ハンディターミナルは「サブメニュー」－「9. ファイル受信」を実行し、通信ポートを選択して通信ユニットにセットします。

注）送信するファイル名と同じ名前でフィールド情報の異なるファイルがハンディターミナルに存在すると、ハンディターミナルに「フィールドエラー」が発生します。「サブメニュー」－「10. ファイル管理」において、そのファイルを削除してから、再受信してください。

２－４－６ 保存

［**保存**］をクリックして、編集中のマスターデータを名前を付けて保存します。

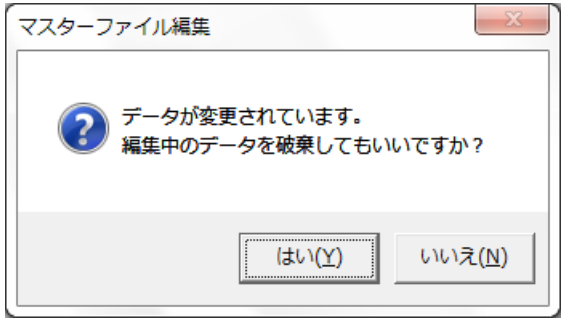


保存するファイル名を入力して、［保存］ボタンをクリックしてください。

次のファイル拡張子は使用しないでください。
ｆｎ３，ｆｎ４，ｐｄ３，ｐｄ４，ｆｌｄ，ｘｌｓ，ｍｄｂ，ｅｘｅ，ｄｌｌ

２－４－７ 閉じる

［**閉じる**］をクリックすると、編集中の画面を閉じます。データが変更されていると「データが変更されています。編集中のデータを破棄してもいいですか？」を表示します。［はい］ボタンをクリックすると編集中の画面を閉じます。［いいえ］ボタンをクリックすると編集状態に戻ります。マスターデータを保存してから［**閉じる**］をクリックしてください。



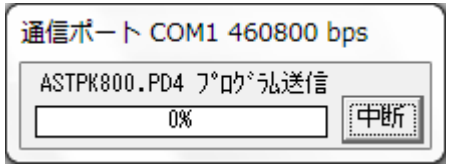
２－４－８ 終了

［**終了**］をクリックすると、アシストパックマネージャーのメニュー画面に戻ります。データが変更されていると「データが変更されています。編集中のデータを破棄してもいいですか？」を表示します。［はい］ボタンをクリックするとアシストパックマネージャーのメニュー画面に戻ります。　［いいえ］ボタンをクリックすると編集状態に戻ります。マスターデータを保存してから［**終了**］をクリックしてください。

２－５ アシストパックプログラム転送

アシストパックのハンディターミナルのプログラムをＢＨＴ－８００に転送します。

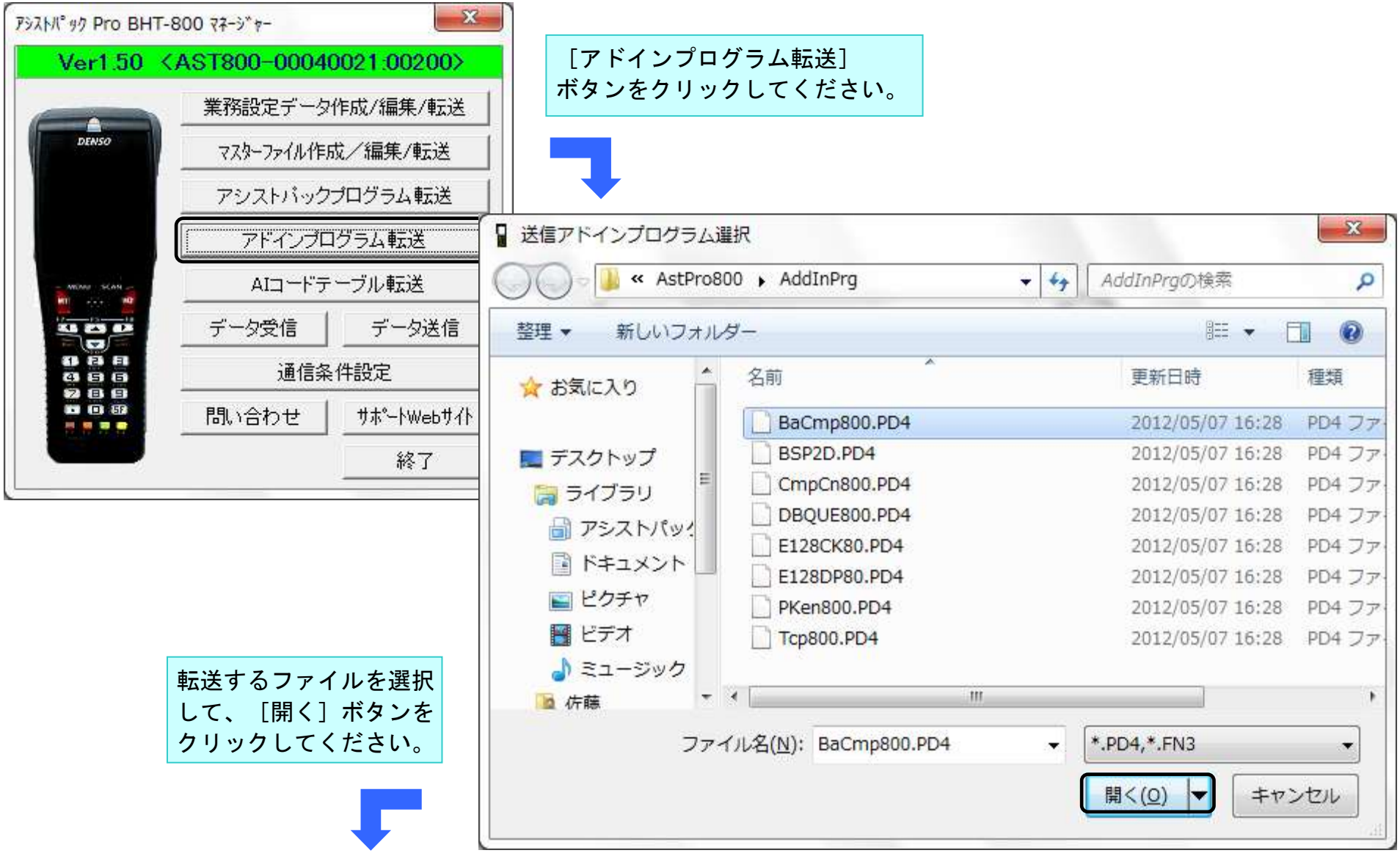
BHT-800 の通信設定を 通信ﾎﾟｰﾄ=Optical, 通信ｽﾋﾟｰﾄﾞ=115200 or 460800, ﾌﾟﾛﾄｺﾙ=Ymodem, YModem ﾊﾟﾗﾒｰﾀ(CR/LF=CR-LF, CR/LF CODE=Control Code, BHT ID=None, INTERVA=30)に設定してください。
設定方法は、ﾃﾞﾝｿｰｳｪｰﾌﾞの「BHT-800 取扱説明書」を参照

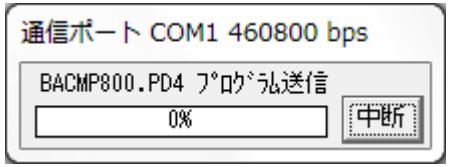


BHT-800 の[SYSTEM MENU] - 2:DOWNLOAD - 1:FILE を実行して、BHT-800 を通信ユニットにセット

２－６ アドインプログラム転送

アシストパックのアドインプログラムをＢＨＴ－８００に転送します。

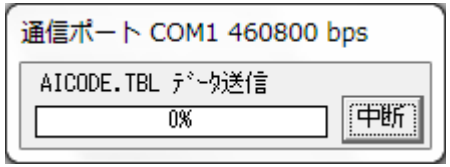




ハンディターミナルは
「サブメニュー」-「9. ファイル受信」
を実行し、通信ポートを選択して通信
ユニットにセット

２－７　ＡＩコードテーブル転送

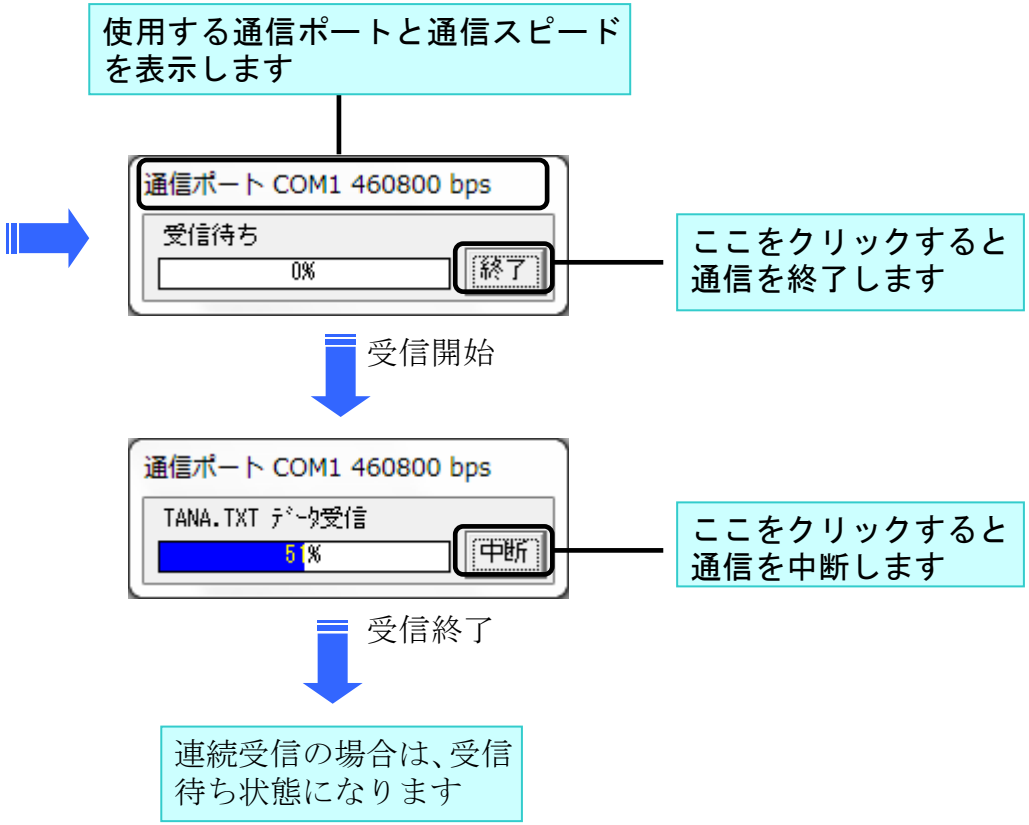
バーコードデータチェックまたはデータ振り分けにＡＩコードを使用する場合、ＡＩコードテーブルをＢＨＴ－８００に転送します。



BHT-800 のサブメニューの「9. ﾌｧｲﾙ受信」を実行して、BHT-800 を通信ユニットにセット

２－８ データ受信

設定した通信条件でデータ受信プログラムを起動します。通信条件は、［通信条件設定］ボタンをクリックして設定してください。「通信状態表示」を表示するに設定した場合は、次のように表示します。

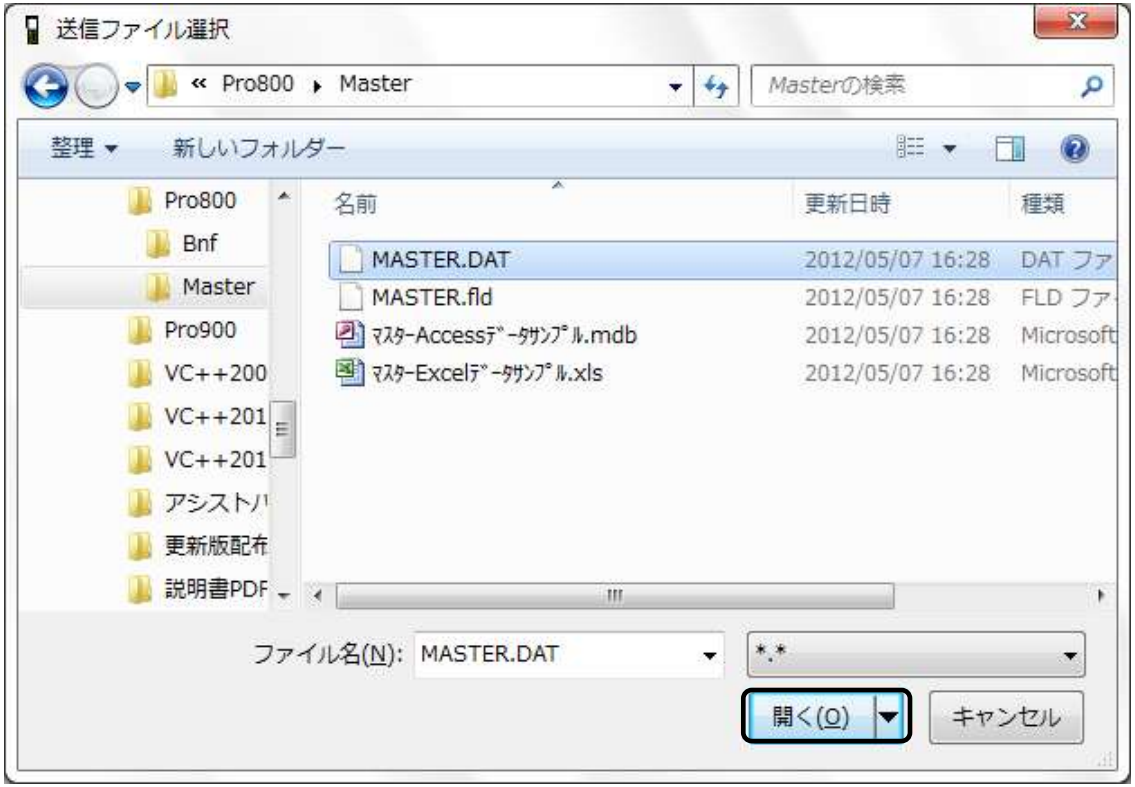


【受信ファイル名に日付を入れる】
受信データのファイル名にＹＹＭＭＤＤが含まれていると、ＹＹＭＭＤＤを受信日付で置き換えます。
例）2011/01/01 に受信した場合
　TYYMMDD.TXT ⇒ T110101.TXT

２－９ データ送信

設定した通信条件で送信ファイルを指定してデータ送信プログラムを起動します。データファイルを送信する場合は、拡張子「.fld」のフィールド情報ファイルが必要です。通信条件は、［通信条件設定］ボタンをクリックして設定してください。

［データ送信］ボタンをクリックしてください。

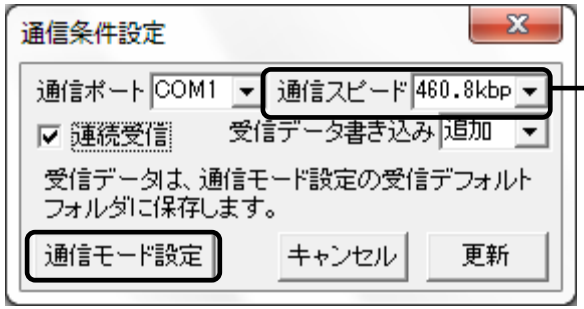


ﾃﾞｰﾀﾌｧｲﾙを送信する場合は、ﾌｨｰﾙﾄﾞ情報ﾌｧｲﾙ（拡張子.fld）が必要です。
例）TANA.fld の内容
　　10,6,13,6

送信するファイルを選択して、［開く］ボタンをクリックしてください。

２－１０ 通信条件設定

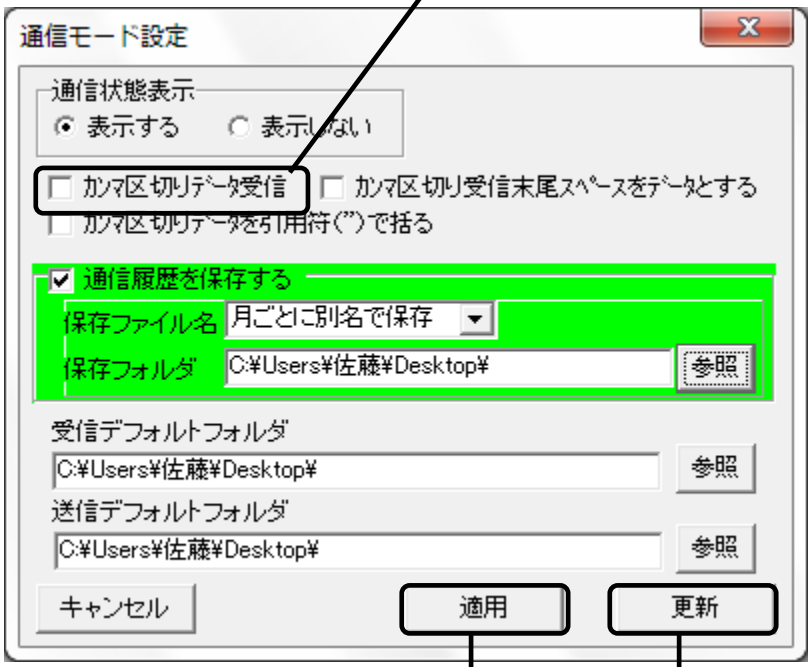
通信ポート，連続受信，受信データ書き込み，通信状態表示，通信履歴，受信デフォルトフォルダ，送信デフォルトフォルダを設定します。



CU-USB(CU-821)を使用する場合、460.8kbps に設定してください。

［通信モード設定］ボタンをクリック

拡張子「ＣＶＳ」以外のファイルもカンマ区切りデータとして受信する



設定を適用します　　設定を適用し保存します

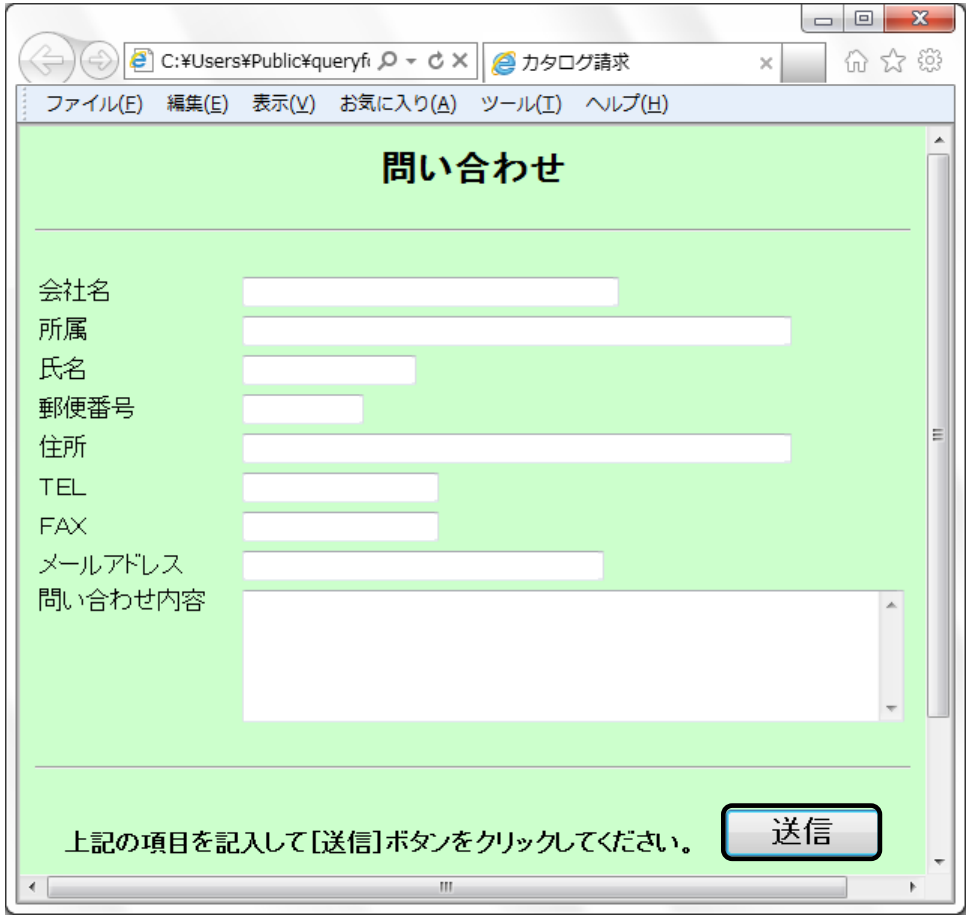
ここで設定する「通信ポート」，「通信スピード 460.8kbps」，「連続受信設定」，「受信データ書き込み」は、アシストパックマネージャーでのみ有効です。
「通信モード設定」は、アシストパックマネージャー以外でも、BhtYmText.dll を使用するプログラムで有効です。

保存する通信履歴ファイル名
日ごとに保存ファイル名： BYTCOM**_YYYY_MM_DD.log
月ごとに保存ファイル名： BYTCOM**_YYYY_MM.log
年ごとに保存ファイル名： BYTCOM**_YYYY.log
** ： 通信ポート No

２－１１ 問い合わせ

インターネットに接続して［問い合わせ］ボタンをクリックしてください。

［問い合わせ］ボタンをクリックしてください



各入力項目に入力して、［送信］ボタンをクリックしてください

２－１２ サポートＷｅｂサイト

コンピュータ･アシストパック株式会社が提供する、「アシストパック ＢＨＴ－８００ ＰｒｏＥｄｉｔｉｏｎ」のバージョンアップサービス，アドインプログラムサービスのＷｅｂサイトを、ブラウザを起動して表示します。

インターネット接続環境において［ｻﾎﾟｰﾄ Web ｻｲﾄ］ボタンをクリックしてください。

［サポートＷｅｂサイト］ボタンをクリックしてください

３ ハンディターミナルプログラム

３－１ キーの説明

Ｍ１	ガイダンスに表示した機能，３秒以上押し続けると音量，明るさ，省電力設定画面表示
Ｍ２	ガイダンスに表示した機能
▲	業務ﾒﾆｭｰ画面：前の業務へ移動 参照/訂正画面：前のデータへ移動
▼	業務ﾒﾆｭｰ画面：次の業務へ移動 参照/訂正画面：次のデータへ移動
◀	業務ﾒﾆｭｰ画面：前ﾒﾆｭｰﾍﾟｰｼﾞへ 入力画面：キー入力時の入力桁を前に移動
▶	業務ﾒﾆｭｰ画面：次ﾒﾆｭｰﾍﾟｰｼﾞへ 入力画面：キー入力時の入力桁を次に移動
．	業務ﾒﾆｭｰ画面：選択業務保存ファイル情報表示 入力画面：実数入力の場合、小数点
ＥＮＴ	ﾒﾆｭｰ実行，入力確定
ＳＦ ＋ ＥＮＴ	ﾊﾞｯﾃﾘｰ電圧表示
Ｆ１	業務ﾒﾆｭｰ画面：バージョン表示 入力画面：データ参照
Ｆ２	業務ﾒﾆｭｰ画面：サブメニュー 参照/訂正画面：データ変更
Ｆ３	業務ﾒﾆｭｰ画面：日付時刻設定 参照/訂正画面：データ削除
Ｆ４	業務ﾒﾆｭｰ画面：未送信ﾃﾞｰﾀの全送信
ＢＳ／Ｃ	前１文字クリア，１秒以上押し続けると入力データクリア
ＳＦ	入力画面：文字入力モードの場合の英字入力と数字入力の切り換え 英字入力の場合、画面右下に ＡＬＰ を表示します。
⏻	電源ＯＮ／ＯＦＦ

３－２ 通信

アシストパックプログラムにおける通信は、下記の「通信ポート」，「通信スピード」，「通信プロトコル」になります。

１）通信ポート

① ＣＵ－ＲＳ２３２(CU-801)，ＣＵ－ＵＳＢ(CU-821) 光インターフェース（標準）

②ＢｌｕｅＴｏｏｔｈインターフェース（標準）

③ ＬＡＮ－ＣＵ（CU-811）インターフェース（アドイン通信プログラムとして提供）

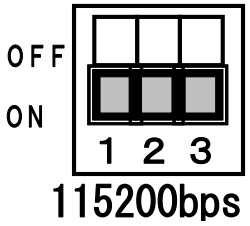
④ 無線ＬＡＮインターフェース（アドイン通信プログラムとして提供）

２）通信スピード

使用する通信ポート，通信ユニットにより次のように設定してください。

① **ＣＵ－ＲＳ２３２(CU-801)： １１５２００ｂｐｓ、ＤＩＰＳＷは右図の設定にしてください。**

② **ＣＵ－ＵＳＢ(CU-821)　　： ４６０８００ｂｐｓ**



３）通信プロトコル

① **ＹＭｏｄｅｍプロトコル**

プロトコルについては、（株）デンソーウェーブのＢＨＴ－８００取扱説明書を参照してください。

② **アドイン通信プログラム**

コンピュータ･アシスト㈱が提供する通信プロトコルのプログラムを２つまで組み込んで使用することができます。

３－３ アシストパックプログラムのダウンロード手順

ＳＦ と 1 を押したまま電源を投入してください。

```
SYSTEM MENU

0:SETUP

1:EXECUTE PROGRAM
2:DOWNLOAD
3:UPLOAD
4:SET SYSTEM
5:TEST
6:VERSION
7:FTP
8:DEVICE
```

ENT →

```
SET SYSTEM

1:EXECUTE PROGRAM
2:DISPLAY
3:DATE/TIME
4:BARCODE
5:COMMUNICATION
6:KEY
7:TCP/IP
8:RPC

[▶] NEXT
```

ENT →

```
SET COMMUNICATION

1:OPTICAL

2:PROTOCOL TYPE
```

① 通信スピード設定

```
SET COMMUNICATION

1:OPTICAL

2:PROTOCOL TYPE
```

ENT →

← BS/C

```
SET OPTICAL

1:PARAMETER

2:PROTOCOL
```

ENT →

← BS/C

CU-821 (USB) の場合

```
SET PARAMETER

< OPTICAL >

1:TRANSMIT SPEED
    9600    19200
   38400    57600
  115200   460800
```

CU-801 (RS232) の場合

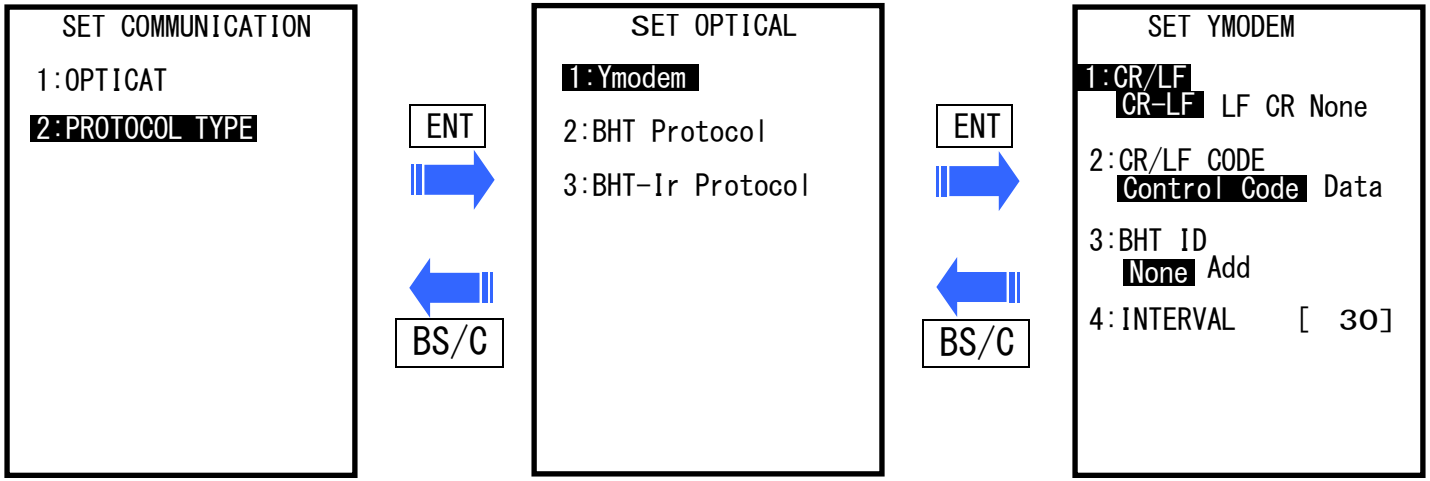
```
SET PARAMETER

< OPTICAL >

1:TRANSMIT SPEED
    9600    19200
   38400    57600
  115200   460800
```

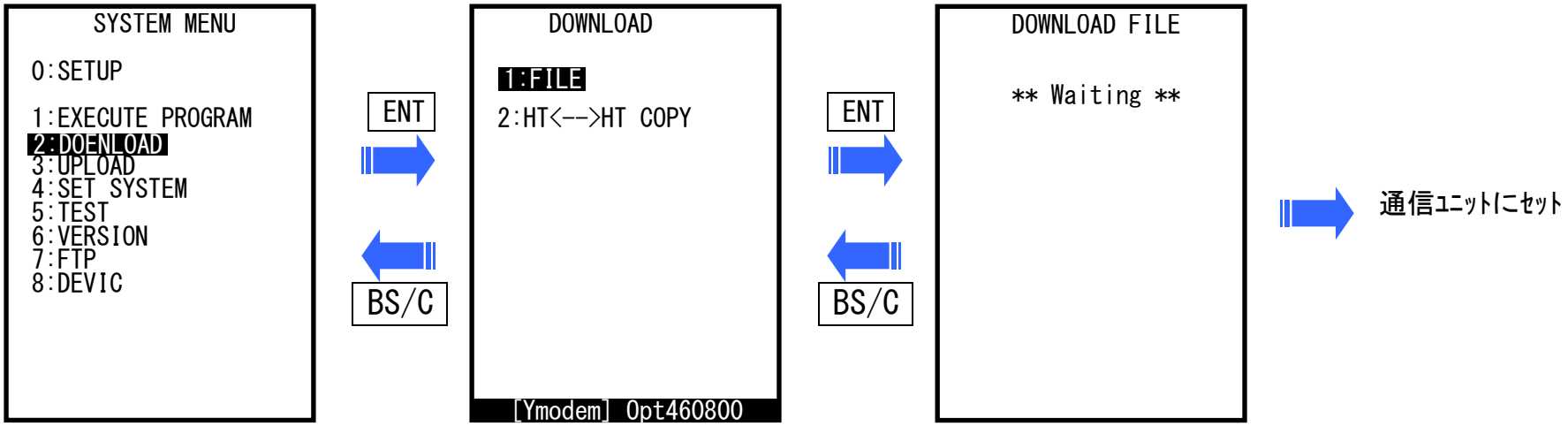
◀,▶キーで 115200 に設定してください。

② 通信プロトコルをＹｍｏｄｅｍに設定



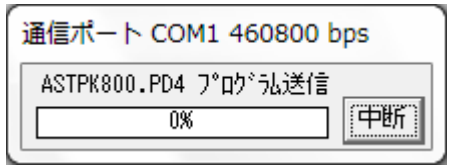
1:CR/LF=CR-LF, 2:CR/LF CODE=Control Code,
3:BHT ID=None, 4:INTERVAL=30 に設定してください。
▲, ▼キーで設定項目を選択、◀,▶キーで設定データを選択してください。

④ ダウンロード実行



⑤ ＰＣからプログラム転送

［アシストパックプログラム転送］ボタンをクリックしてＰＣからプログラムを転送します。



BHT-800 の［SYSTEM MENU］－2:DOWNLOAD － 1:FILE を実行して、BHT-800 を通信ユニットにセット

⑥ 自動実行プログラムとして設定

電源ＯＮした後に自動的に実行するプログラムを設定します。

```
SYSTEM MENU

0:SETUP

1:EXECUTE PROGRAM
2:DOWNLOAD
3:UPLOAD
4:SET SYSTEM
5:TEST
6:VERSION
7:FTP
8:DEVICE
```

ENT →

```
SET SYSTEM

1:EXECUTE PROGRAM
2:DISPLAY
3:DATE/TIME
4:BARCODE
5:COMMUNICATION
6:KEY
7:TCP/IP
8:RPC

[▶] NEXT
```

ENT →

```
SET EXECUTE PROGRAM

ASTPK800.PD4
********.PD4
########.PD4
$$$$$$$$.PD4
@@@@@@@@.PD4
```

ENT → SET SYSTEM に戻ります

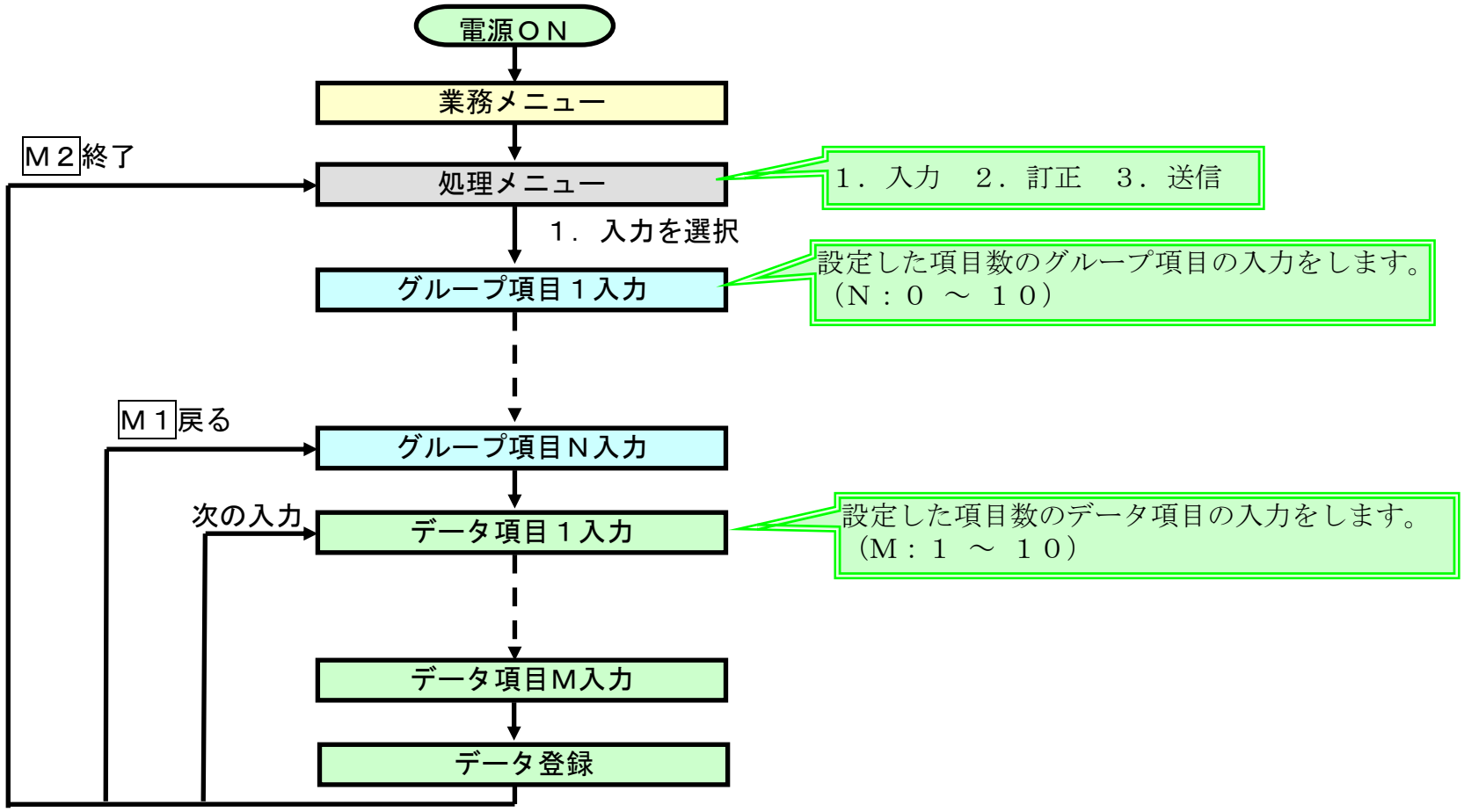
▲ ，▼キーで ASTPK800.PD4 を選択して、［ENT］キーを押して確定します。

３－４ 動作モード

アシストパックプログラムにおける動作は、「データ収集」，「未送信データの全送信」，「ファイル受信」，「リモート受信」，「バーコード情報表示」，「バーコード読取テスト」，「アドインプログラム」の８種類になります。

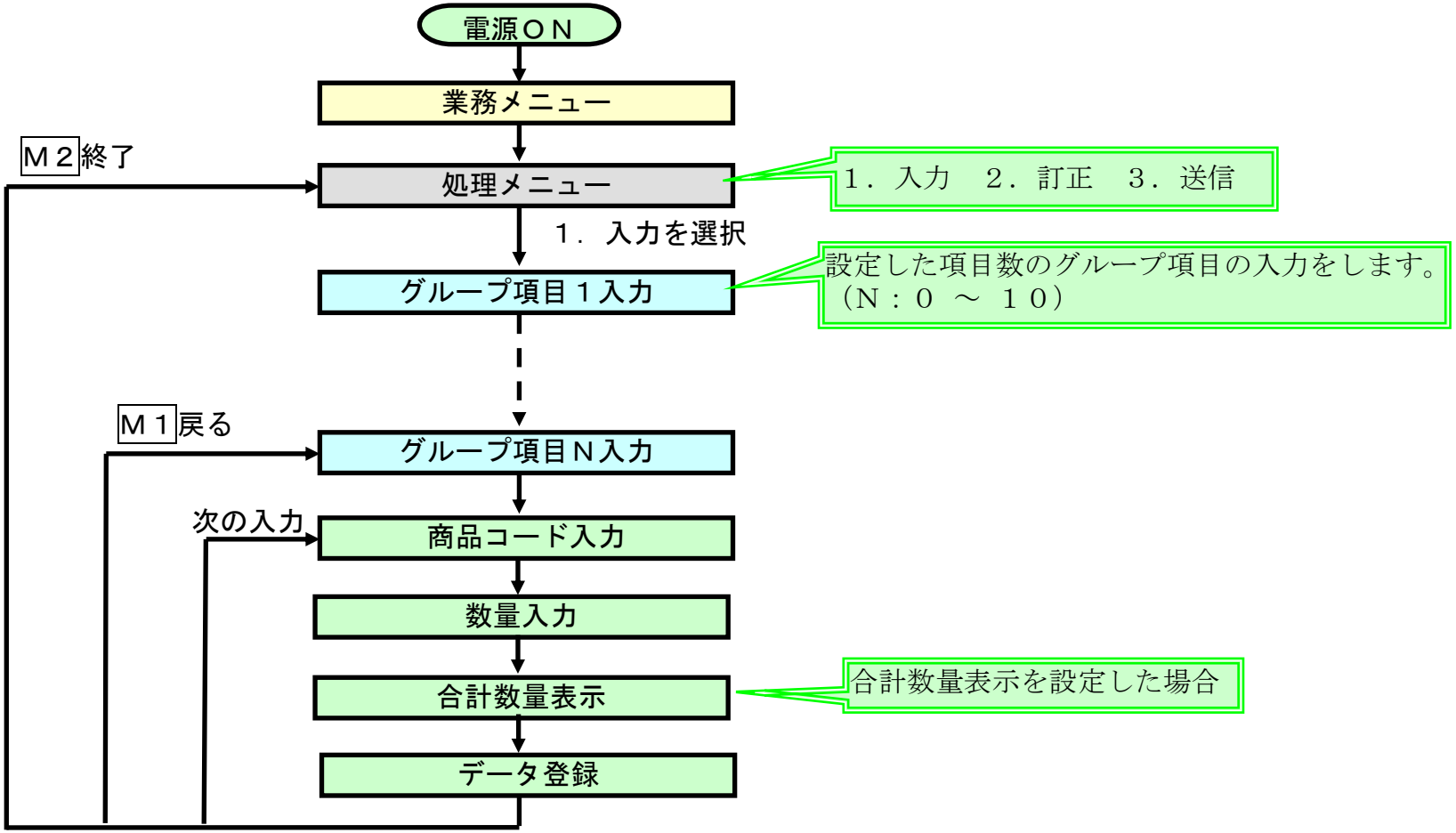
１）データ収集

バーコードとキー入力のデータを収集する動作モードです。データ収集モードの処理は、「入力」，「訂正」，「送信」の処理で構成されています。データ入力の基本動作は下図のようになります。（３－７データ収集モード）



２）商品コード＋数量収集

データ項目を商品コードと数量の２項目に限定してデータを収集するモードです。この動作モードでは指定したグループの合計数量を表示します。（３－８商品コード＋数量収集モード）

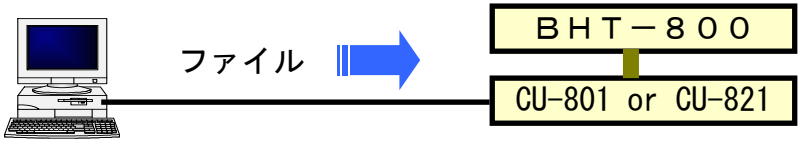


３）未送信データの全送信

業務で設定した未送信の保存データをすべて送信します。（３－９未送信データの全送信モード）

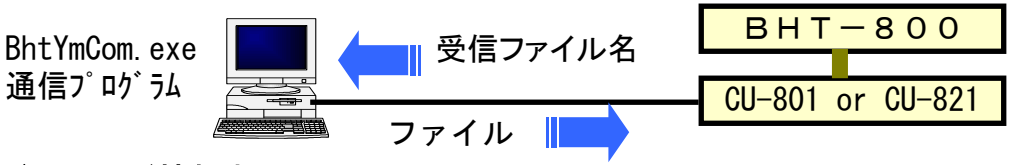
４）ファイル受信

ＰＣから送信したファイルを受信します。（３－１０ファイル受信モード）



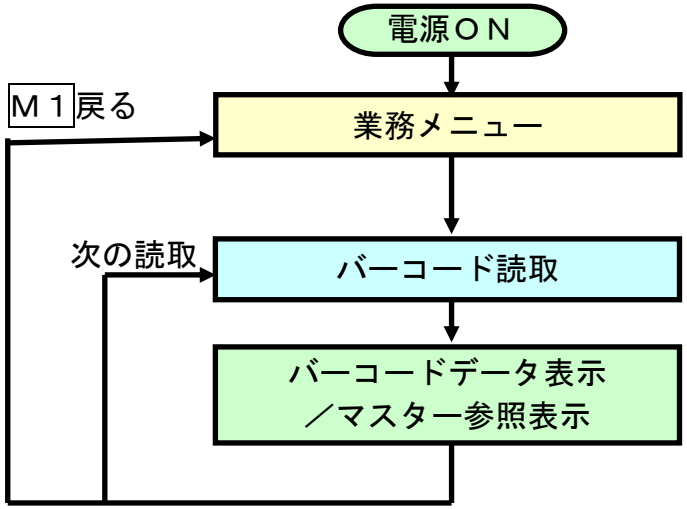
５）リモート受信

ＰＣの「ＢｈｔＹｍＣｏｍ．ｅｘｅ通信プログラム」からリモート受信します。（３－１１リモート受信モード）



６）バーコード情報表示

読み取ったバーコードデータを表示し、マスター検索して参照データを表示する動作モードです。
バーコード情報表示の基本動作は下図のようになります。（３－１２バーコード情報表示モード）

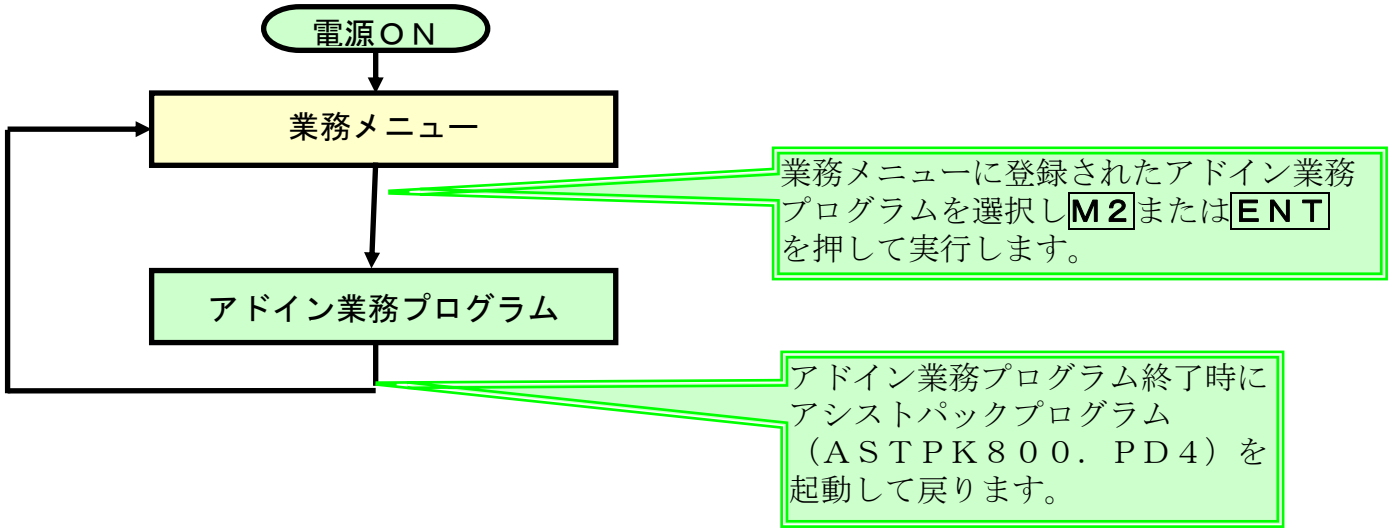


７）バーコード読取テスト

バーコードを読み取り、**バーコードの種類，桁数，データ内容を表示します。**（３－１３バーコード読取テストモード）

８）アドインプログラム

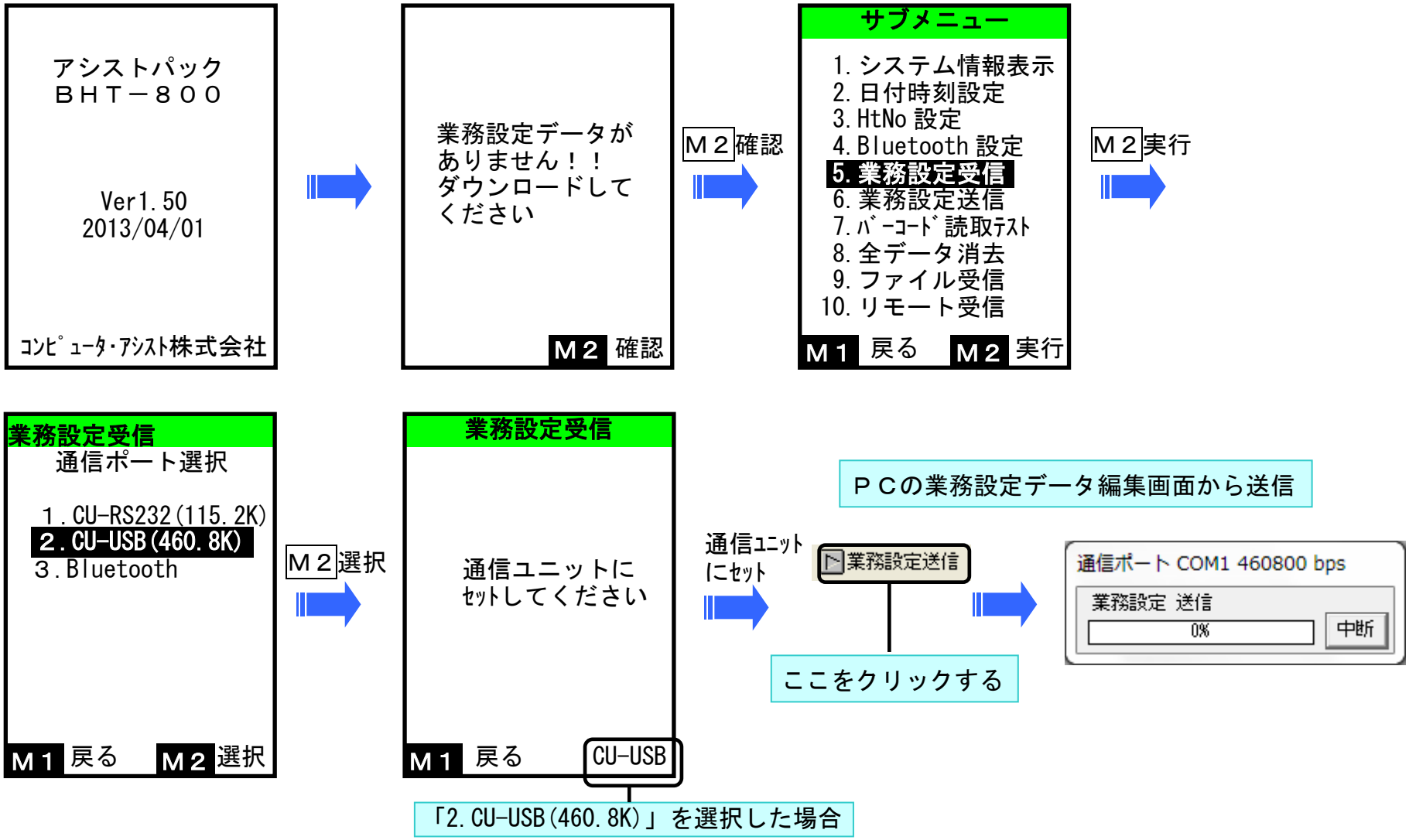
業務メニューからコンピュータ･アシストが提供するアドイン業務プログラム（．ＰＤ４）を実行します。
アドイン業務プログラムの実行は下図のようになります。

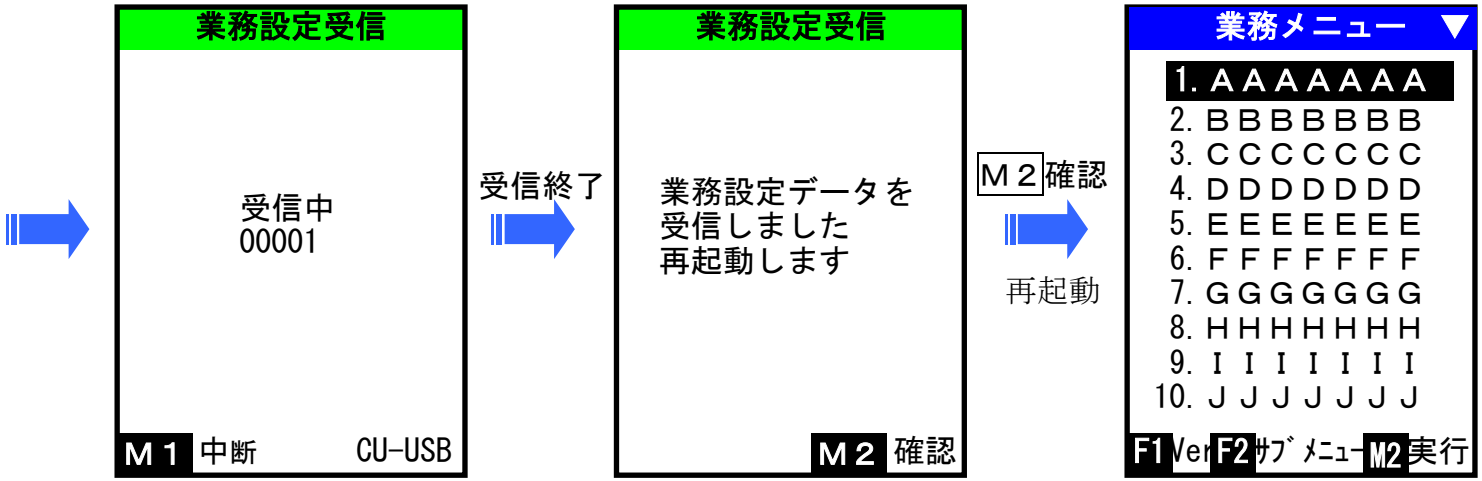


３－５ 電源投入

電源投入後の表示は、プログラムの状態により異なります。**入力処理のグループ入力中とデータ入力中はリジューム機能をＯＮにしていますので、**電源を切断しても次の電源投入時に切断時の画面を表示します。

① プログラムダウンロード直後で業務登録データがない場合



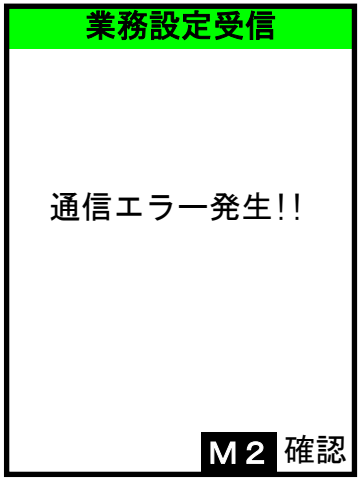


＊ 業務設定データ受信時のエラー発生

受信中断の場合

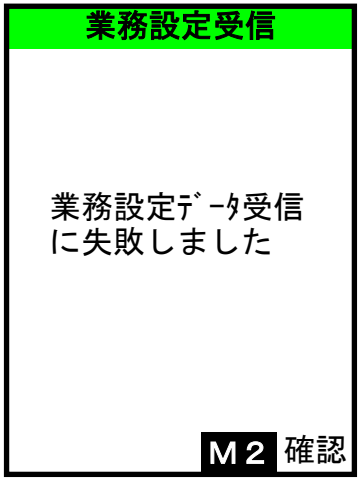
中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。

受信エラーの場合



通信エラーが発生した場合に表示します。

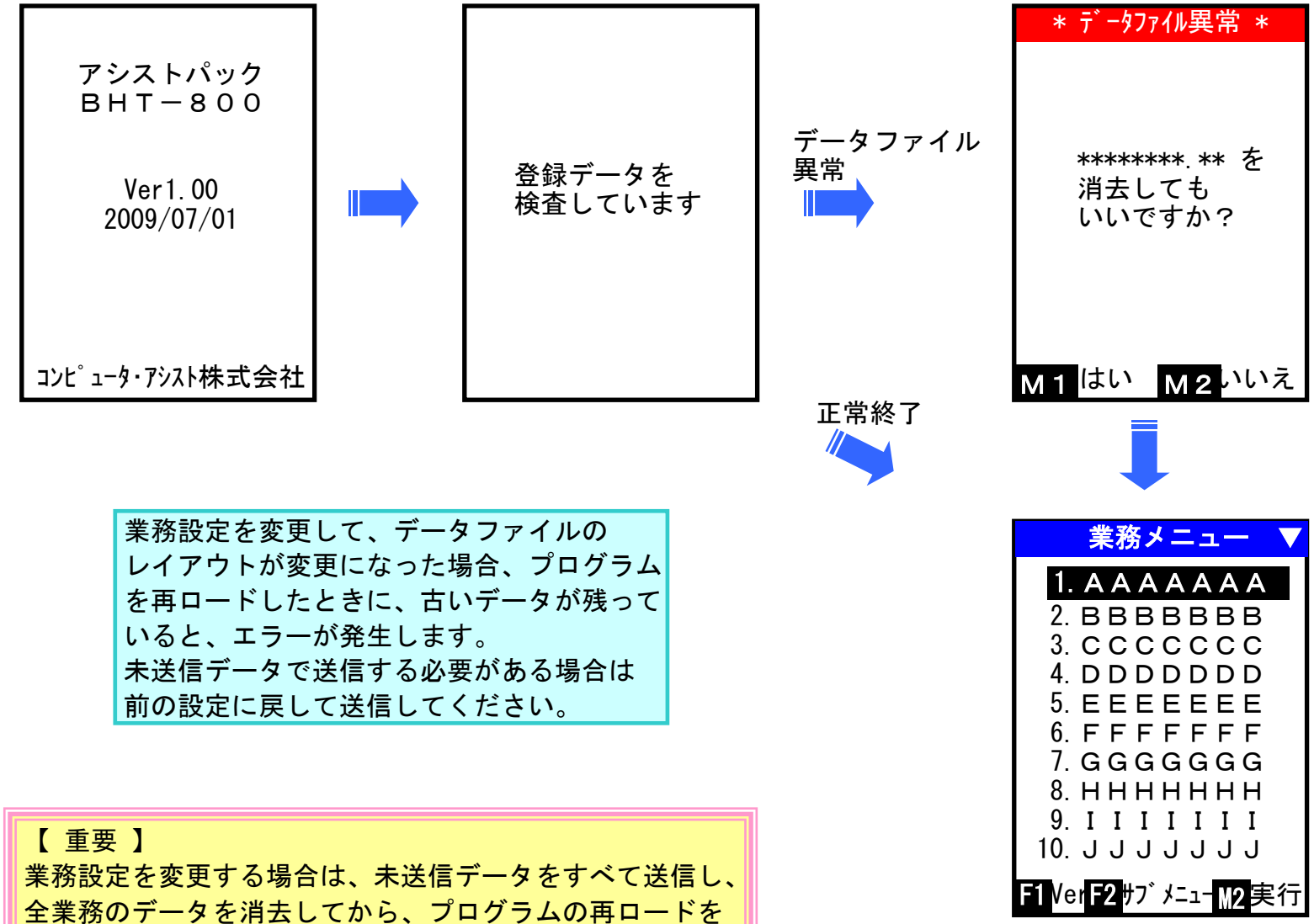
業務設定ﾃﾞｰﾀ受信ﾁｪｯｸ失敗の場合



業務設定データ受信チェックに失敗した場合に表示します。

② レジューム機能ＯＦＦにおける通常の場合

********.***　：　データファイル名

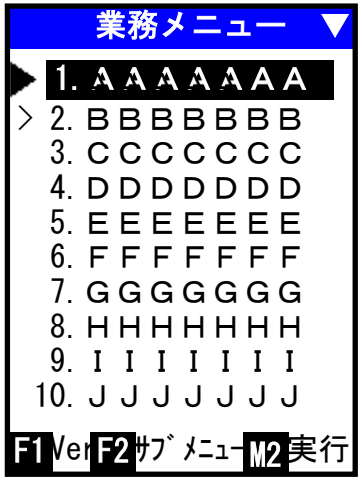


業務設定を変更して、データファイルのレイアウトが変更になった場合、プログラムを再ロードしたときに、古いデータが残っていると、エラーが発生します。
未送信データで送信する必要がある場合は前の設定に戻して送信してください。

【 重要 】
業務設定を変更する場合は、未送信データをすべて送信し、全業務のデータを消去してから、プログラムの再ロードをしてください。

３－６ 業務メニュー

業務数，業務名等の設定は、アシストパックマネージャーの業務設定を使用して設定してください。
「ＡＡＡＡＡ」，「ＢＢＢＢＢ」，～，「ＩＩＩＩＩ」，「ＪＪＪＪＪ」は、設定した業務名を表示します。



ファイル状態表示　▶：未送信データ　＞：送信済みデータ　？：異常ファイル

業務選択キー

▲	：上の業務を選択	▼	：下の業務を選択
◀	：前のページを表示	▶	：次のページを表示
1～9	：１～９の業務選択	0	：１０の業務選択
ＳＦ+1～9	：１１～１９の業務選択	ＳＦ+0	：２０の業務選択

機能実行キー

Ｍ２，ＥＮＴ　：反転表示の選択業務を実行
（データ収集モードの場合は、処理メニューまたは入力画面へ）
ＳＦ+Ｍ２：処理メニュー表示を設定しない場合、選択業務の保存データ訂正

右トリガーキー　：処理メニュー表示を設定しない場合、選択業務のデータ送信
左トリガーキー　：未送信データの全送信
BS/C　：選択業務のデータ消去
ＳＦ+・　：業務設定更新

Ｆ１　：バージョン表示
Ｆ２　：サブメニュー（サブメニュー表示を設定した場合）
Ｆ３　：日付時刻設定
ＳＦ+Ｆ１　：空メモリ状況表示
・　：選択業務の保存データ情報表示

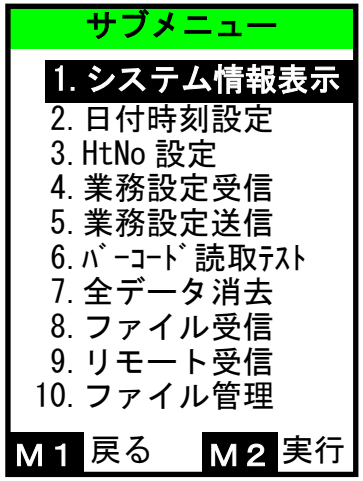
1）バージョン表示

業務メニューにおいて Ｆ１ キーを押すと表示します。

アシストパックをバージョンアップした場合に、プログラムが変更されたかこの画面で確認してください。
何かキーを押すと、業務メニューに戻ります。

2）サブメニュー

業務設定の「サブメニュー動作」を設定した場合、業務メニューにおいて Ｆ２ キーを押すと表示します。



▲　：　上を選択
▼　：　下を選択
Ｍ２，ＥＮＴ　：反転表示の項目を実行
１～９　：　１～９の項目を選択
０　：　１０の項目を選択
Ｍ１　：　業務メニューに戻ります
３秒以上押下すると
「ｽﾋﾟｰｶｰ音量，ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀ，画面の明るさおよび省電力」の設定画面を表示

３）日付時刻設定

業務メニューにおいて Ｆ３ キーを押すと表示します。

日付時刻設定

2006 年
10 月
1 日
0 時
0 分

Ｍ１ 戻る　Ｍ２ 設定

▲　：　前の項目へ移動
▼　：　次の項目へ移動
Ｍ２ ，ＥＮＴ　：　次の項目へ移動
（最後の項目の場合は設定してサブメニューに戻ります）
Ｍ２　：　入力したデータを設定してサブメニューに戻ります
Ｍ１　：　サブメニューに戻ります

４）空きメモリ状況表示

業務メニューにおいて ＳＦ+Ｆ１ キーを押すと表示します。

空メモリ状況

ファイルエリア
10,952,704 ﾊﾞｲﾄ
ワークエリア
1,274 ﾊﾞｲﾄ
スタックエリア
25,521 ﾊﾞｲﾄ

Ｍ１ 戻る

ファイルエリア
　データファイルとプログラムファイルの保存可能な空きメモリ領域を表示します。

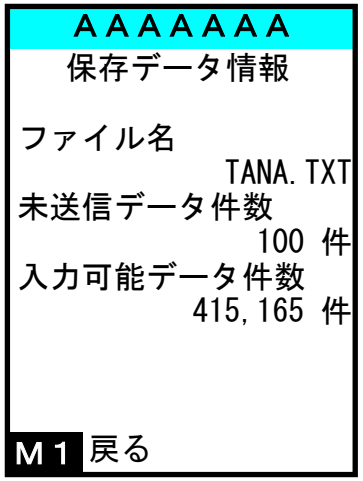
ワークエリア
　ワーク／コモン変数とユーザー定義関数用エリアの空きメモリ領域を表示します。

スタックエリア
　数値演算，文字列演算，ユーザー定義関数の呼び出しスタックの空きメモリ領域を表示します。

Ｍ１　：　業務メニューに戻ります

5）保存データ情報表示

業務メニューにおいて送信するデータの業務を選択して、・**キー**を押すと表示します。



ＡＡＡＡＡＡＡ：業務名を表示します。

ファイル名
　選択した業務データのファイル名を表示します。

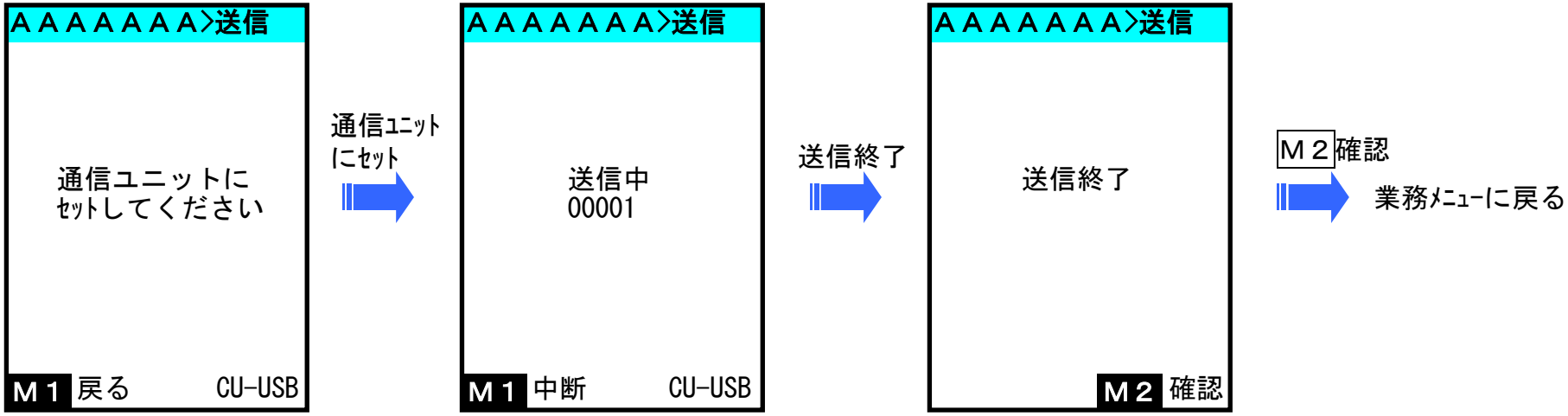
未送信データ件数
　選択した業務データの未送信データ件数を表示します。

入力可能データ件数
　選択した業務の保存可能な入力データ件数を表示します。

Ｍ１　：　業務メニューに戻ります

5）業務データ送信

業務メニューにおいて送信するデータの業務を選択して、**右トリガーキー**を押すと保存データを送信します。

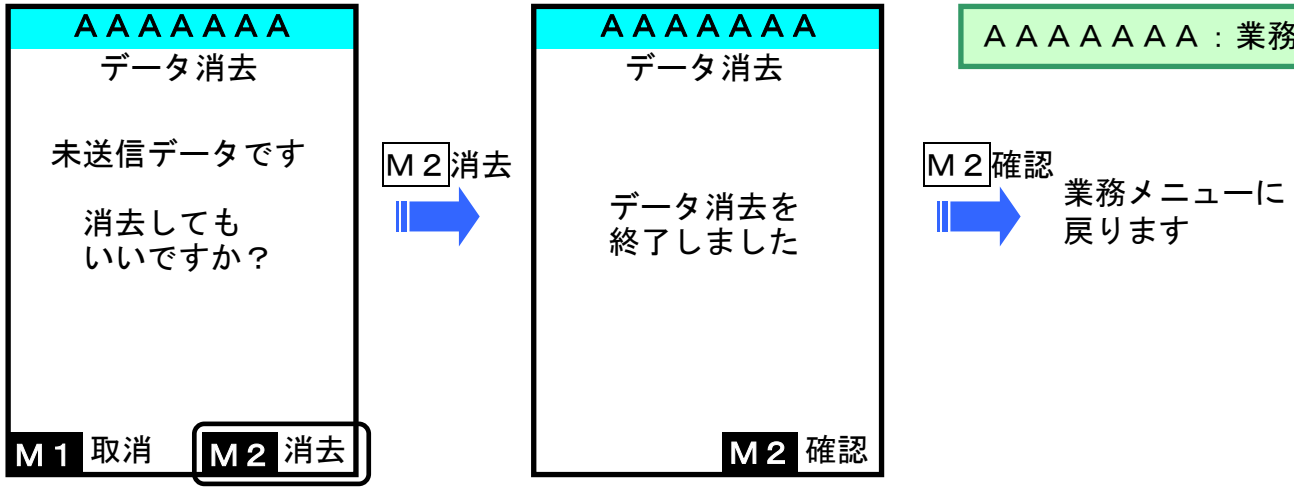


4）未送信データの全送信

業務メニューにおいて**左トリガーキー**を押すと未送信データを全部送信します。

５）業務データ消去

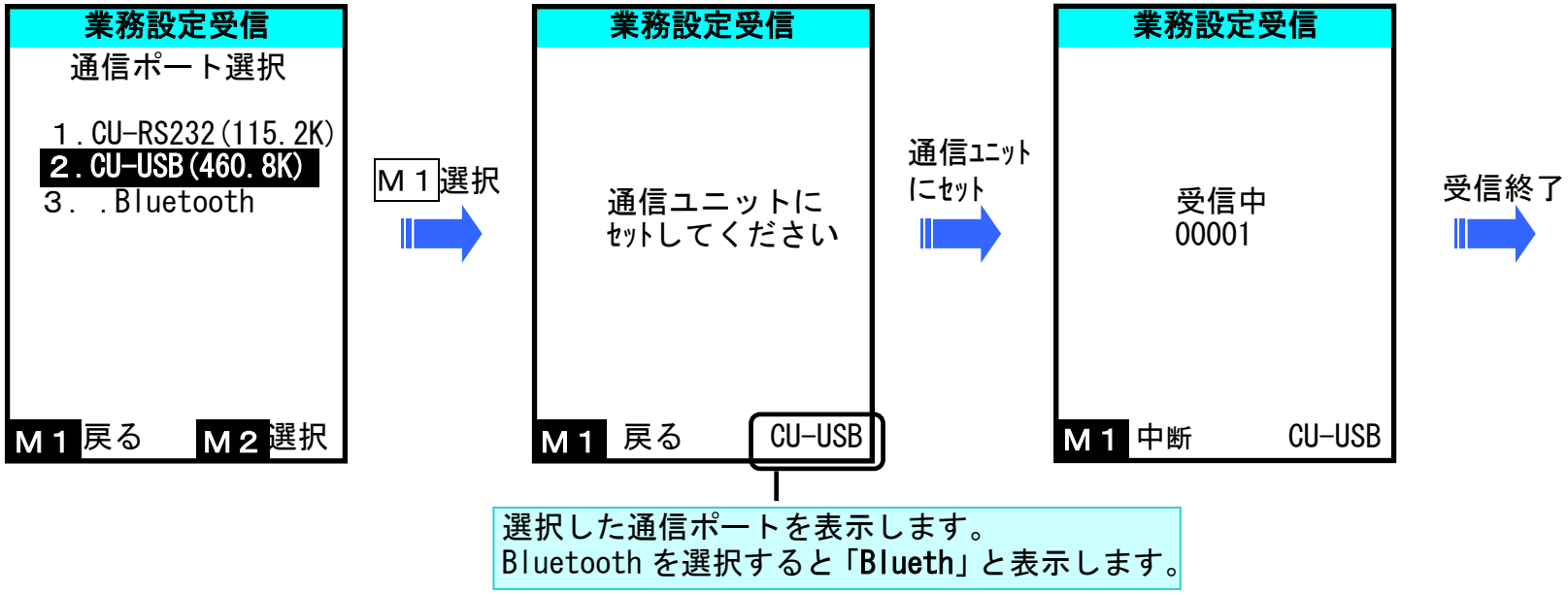
業務メニューにおいて BS/C キーを押すと業務メニューで選択されている業務の保存データを消去します。

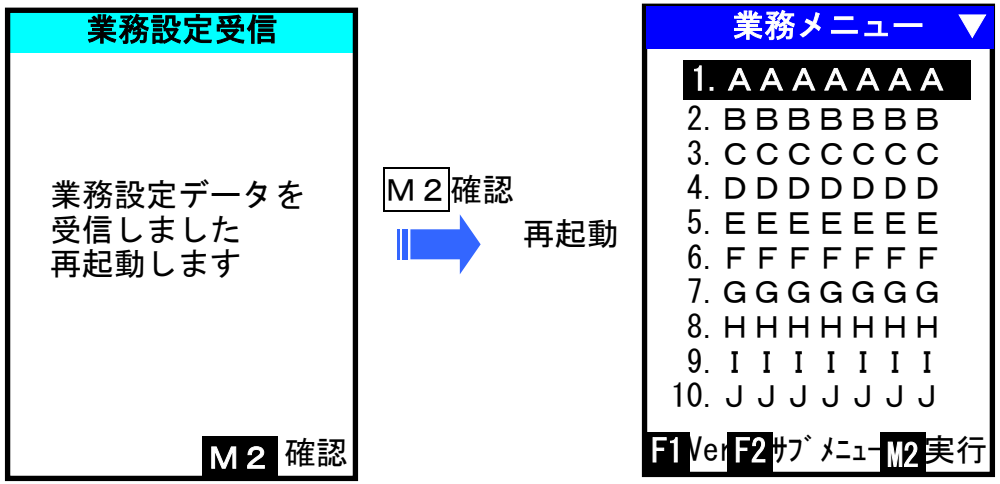


ＡＡＡＡＡＡＡ：業務名を表示します。

６）業務設定受信

業務メニューにおいて[ＳＦ]+[・]キーを押すと業務設定受信を開始します。



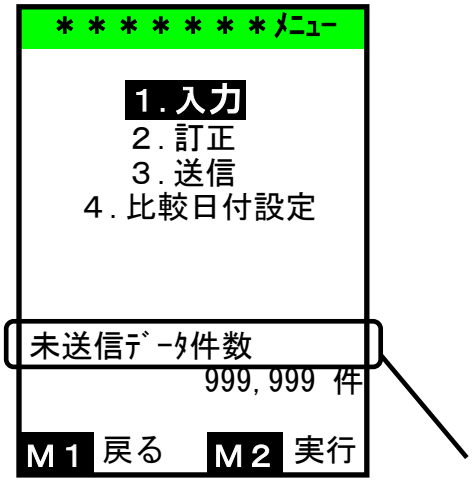


３－７ データ収集モード

処理メニュー（1. 入力　2. 訂正　3. 送信），グループ項目入力，データ項目入力等の操作を説明します。

３－７－１ 処理メニュー

処理メニューは、業務設定の基本設定において「処理メニュー表示」を設定した場合に表示します。



＊＊＊＊＊＊＊：処理する業務名を表示

１. 入力　：　グループ項目とデータ項目のデータ入力処理
２. 訂正　：　グループ項目を指定してデータ項目のデータ訂正／削除処理
（業務設定の基本設定において「保存ﾃﾞｰﾀ修正機能」を設定した場合に表示します）
３. 送信　：　データ送信処理
４. 比較日付設定：バーコードデータチェックの比較データに「比較日付設定」を設定した場合に表示し、比較日付を設定します。

M１　：　業務メニューに戻ります　　M２　：　選択した処理を実行
F１　：　保存データ情報表示　　BS/C（１秒以上押下）：　データ消去処理

送信済みデータ状態の場合は「送信済ﾃﾞｰﾀ件数」と表示

1）送信済データの場合の動作

保存データが送信済データの場合、入力処理と送信処理を選択すると、次の画面を表示します。

「1．入力」を選択した場合

＊＊＊＊＊＊＊ﾒﾆｭｰ

送信済データです
追加しますか？

M１ 取消　M２ 追加

送信済データに追加して問題が発生しないように注意してください。

M１ ： 処理メニューに戻る
M２ ： データ入力処理

「3．送信」を選択した場合

＊＊＊＊＊＊＊

送信済データです
再送信しますか？

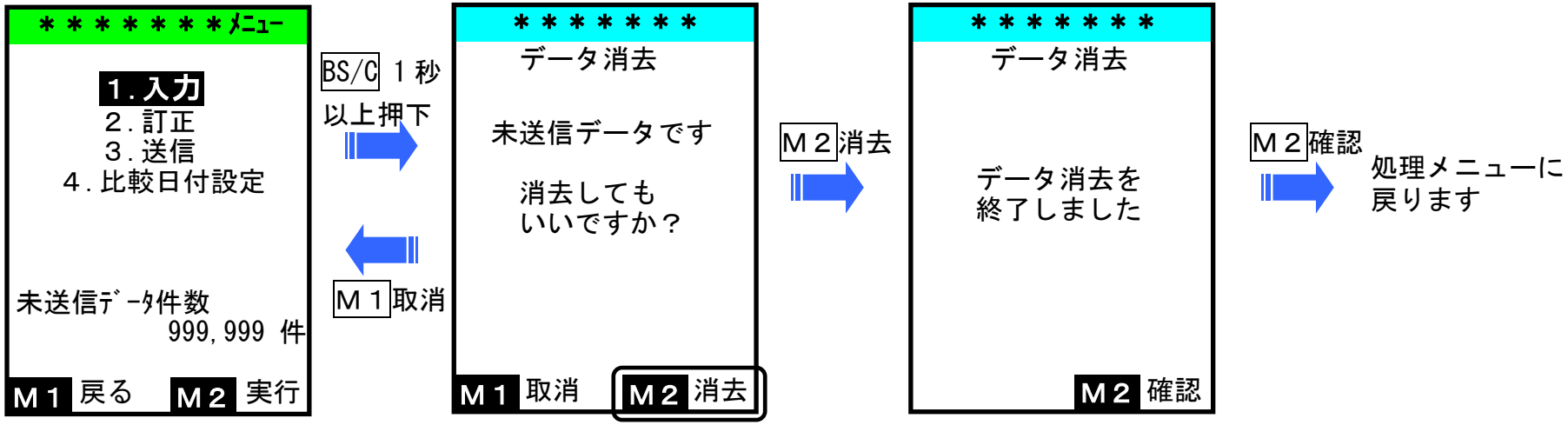
M１ 取消　M２ 再送

送信済ﾃﾞｰﾀを再送信して問題が発生しないように注意してください。

M１ ： 処理メニューに戻る
M２ ： データ送信処理

2）データ消去

処理メニュー画面において、BS/C を１秒以上押すと、現在選択業務の保存データを消去します。

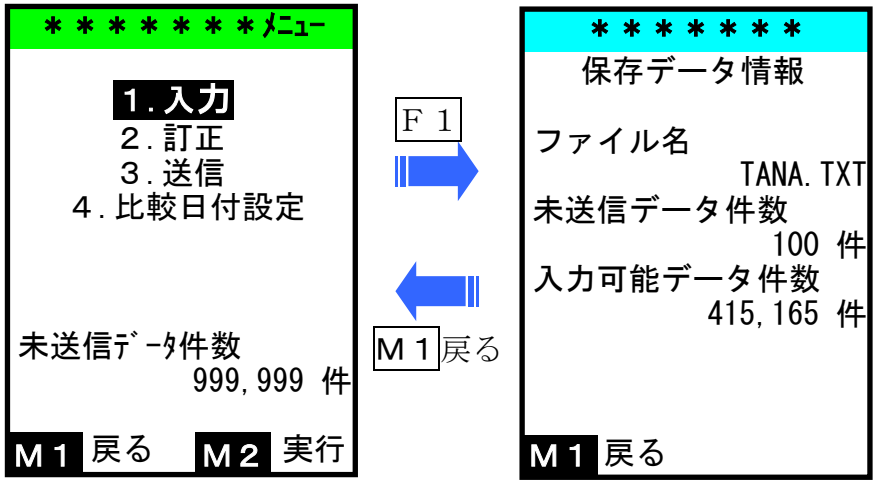


３）保存データ情報表示

処理メニュー画面において、Ｆ１ を押すと、「保存データ情報」を表示します。

「入力可能データ件数」の表示は、現在の業務において、これから入力できる最大のデータ件数を表示します。

最大データ登録件数は、１００万件ですが、メモリの空き容量に制限されます。



＊＊＊＊＊＊＊：業務名を表示します。

ファイル名
　選択した業務データのファイル名を表示します。

未送信データ件数
　選択した業務データの未送信データ件数を表示します。

入力可能データ件数
　選択した業務データの現在の入力可能データ件数を表示します。

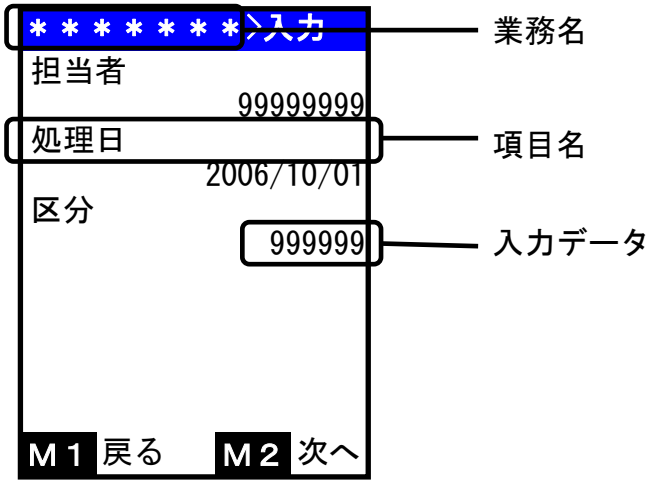
Ｍ１　：　処理メニューに戻ります

３－７－２ データ入力処理

業務設定で設定した内容に従って、グループ項目，データ項目のデータ入力をします。

１）グループ項目データ入力

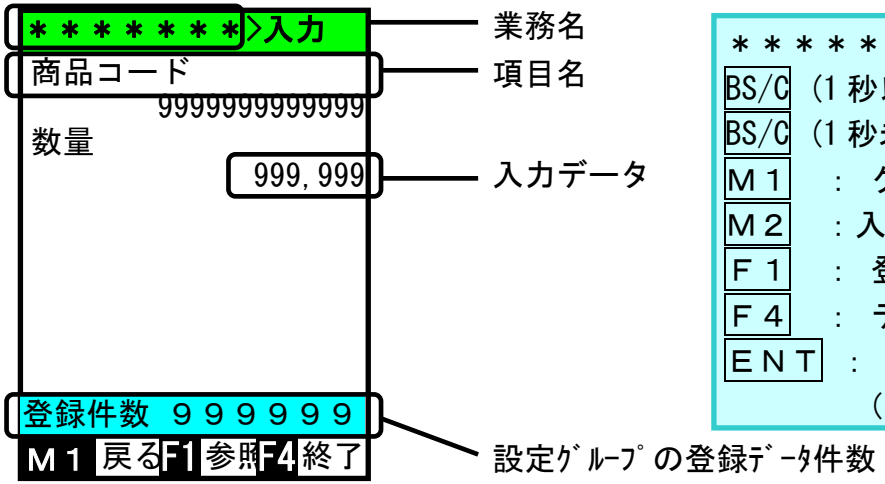
グループ項目の入力画面は、基本的に下図の画面表示になり、設定によりデータ入力操作と表示が変わります。



＊＊＊＊＊：　業務名を表示
BS/C（1 秒以上押下）：　入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）：　カーソル表示の左の１文字を削除
Ｍ１　：　前のグループ項目に移動
（最初のグループ項目の場合は処理メニューに戻ります）
Ｍ２　：入力を確定して設定した項目に移動
（最後のグループ項目の場合はデータ項目に移動）
ＥＮＴ　：　入力を確定して設定した項目に移動
（最後のグループ項目の場合はデータ項目に移動）

２）データ項目データ入力

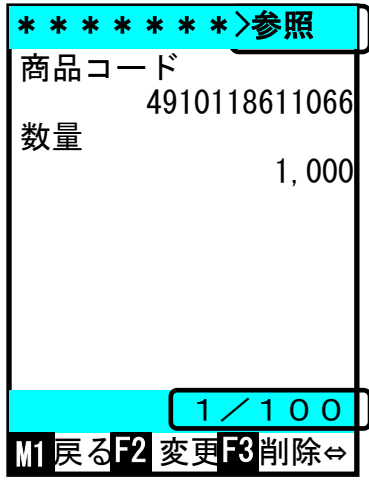
データ項目の入力画面は、基本的に下図の画面表示になり、設定によりデータ入力操作と表示が変わります。



＊＊＊＊＊：　業務名を表示
BS/C（1 秒以上押下）：　入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）：　カーソル表示の左の１文字を削除
Ｍ１　：　グループ項目の最後に戻ります
Ｍ２　：入力を確定して設定した項目に移動
Ｆ１　：　登録済データ参照
Ｆ４　：　データ入力を終了してグループ項目の最初に戻ります。
ＥＮＴ　：　入力を確定して設定した項目に移動
（最後のデータ入力項目の場合はデータを確定して登録）

３）登録済データ参照

データ項目入力画面において Ｆ１ を押すと、登録済データがある場合に表示します。



参照表示

＊＊＊＊＊：　業務名を表示
Ｍ１　：データ項目入力画面に戻ります。
Ｆ２　：　表示データの変更（保存データ修正機能を設定した場合に表示）
Ｆ３　：　表示データの削除（保存データ修正機能を設定した場合に表示）
◀　：　前のデータに移動　　▶　：　次のデータに移動
ＳＦ+◀：最初のデータに移動　ＳＦ+▶：最後のデータに移動

登録ﾃﾞｰﾀNo/登録ﾃﾞｰﾀ件数

データの削除と変更については、次の「３－７－３データ訂正処理」を参照してください

４）各データ形式の入力操作

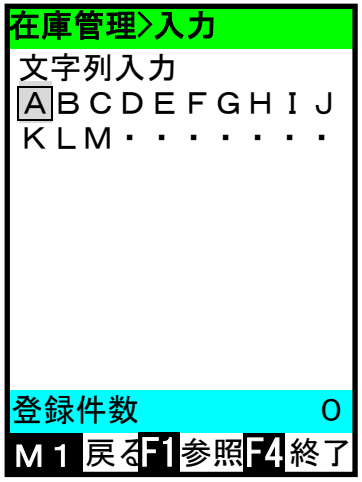
① 文字列

最大入力桁数が１～１８０桁の英数字のキー／バーコード入力です。最大入力桁数１８１～３５００桁を指定したバーコード入力のみになります。２次元バーコードの場合は、かな漢字入力もできます。

最大入力桁数 20 以下の場合

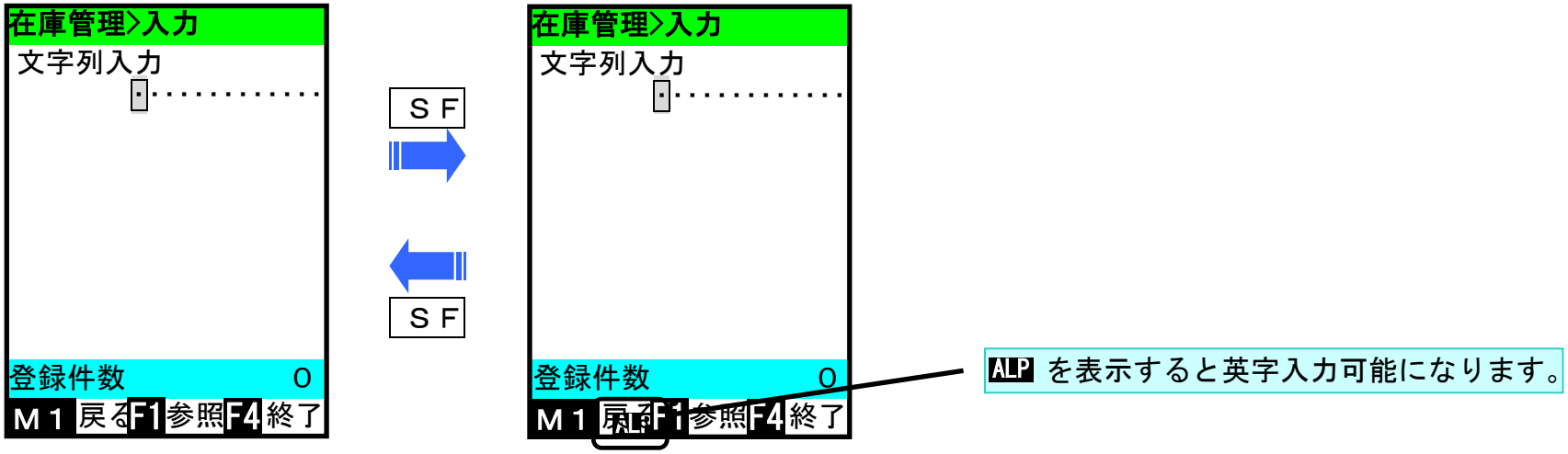
最大入力桁数 21 以上の場合

横倍表示の場合



BS/C（1 秒以上押下）： 入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）： カーソル表示の左の１文字を削除
ＥＮＴ： 入力データの確定
ＳＦ ：数字／英字入力切換（数字入力の場合は英字入力に、英字入力の場合は数字入力になります）
最大入力桁が７２桁以下の場合
◀ ：入力済文字列内のカーソルを左に移動 ▶ ：入力済文字列内のカーソルを右に移動
最大入力桁が７３桁以上の場合
◀ , ▶ で表示をスクロール可能になります。

・数字／英字入力の切換と英字入力方法

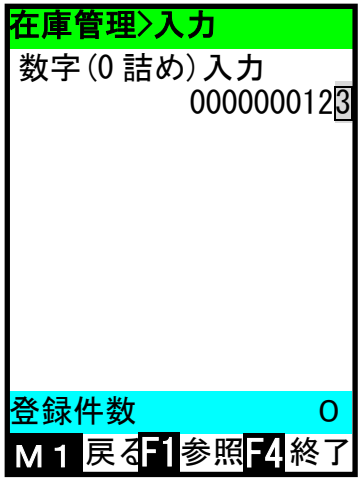


数字キーの同じキーを押下する毎に、数字キーの上部に表記してある英字を順番に表示します。
ＥＮＴで確定するか、別の数字キーを押して確定してください。
例） ＢＨＴを入力する場合
７ ７ ９ ９ １ １ ＥＮＴ の順番にキーを押します。

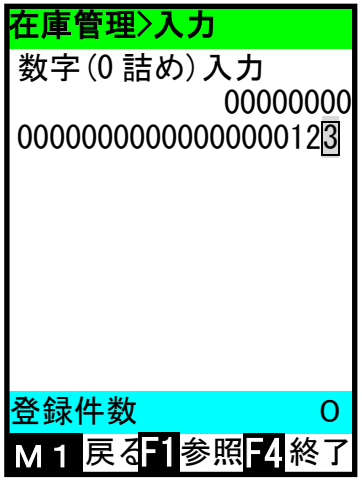
② 数字（０詰め表示）

最大入力桁数が１～９０桁の数字のみのキー／バコード入力です。入力したデータは、先頭に０詰めして右詰めに表示します。保存データは、先頭に０を詰め最大桁数に桁合わせして保存します。

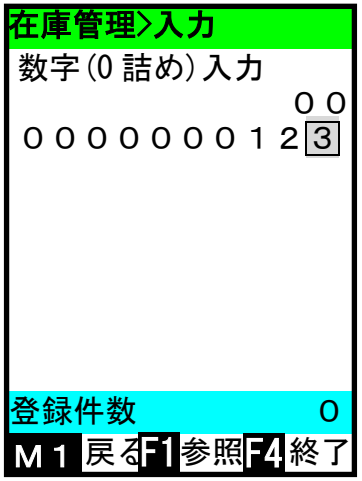
最大入力桁数 20 以下の場合



最大入力桁数 21 以上の場合



横倍表示の場合



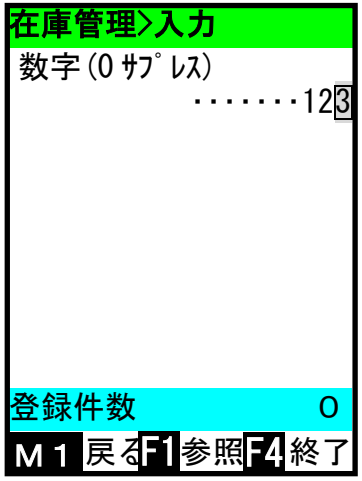
BS/C（1 秒以上押下）： 入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）： カーソル表示の左の１文字を削除
ＥＮＴ： 入力データの確定

バーコードにNW７，ＣＯＤＥ３９，ＣＯＤＥ９３，ＣＯＤＥ１２８，２次元バーコードを設定した場合、読み込んだバーコードのデータに数字以外の文字を含んでいると、「**入力文字エラー**」になります。

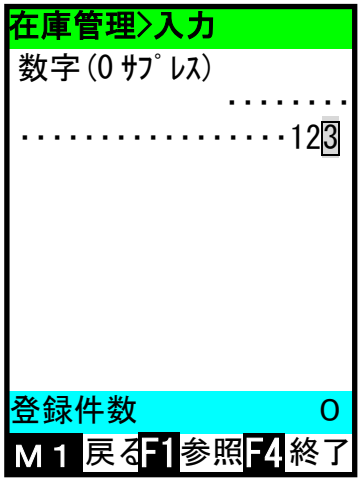
③ 数字（０サプレス表示）

最大入力桁数が１～９０桁の数字のみのキー／バコード入力です。入力したデータは、右詰めに表示されます。保存データは、先頭に０を詰め最大桁数に桁合わせして保存します。入力済のデータを表示する場合は、先頭の０を削除して右詰めに表示します。

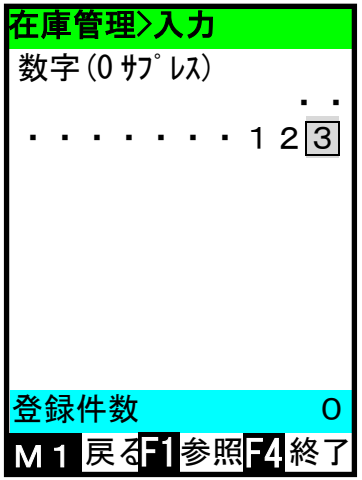
最大入力桁数 20 以下の場合



最大入力桁数 21 以上の場合



横倍表示の場合



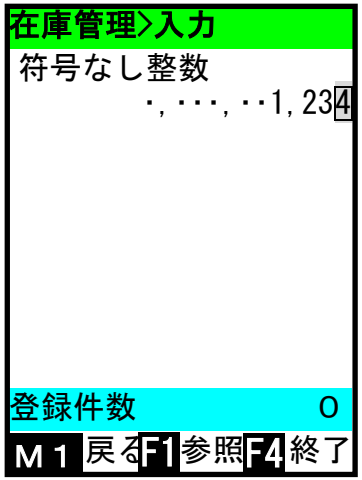
BS/C（1 秒以上押下）： 入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）： カーソル表示の左の１文字を削除
ＥＮＴ： 入力データの確定

バーコードにNW７，ＣＯＤＥ３９，ＣＯＤＥ９３，ＣＯＤＥ１２８，２次元バーコードを設定した場合、読み込んだバーコードのデータに数字以外の文字を含んでいると、「**入力文字エラー**」になります。

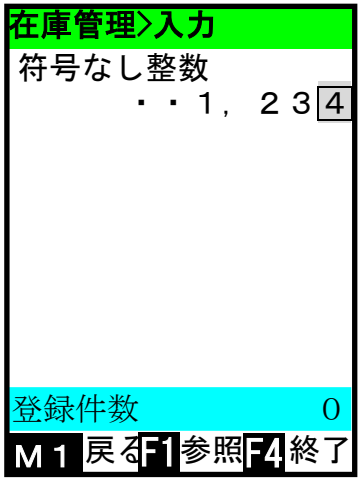
④ 符号なし整数

データ保存桁数が１～１０桁の数字，１桁以上の最大値と最小値による入力制限の入力です。
入力したデータは、右詰めのカンマ区切りで表示します。保存データは、先頭に０を詰め保存桁数に桁合わせして保存します。

標準表示の場合



横倍表示の場合



BS/C（1 秒以上押下）： 入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）： カーソル表示の左の１文字を削除
ＥＮＴ： 入力データの確定

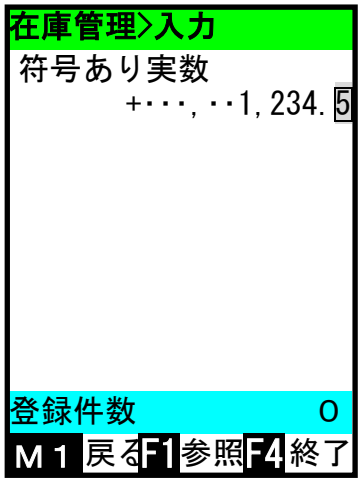
最後の項目に「**符号なし整数**」と「同一データの場合に数値を加算」を設定した場合、グループ項目データとこの項目までのデータが既に登録されたデータに存在した場合、登録データの数値に入力値を加算します。この場合の登録件数は増加しません。

入力後移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、ＥＮＴ を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。初期値が設定されていて、変更しない場合は、バーコードの読み取りだけの動作になりますので、作業性が向上します。

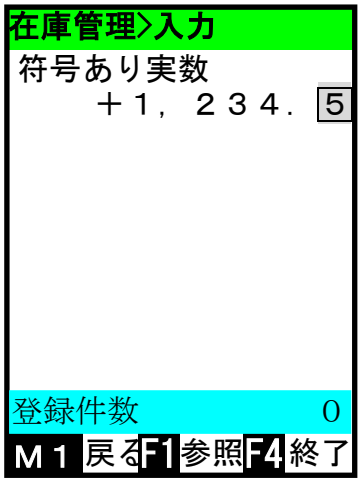
⑤ 符号付き実数

データ保存桁数が１～１２桁（符号，小数点を含む）の浮動小数点数字，１桁以上の最大値と最小値による入力制限の入力です。入力したデータは、先頭に符号、右詰めのカンマ区切りで表示します。保存データは、先頭に符号、その次に０を詰め保存桁数に桁合わせして保存します。

標準表示の場合



横倍表示の場合



ＳＦ＋ ・ ： ＋／－切り替え
・ ： 小数点
BS/C（1 秒以上押下） ： 入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下） ： カーソル表示の左の１文字を削除
ＥＮＴ： 入力データの確定

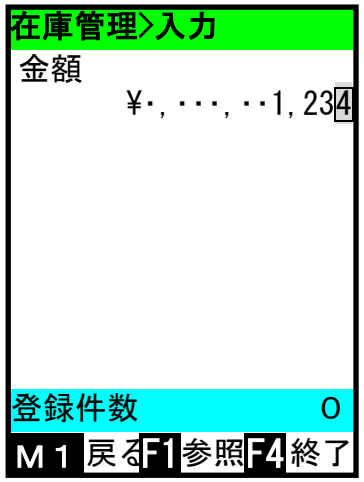
最後の項目に「**符号なし整数**」と「同一データの場合に数値を加算」を設定した場合、グループ項目データとこの項目までのデータが既に登録されたデータに存在した場合、登録データの数値に入力値を加算します。この場合の登録件数は増加しません。

入力後の移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、ＥＮＴ を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。初期値が設定されていて、変更しない場合は、バーコードの読み取りだけの動作になりますので、作業性が向上します。

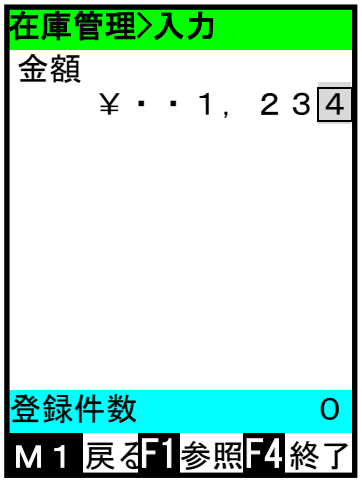
⑥ 金額

データ保存桁数が１～１０桁の数字，１桁以上の最大値と最小値による入力制限の入力です。
入力したデータは、先頭に「￥」を付け右詰めのカンマ区切りで表示します。保存データは、先頭に０を詰め保存桁数に桁合わせして保存します。

標準表示の場合



横倍表示の場合



BS/C（1 秒以上押下）： 入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）：最下位の数字を削除
ＥＮＴ： 入力データの確定

入力後の移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、ＥＮＴ を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。初期値が設定されていて、変更しない場合は、バーコードの読み取りだけの動作になりますので、作業性が向上します。

⑦ 日付

ＹＹＹＹ／ＭＭ／ＤＤ	西暦４桁年／２桁月／２桁日	データ保存桁数＝１０	横倍表示可
ＹＹ／ＭＭ／ＤＤ	西暦下２桁年／２桁月／２桁日	データ保存桁数＝８	横倍表示可
ＭＭ／ＤＤ	２桁月／２桁日	データ保存桁数＝５	横倍表示可

	ＹＹＹＹ／ＭＭ／ＤＤ	ＹＹ／ＭＭ／ＤＤ	ＭＭ／ＤＤ
標準表示	在庫管理>入力 日付(YYYY/MM/DD) 2006/10/01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了	在庫管理>入力 日付(YY/MM/DD) 06/10/01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了	在庫管理>入力 日付(MM/DD) 10/01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了
横倍表示	在庫管理>入力 日付(YYYY/MM/DD) ２００７／０１／０１ 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了	在庫管理>入力 日付(YYYY/MM/DD) ０６／１０／０１ 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了	在庫管理>入力 日付(MM/DD) １０／０１ 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了

BS/C（1 秒以上押下）：
入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）：
カーソル表示の左の１文字を削除
ＥＮＴ：入力データの確定

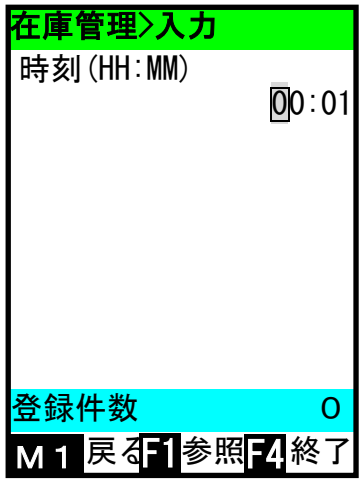
入力後の移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、ＥＮＴ を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。

SAMPLE

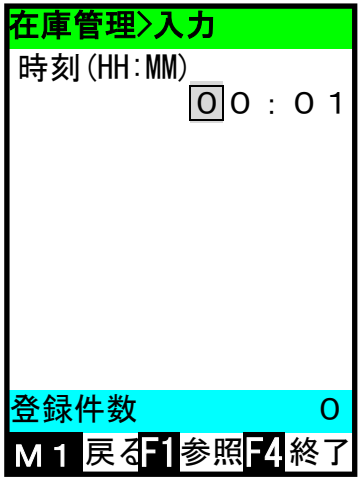
⑧ 時刻

時刻のデータ形式は、ＨＨ：MMの２４時間制です。初期値を設定しないとシステム自国を初期値にして表示します。

標準表示の場合



横倍表示の場合



BS/C（1 秒以上押下）： 入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）： カーソル表示の左の１文字を削除
ＥＮＴ： 入力データの確定

入力後移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、ＥＮＴ を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。

５）データ入力エラー

データ入力時に入力エラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	符号なし／符号あり数値入力と金額入力において１桁の入力もしないで入力確定した場合に発生します。
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合に発生します。
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（０詰め表示）と数字（０サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにＣＯＤＥ３９，ＣＯＤＥ９３，ＣＯＤＥ１２８など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合に発生します。
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合に発生します。 （例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
最大入力値ｵｰﾊﾞｰ	最大入力値ｵｰﾊﾞｰ	符号なし整数，符号付き実数，金額のデータ形式において、設定した最大入力値を超える値を入力した場合に発生します。
最小入力値エラー	最小入力値エラー	符号なし整数，符号付き実数，金額のデータ形式において、設定した最小入力値未満の値を入力した場合に発生します。
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ桁数ｴﾗｰ	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ桁数ｴﾗｰ	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
指定文字検査ＮＧ	指定文字検査ＮＧ	**バーコードのデータ検査における比較データに「指定文字」を設定し、指定した文字列と比較して、読取ＮＧ条件を満足した場合に発生します。**
ﾃﾞｰﾀ振り分けｴﾗｰ	ﾃﾞｰﾀ振り分けｴﾗｰ	データ振り分け処理において、バーコード読取桁数が小さく振り分けできないか、振り分けデータが振り分け先項目の入力制限外の場合に発生します。
2 重ﾃﾞｰﾀ登録拒否	2 重ﾃﾞｰﾀ登録拒否	２重データ登録拒否を設定した場合、同じグループ項目でデータ項目１のデータが既に登録されている場合に発生します。
ﾏｽﾀｰに未登録	ﾏｽﾀｰに未登録です	設定されているマスターファイルに、入力したデータが存在しない場合に発生します。

エラー	エラー表示	内容
登録データがない	登録データがない	参照画面において、検索したデーターがない場合に発生します。
前回データ保存失敗	前回データ保存失敗	入力初期値に「前回の入力」を設定し、入力初期値として入力データの保存に失敗した場合に発生します。
AI ｺｰﾄﾞﾃﾞｰﾀ抽出ｴﾗｰ	AI ｺｰﾄﾞﾃﾞｰﾀ抽出ｴﾗｰ	読み取ったバーコードデータから、設定したＡＩコードのデータの抽出に失敗した場合に発生します。
AICODE.TBL がない	AICODE.TBL がない	データフォーマットに「ＡＩコード」を設定して、ＡＩコードテーブルの「AICODE.TBL」がない場合に発生します。
指定数値検査ＮＧ	指定数値検査ＮＧ	バーコードのデータ検査における比較データに「指定数値」を設定し、指定した数値と比較して読取ＮＧ条件を満足した場合に発生します。
日付検査ＮＧ	日付検査ＮＧ	バーコードのデータ検査における比較データに「比較日付設定」を設定し、設定した日付と比較して、読取ＮＧ条件を満足した場合に発生します。
ｼｽﾃﾑ日付検査ＮＧ	ｼｽﾃﾑ日付検査ＮＧ	バーコードのデータ検査における比較データに「ｼｽﾃﾑ日付」を設定し、ｼｽﾃﾑ日付と比較して、読取ＮＧ条件を満足した場合に発生します。
指定項目ﾃﾞｰﾀ検査ＮＧ	指定項目ﾃﾞｰﾀ検査ＮＧ	バーコードのデータ検査における比較データに指定項目データを設定し、その項目データと比較して、読取ＮＧ条件を満足した場合に発生します。
比較データエラー	比較データエラー	比較データにエラーがある場合に発生します。
比較ﾃﾞｰﾀ AI ｺｰﾄﾞｴﾗｰ	比較ﾃﾞｰﾀ AI ｺｰﾄﾞｴﾗｰ	比較データＡＩコードにエラーがある場合に発生します。
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞﾃﾞｰﾀｴﾗｰ	ﾊﾞｰｺｰﾄﾞﾃﾞｰﾀｴﾗｰ	読み取ったバーコードデータが設定したデータフォーマットと違う場合に発生します。
入力エラー	入力エラー	上記以外の入力エラー

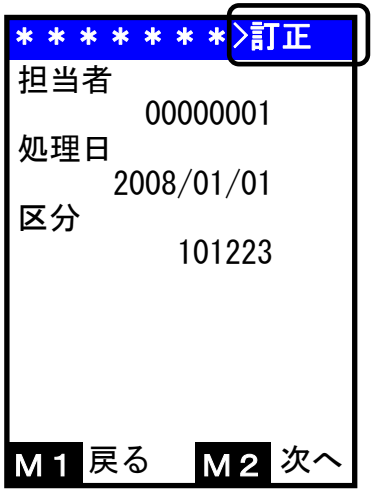
３－７－３ データ訂正処理

業務設定の基本設定において「保存ﾃﾞｰﾀ修正機能」を設定した場合に、未送信データと送信済データを変更／削除します。

送信済データを変更／削除する場合は、問題が発生しないように注意してください。

１）グループ項目指定

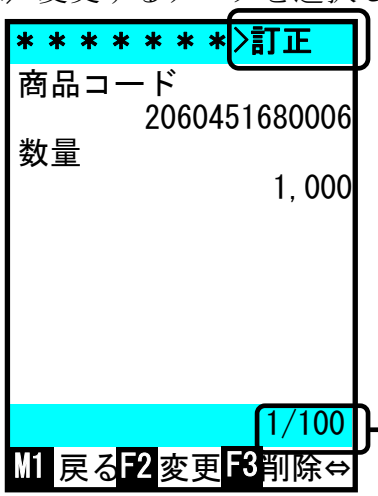
訂正するデータのグループ項目を指定します。入力操作は、データ入力処理と同じです。



＊＊＊＊＊：　業務名を表示
BS/C（1 秒以上押下）：　入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）：　カーソル表示の左の１文字を削除
Ｍ１　：　前のグループ項目に移動
（最初のグループ項目の場合は処理メニューに移動）
Ｍ２　：入力を確定して設定した入力項目に移動
（最後のグループ項目の場合は「登録データ選択画面」に移動）
ＥＮＴ：　入力を確定して設定した入力項目に移動
（最後のグループ項目の場合は「登録データ選択画面」に移動）

２）訂正データ選択

削除／変更するデータを選択します。



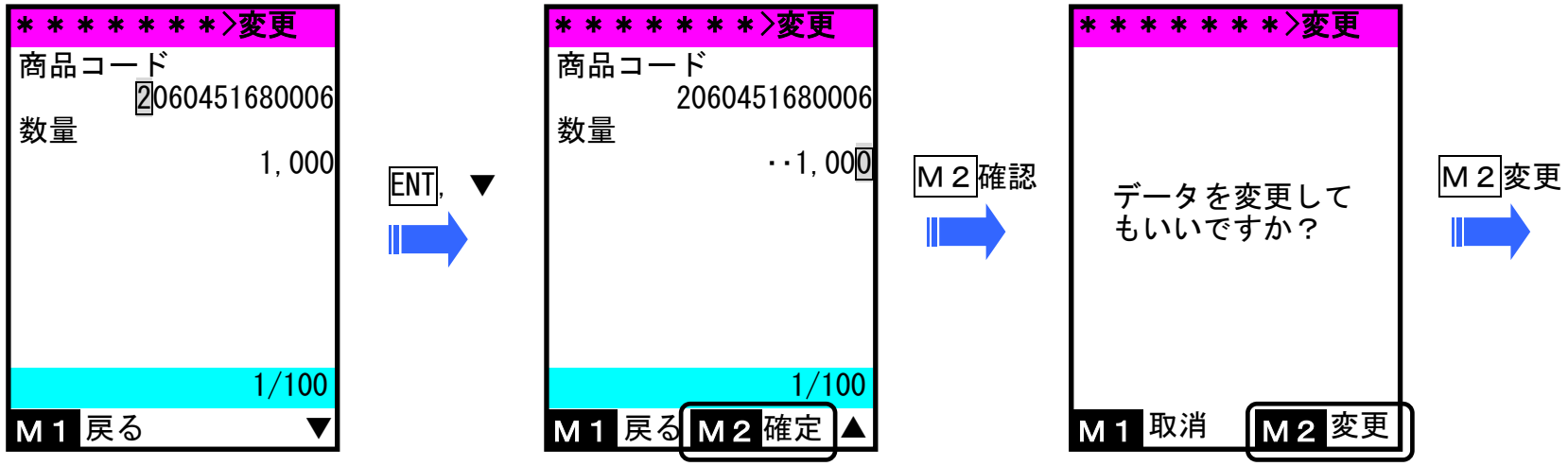
登録ﾃﾞｰﾀNo/登録ﾃﾞｰﾀ件数

＊＊＊＊＊：　業務名を表示
Ｍ１　：　グループ項目指定に戻ります
Ｆ２　：　表示データの変更
Ｆ３　：　表示データの削除
◀　：　前のデータに移動
▶　：　次のデータに移動
ＳＦ+◀：最初のデータに移動
ＳＦ+▶：最後のデータに移動

サンプル

３）データ変更

「訂正データ選択」画面において、 F２ を押して登録データの変更処理をします。



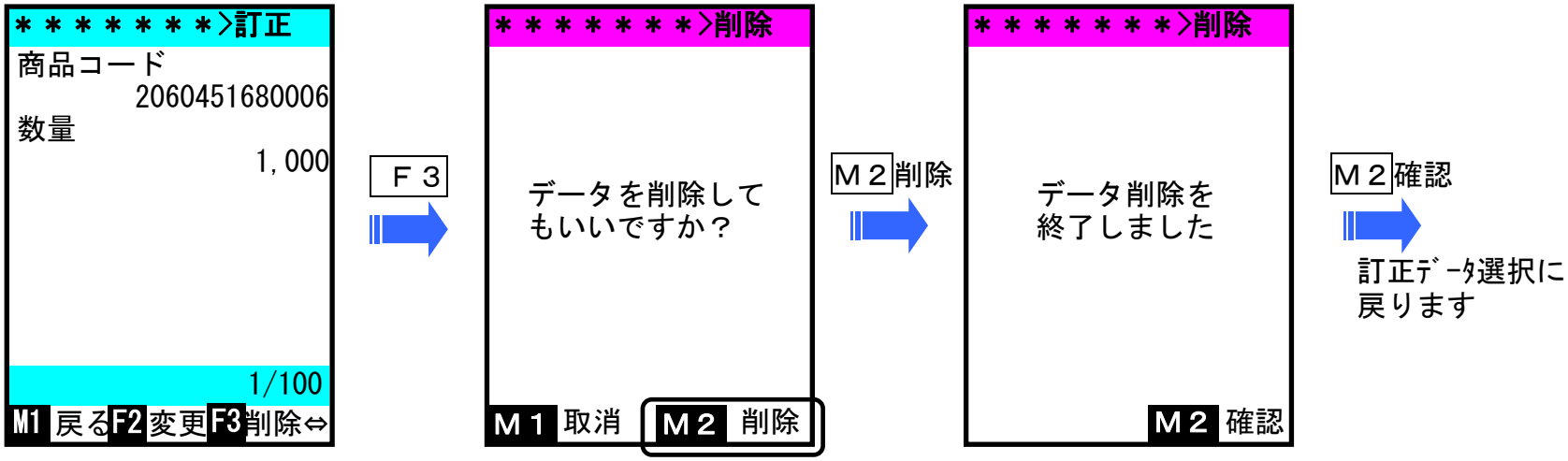
M１ ：変更を取消して、「訂正データ選択」画面へ
M２ ：次の項目に移動（最後の項目の場合は、「変更確認画面」へ）
▲ ：前の項目に移動 ▼ ：次の項目に移動
ＥＮＴ ：ﾃﾞｰﾀを確定して次の項目に移動（最後の項目の場合は、「変更確認画面」へ）

M１ ： 変更を取り消して、
「訂正データ選択」画面へ
M２ ： 変更したデータを保存して
「データ変更終了」画面へ

SAMPLE

４）データ削除

「訂正データ選択」画面において、 Ｆ２ を押して登録データの削除処理をします。



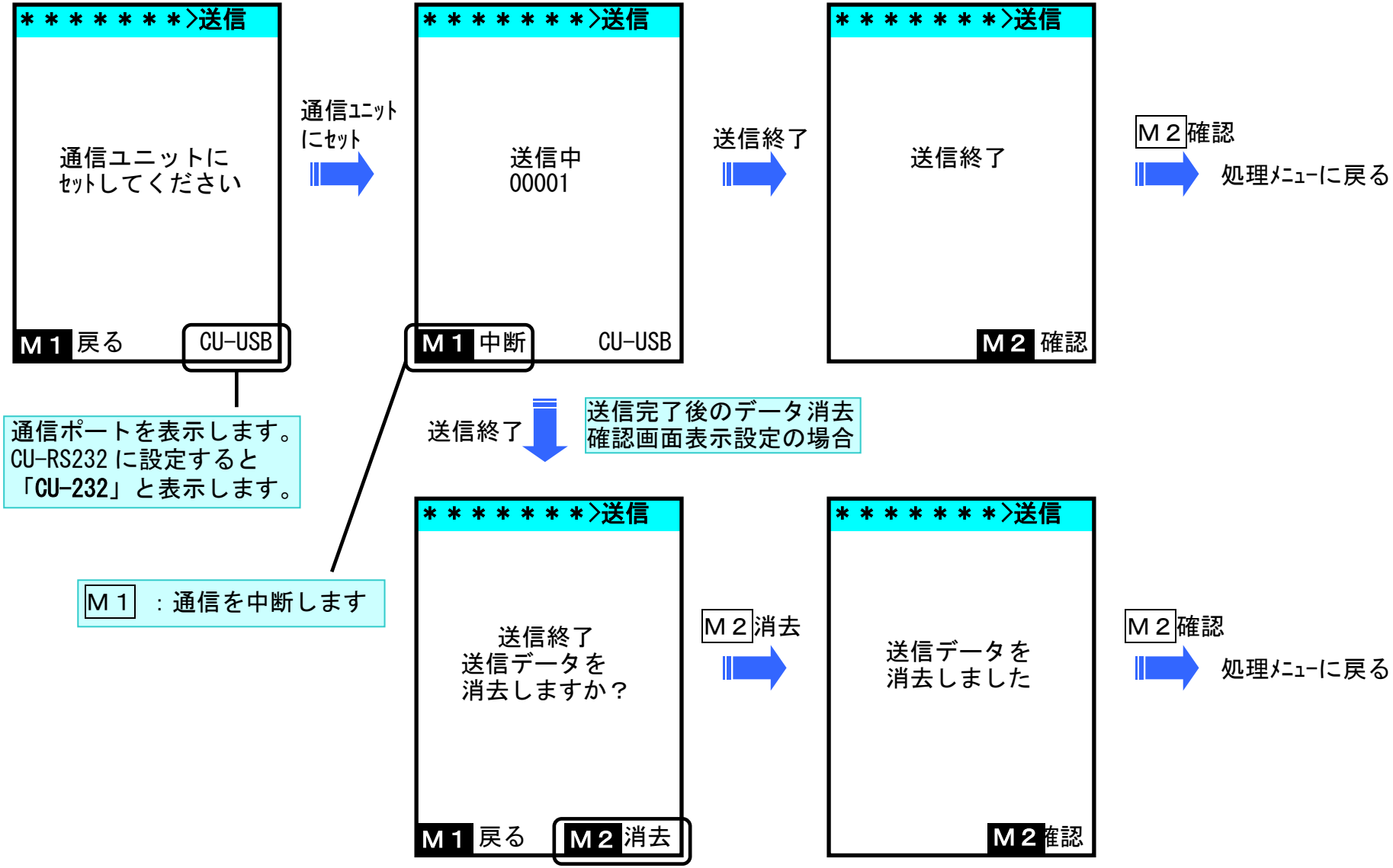
Ｍ１ ： データ削除を取り消して、
「訂正データ選択」画面へ

Ｍ２ ： データを削除して、
「データ削除終了」画面へ

３－７－４　データ送信処理

処理中の業務の未送信データまたは送信済データを、設定した通信ポートに送信します。

送信済データを再送信する場合は、問題が発生しないように注意してください。



SAMPLE

＊ データ送信時のエラー発生

送信中断の場合

＊＊＊＊＊＊＊＊送信

通信中断

M２ 確認

中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。

送信エラーの場合

＊＊＊＊＊＊＊＊送信

通信エラー発生!!

M２ 確認

M２ 確認

処理ﾒﾆｭｰに戻る

通信エラーが発生した場合に表示します。

３－７－５ 比較日付設定

バーコードデータチェックの比較データに「比較日付設定」を設定した場合、この画面で設定する日付と比較します。

比較日付設定

比較日付

・・／・・／・・

M１ 戻る　M２ 設定

BS/C（1 秒以上押下）：入力データクリア
BS/C（1 秒未満押下）：カーソル表示の左の１文字を削除

M１ ： 入力を取り消して処理メニューに戻る
M２ ： 入力を設定して処理メニューに戻る
ＥＮＴ ： 入力を設定して処理メニューに戻る

３－８ 商品コード＋数量収集モード

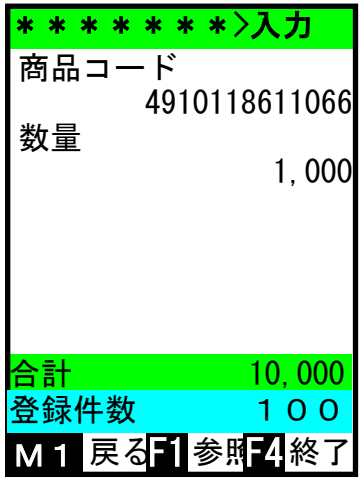
この動作モードは、データ収集モードのデータ項目を商品コードと数量に特化したものです。

① データ項目は２項目、データ形式は固定になり、変更できません。

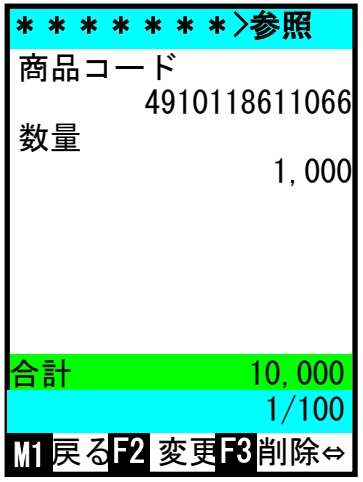
データ項目	データ形式（固定）
商品コード（第１データ項目）	文字列
数量（第２データ項目）	符号付き実数

② 「合計数量表示」を設定すると、入力中のグループにおける数量の合計を表示します。
表示範囲：-9999999999　～　+9999999999

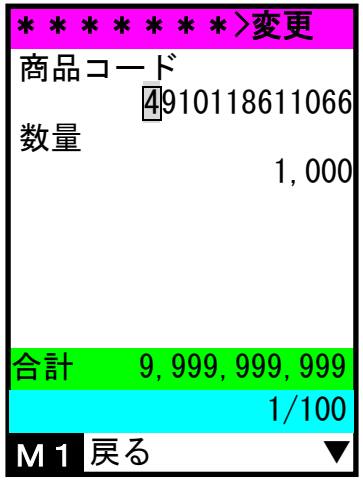
データ入力画面



データ参照画面

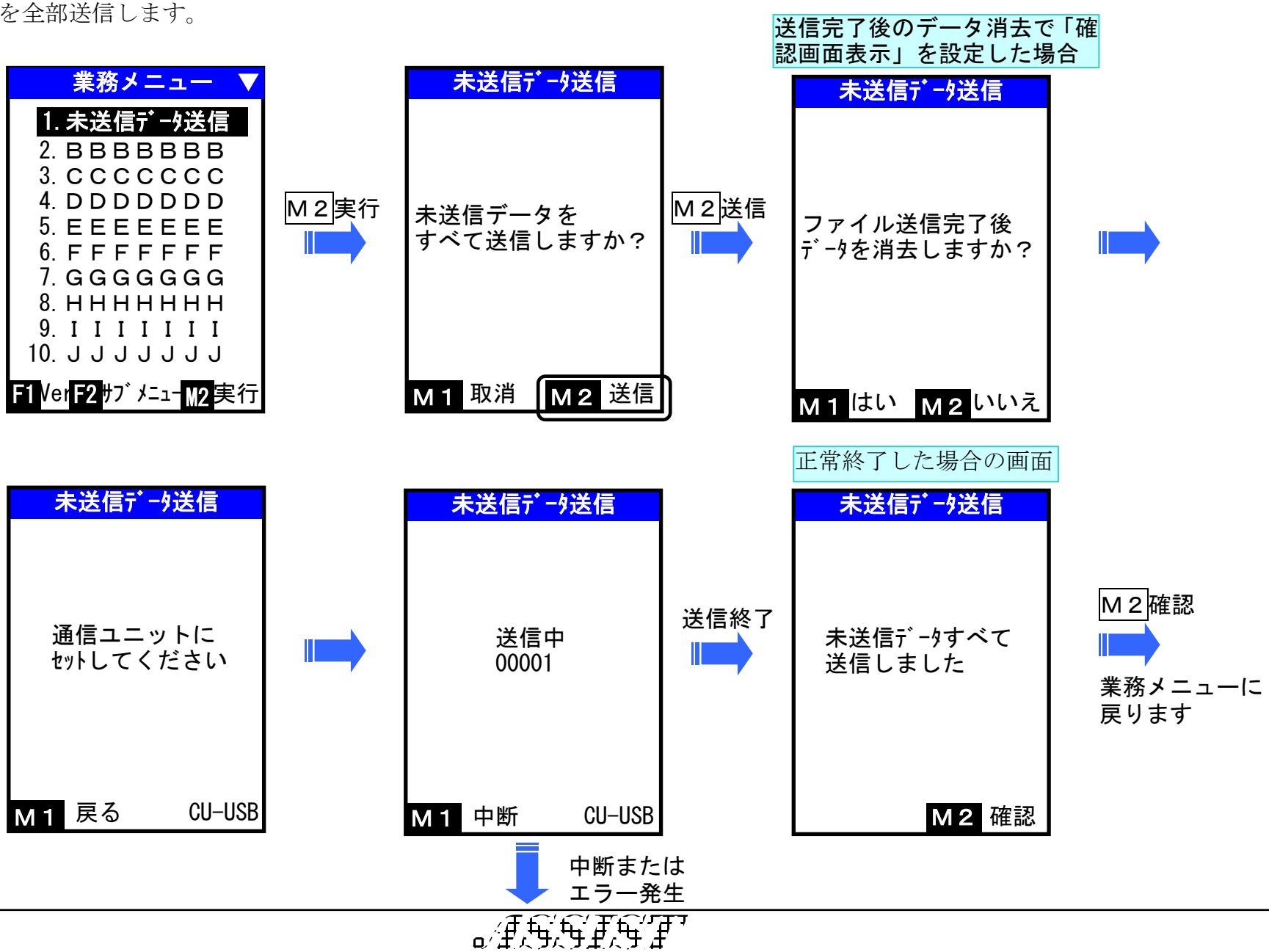


データ変更画面



３－９ 未送信データの全送信モード

業務メニューにおいて「未送信データの全送信」モード設定の業務名を選択して、M２（実行）を押すと、未送信データのファイルを全部送信します。



送信中断の場合

未送信ﾃﾞｰﾀの全送信

通信中断

Ｍ２ 確認

中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。

送信エラーの場合

未送信ﾃﾞｰﾀの全送信

通信エラー発生!!

Ｍ２ 確認

通信エラーが発生した場合に表示します。

Ｍ２確認

未送信ﾃﾞｰﾀの全送信

99 個の
未送信データを
送信しました

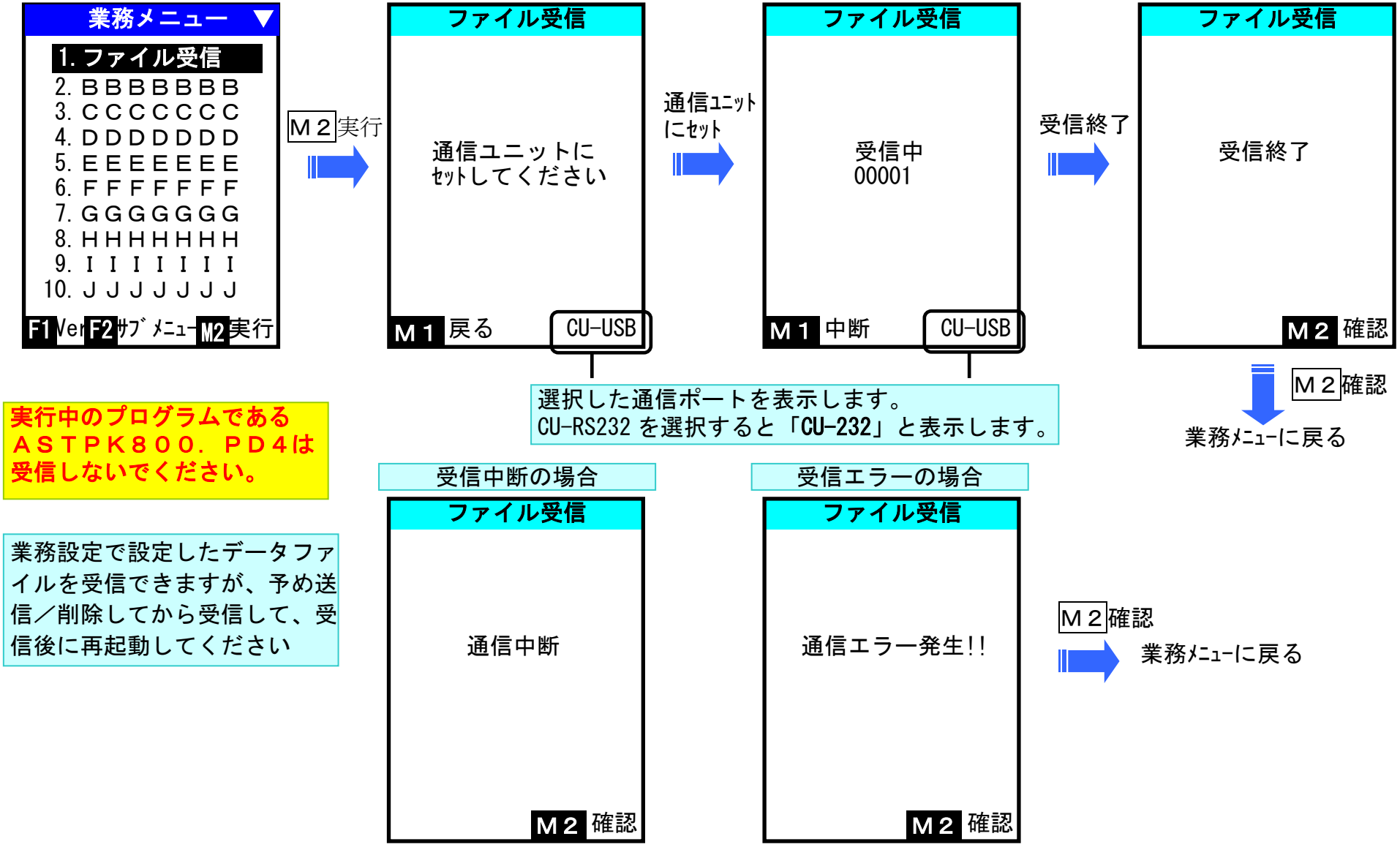
Ｍ２ 確認

Ｍ２確認

業務メニューに
戻ります

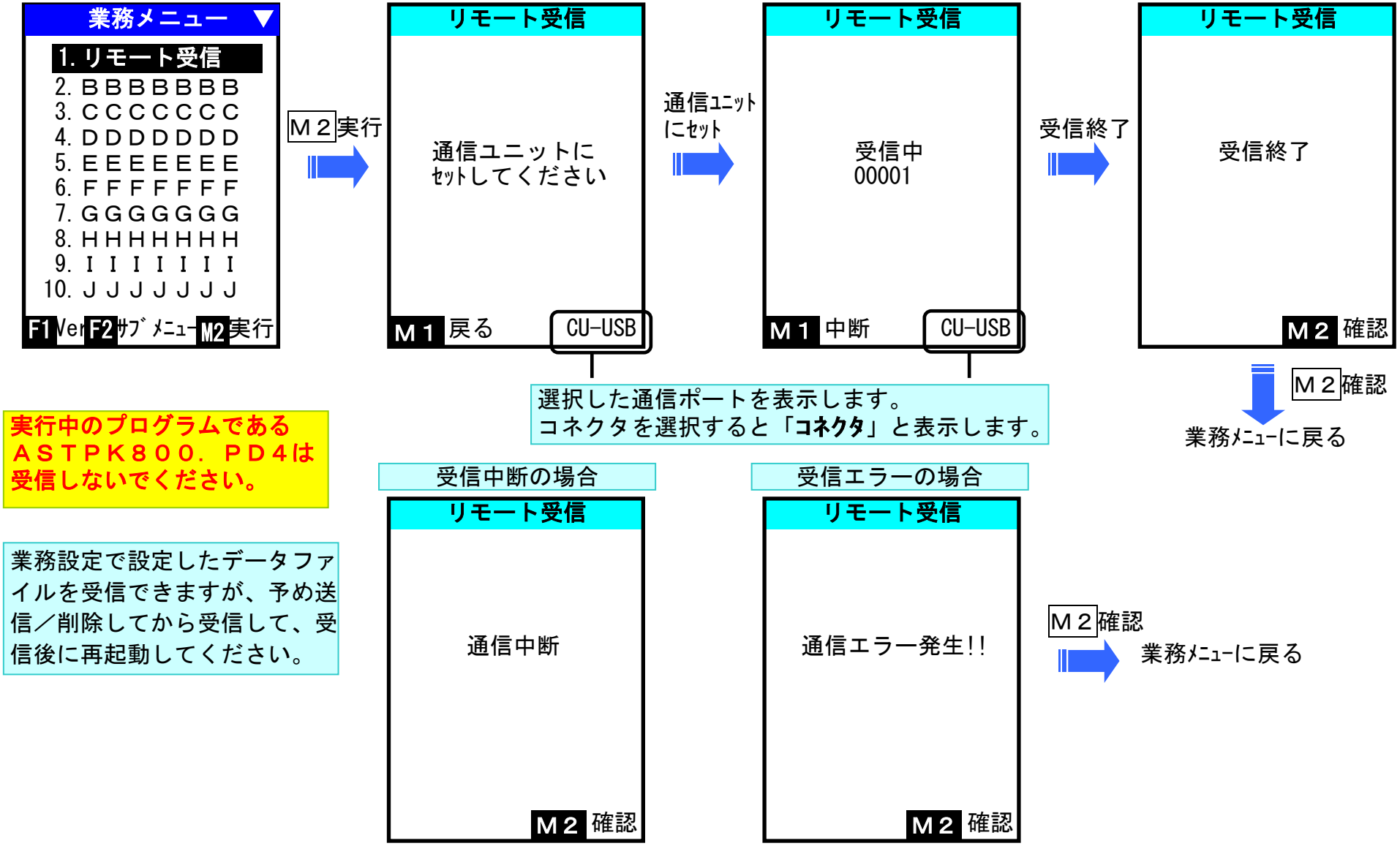
３－１０ ファイル受信モード

業務メニューにおいて「ファイル受信」モード設定の業務名を選択して、Ｍ２（実行）を押すと、設定したファイルを受信します。受信ファイル名を設定しない場合は、送られてきたファイルを受信します。



３－１１　リモート受信モード

業務メニューにおいて「リモート受信」モード設定の業務名を選択して、**Ｍ２**（実行）を押すと、「ＢｈｔＹｍＣｏｍ．ｅｘｅ通信プログラム」で設定したファイルをリモート受信します。



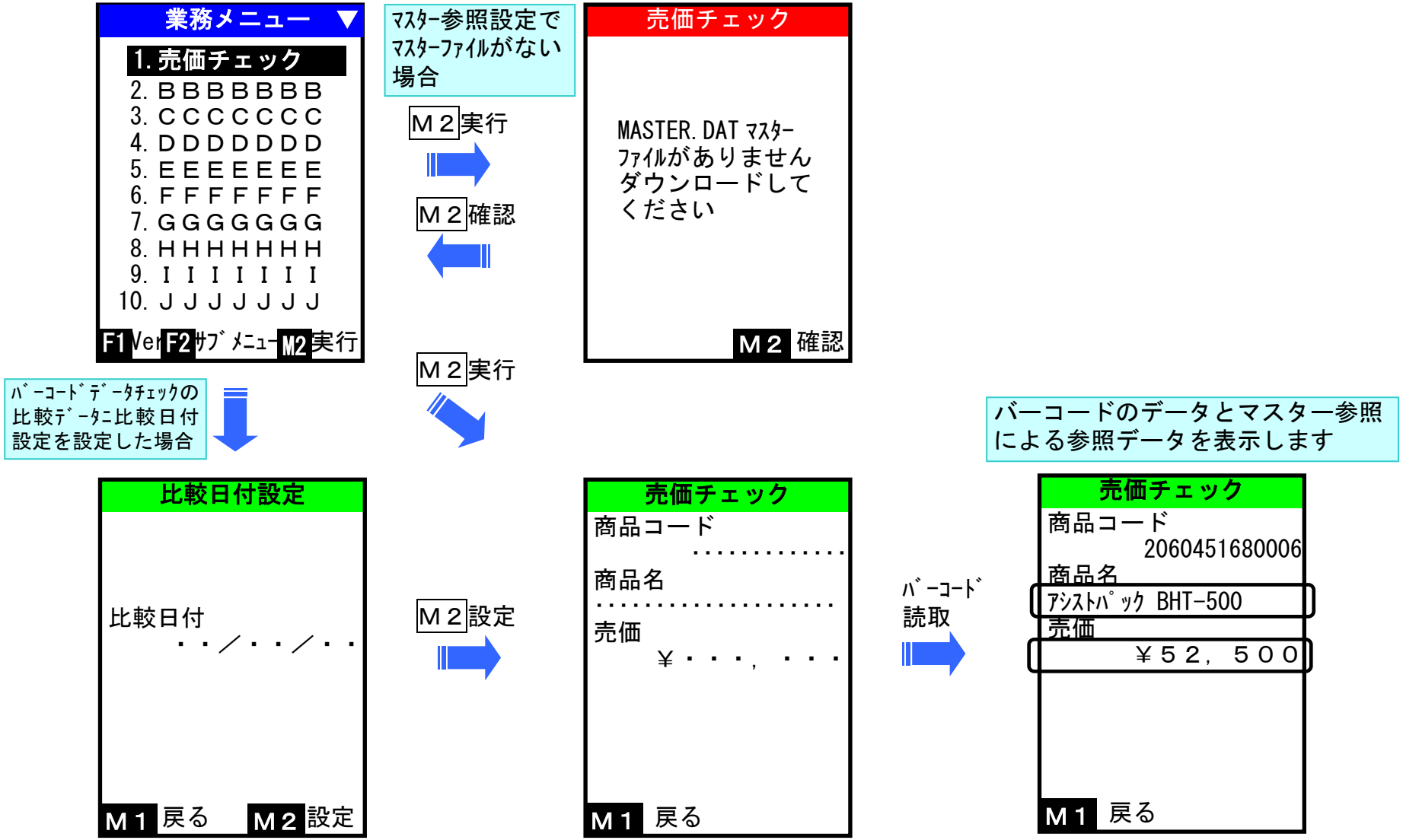
実行中のプログラムであるＡＳＴＰＫ８００．ＰＤ４は受信しないでください。

業務設定で設定したデータファイルを受信できますが、予め送信／削除してから受信して、受信後に再起動してください。

３－１２ バーコード情報表示モード

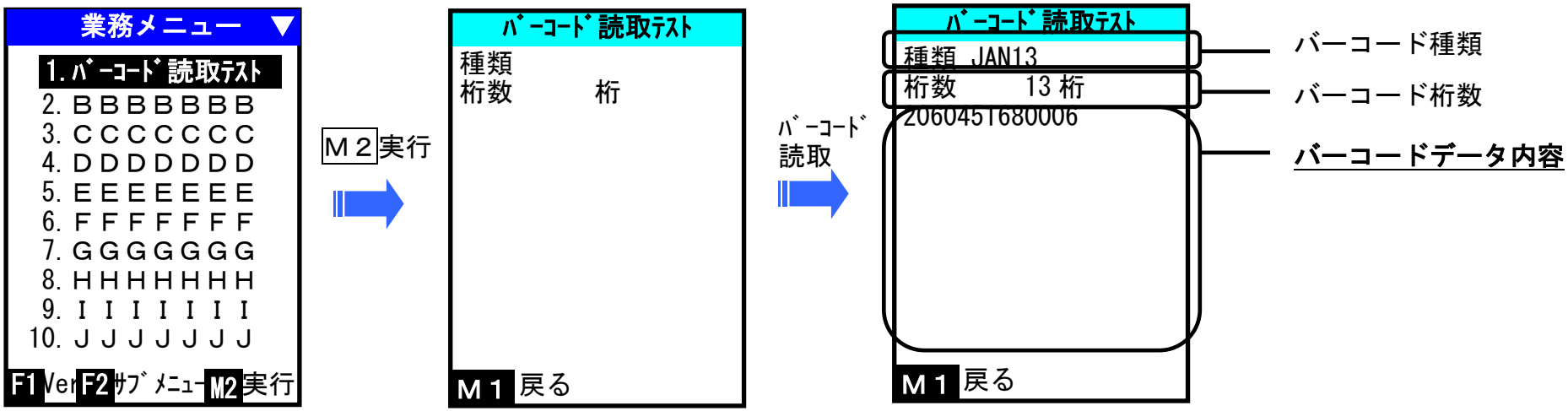
業務メニューにおいて「バーコード情報表示」モード設定の業務名を選択して、M２（実行）を押すと、次の動作をします。

バーコード読取設定とマスター参照設定に従って、バーコードを読み取ってバーコードテータとマスター参照データを表示します。マスター参照を設定した場合は、実行時にマスターファイルが無いとマスターファイルの受信画面になります。



３－１３ バーコード読取テストモード

業務メニューにおいて「バーコード読取テスト」モード設定の業務名を選択して、Ｍ２（実行）を押すと、各種バーコードを読み取り、バーコードの種類，桁数，データ内容を表示します。



１８０桁を超えるバーコードデータを読み込んだ場合は、▲と▼ で表示をスクロールできます。
Ｍ１ ： 業務メニューに戻ります

バーコード種類の表示

ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ種類	JANｺｰﾄﾞ 13 桁	JANｺｰﾄﾞ 8 桁	UPC-A	UPC-E	ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ 2of5	ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5
表示文字列	JAN13	JAN8	JAN13	UPCE	STF	ITF

ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ種類	Code 39	Code 93	Code 128	Codabar (NW-7)	EAN-128	RSS
表示文字列	CODE39	CODE93	CODE128	NW7	EAN128	RSS

ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ種類	QR ｺｰﾄﾞ	Maxi ｺｰﾄﾞ	PDF417 ｺｰﾄﾞ	Data Matrix
表示文字列	QR ｺｰﾄﾞ	MAXI ｺｰﾄﾞ	PDF417 ｺｰﾄﾞ	DATAMATRIX

３－１４ サブメニュー

各種設定と業務設定データの更新／送信，ファイルの受信／管理等のメニューです。業務設定の［サブメニュー動作］をチェックすると、業務メニュー画面の F２ キーに「サブメニュー」を割り当てます。

▲　：　上を選択
▼　：　下を選択
M２，ＥＮＴ　：反転表示の項目を実行
１～９　：　１～９の項目を選択
０　：　１０の項目を選択
M１　：　業務メニューに戻ります
M１　１秒以上押下
：「ﾌﾞｻﾞｰ音量，ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀ，画面の明るさおよび省電力」の設定画面を表示

３－１４－１ システム情報表示

ハンディターミナルのシステム情報表示とシステムプログラムのバージョンアップをします。

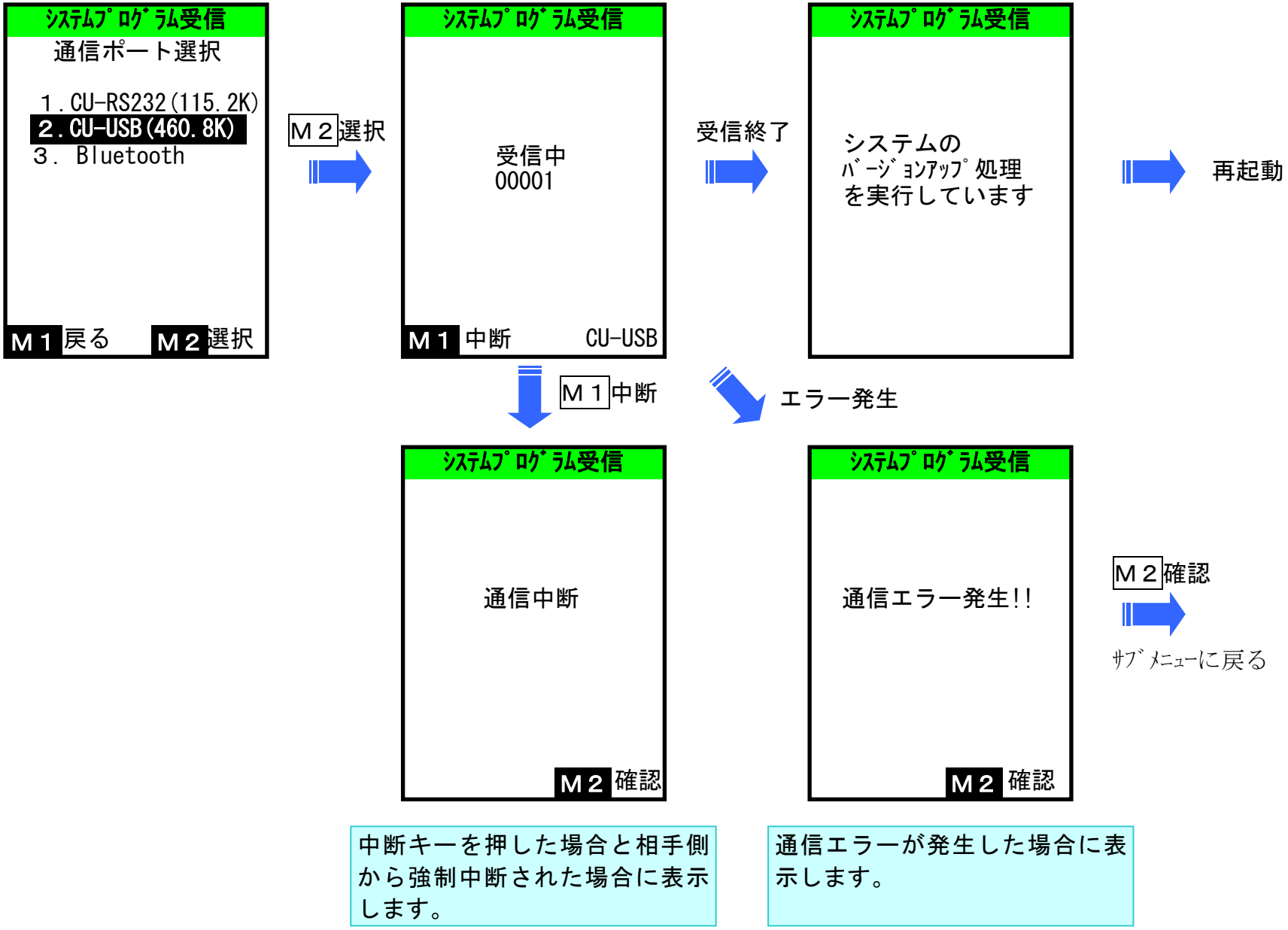
標準	無線 LAN	Bluetooth	2 次元ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ	2 次元/無線 LAN	2 次元/ Bluetooth
BHT50B	BHT80BW	BHT80BB	BHT80Q	BHT80QW	BHT80QB

ｱｼｽﾄﾊﾟｯｸ HT ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑのﾊﾞｰｼﾞｮﾝ

ｼｽﾃﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名とそのﾊﾞｰｼﾞｮﾝ

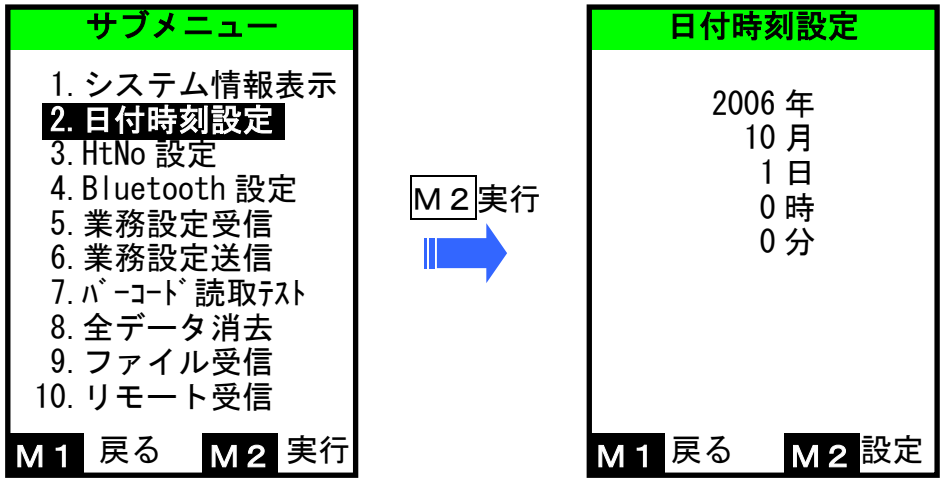
メモリ容量

M２　：　システムプログラムのバージョンアップ
M１　：　サブメニューに戻ります


ｼｽﾃﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ受信
通信ポート選択
1.CU-RS232(115.2K)
2.CU-USB(460.8K)
3. Bluetooth
M1 戻る
M2 選択
M2選択
ｼｽﾃﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ受信
受信中
00001
M1 中断
CU-USB
受信終了
ｼｽﾃﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ受信
システムの
ﾊﾞｰｼﾞｮﾝｱｯﾌﾟ処理
を実行しています
再起動
M1中断
エラー発生
ｼｽﾃﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ受信
通信中断
M2 確認
ｼｽﾃﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ受信
通信エラー発生!!
M2 確認
M2確認
ｻﾌﾞﾒﾆｭｰに戻る
中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。
通信エラーが発生した場合に表示します。

３－１４－２　日付時刻設定

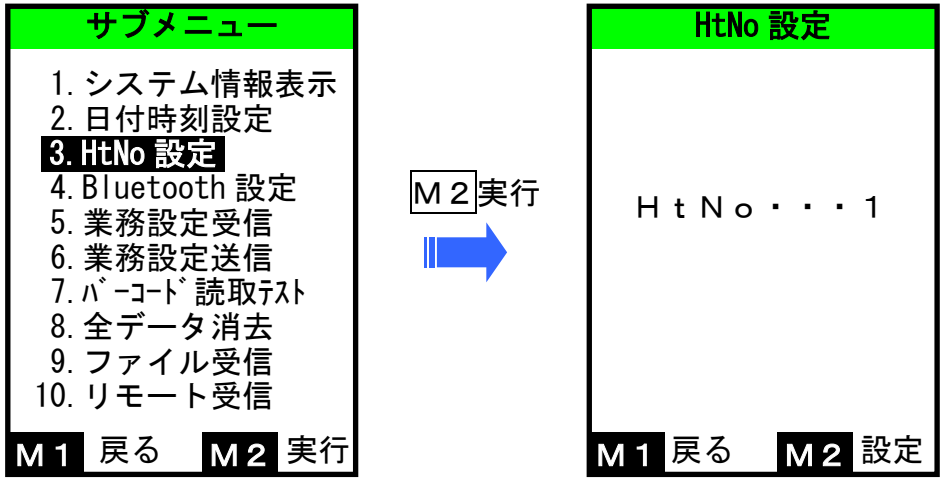
システムの日付と時刻を設定をします。



▲　：　前の項目へ移動
▼　：　次の項目へ移動
ＥＮＴ　：　次の項目へ移動
（最後の項目の場合は設定して
サブメニューに戻ります）
Ｍ２　：　入力したデータを設定して
サブメニューに戻ります
Ｍ１　：　サブメニューに戻ります

３－１４－３　ＨｔＮｏ設定

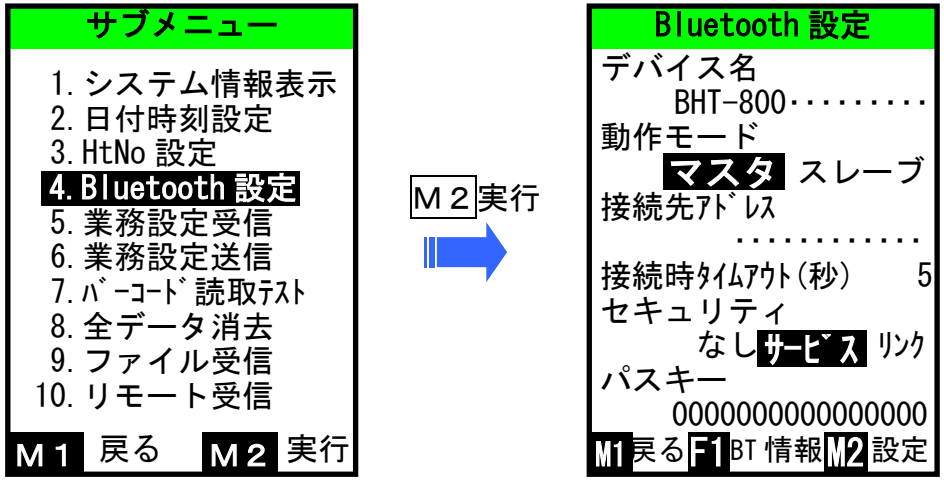
ハンディターミナルを識別するための４桁のＨｔＮｏを設定します。



Ｍ２，ＥＮＴ　：　入力したデータを設定して
サブメニューに戻ります
Ｍ１　：　サブメニューに戻ります

３－１４－４ Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ設定

Bluetooth 搭載のＢＨＴ－８００ＢＢとＢＨＴ－８００ＱＢにおける Bluetooth デバイスの通信環境を設定します。
Bluetooth を搭載していないＢＨＴ－８００ＢＷとＢＨＴ－８００ＱＷでは動作しません。



▲ ： 前の項目へ移動
▼ ： 次の項目へ移動
ＥＮＴ ： データを確定して次の項目へ移動
Ｍ２ ： 入力したデータを設定してサブメニューに戻ります
Ｍ１ ： サブメニューに戻ります

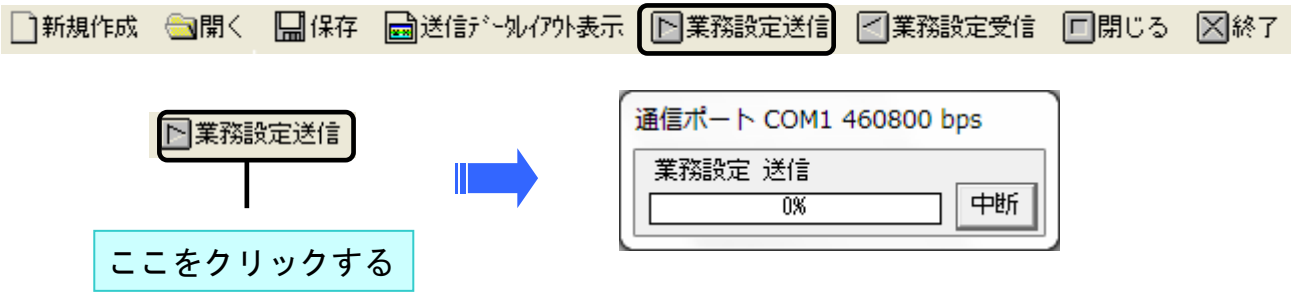
マスタとスレーブについて
　接続要求をする側の機器をマスタ、接続要求を受け取って応答を返す機器をスレーブと呼びます。
ＢＨＴ－８００から接続要求する場合は、「マスタ」を設定してください。この場合、接続相手は「スレーブ」になります。
接続相手が「マスタ」の場合は、「スレーブ」に設定しないと通信できません。

設定項目	説明
デバイス名	Bluetooth のﾃﾞﾊﾞｲｽ名を半角英数字最大１６文字で設定してください。
動作モード	マスタ／スレーブを選択します。
ﾃﾞｰﾀ転送先ｱﾄﾞﾚｽ	動作ﾓｰﾄﾞを「マスタ」に選択した場合、ﾃﾞｰﾀ転送先の Bluetooth ｱﾄﾞﾚｽを設定してください。（半角１２文字）
接続時ﾀｲﾑｱｳﾄ	接続時のﾗｲﾑｱｳﾄ時間を１～２５５秒に設定してください。
セキュリティ	「なし」，「サービス」，「リンク」から選択して、接続相手と同じ設定にしてください。
パスキー	ｾｷｭﾘﾃｨに「ｻｰﾋﾞｽ」または「ﾘﾝｸ」を選択した場合、接続相手と同じパスキーを半角英数字１６文字で設定してください。

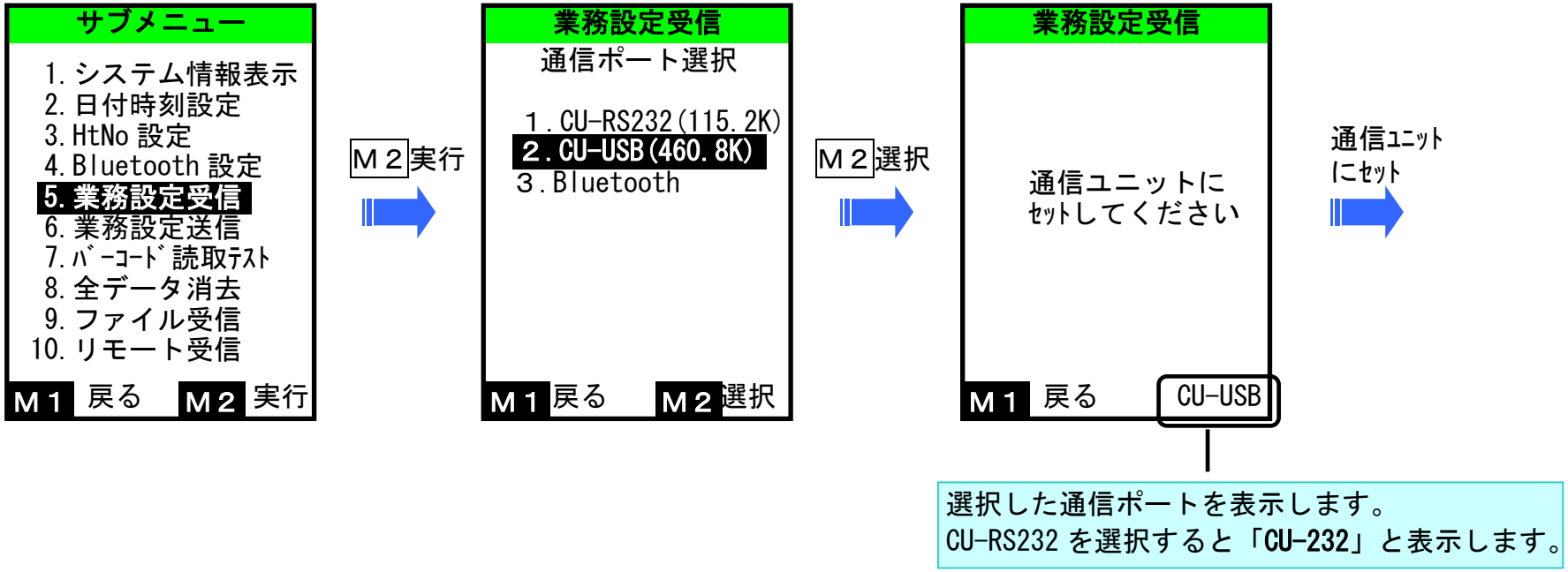
３－１４－５ 業務設定受信

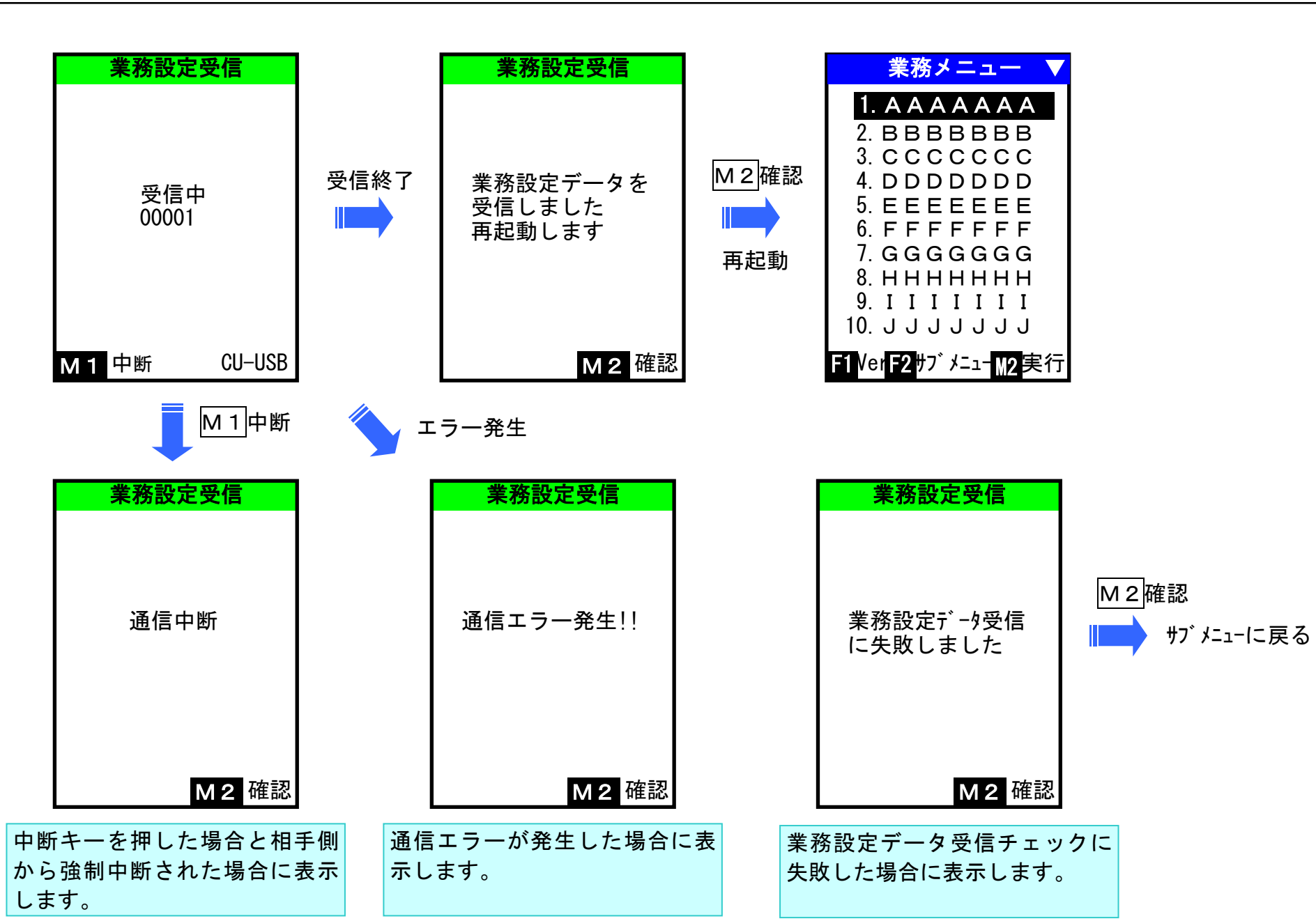
業務設定データを受信して再起動ます。

１） ＰＣの業務設定データ編集画面において［業務設定送信］をクリックします。



２）ハンディターミナルの「5. 業務設定受信」を実行します。

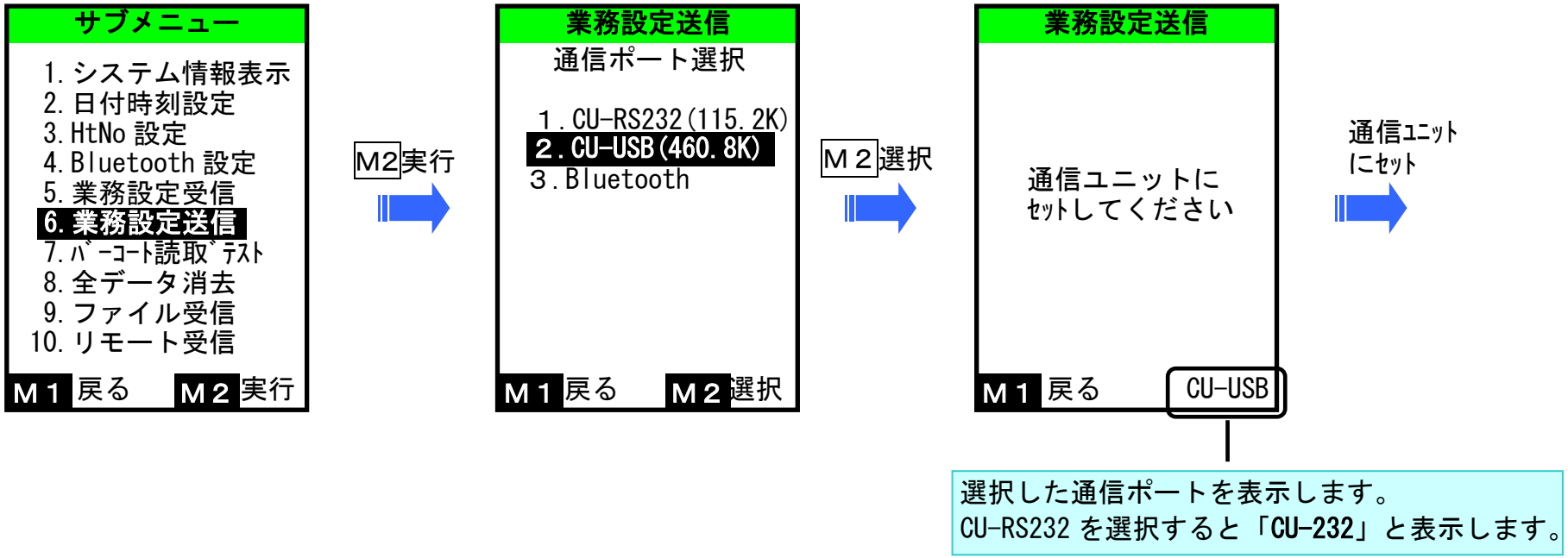



業務設定受信
受信中
00001
M１ 中断
CU-USB
受信終了
業務設定受信
業務設定データを
受信しました
再起動します
M２ 確認
M２確認
再起動
業務メニュー
1. AAAAAAA
2. BBBBBBB
3. CCCCCCC
4. DDDDDDD
5. EEEEEEE
6. FFFFFFF
7. GGGGGGG
8. HHHHHHH
9. IIIIIII
10. JJJJJJJ
F1 Ver F2 ｻﾌﾞﾒﾆｭｰ M2 実行
M１中断
エラー発生
業務設定受信
通信中断
M２ 確認
業務設定受信
通信エラー発生!!
M２ 確認
業務設定受信
業務設定ﾃﾞｰﾀ受信
に失敗しました
M２ 確認
M２確認
ｻﾌﾞﾒﾆｭｰに戻る
中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。
通信エラーが発生した場合に表示します。
業務設定データ受信チェックに失敗した場合に表示します。

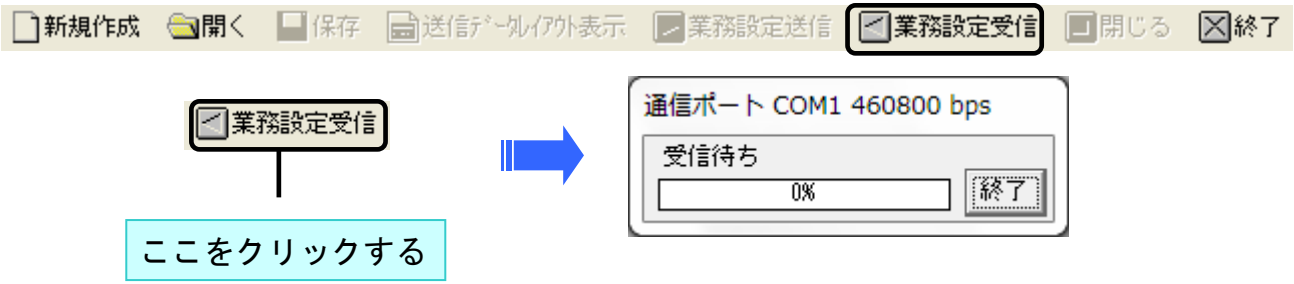
３－１４－６ 業務設定送信

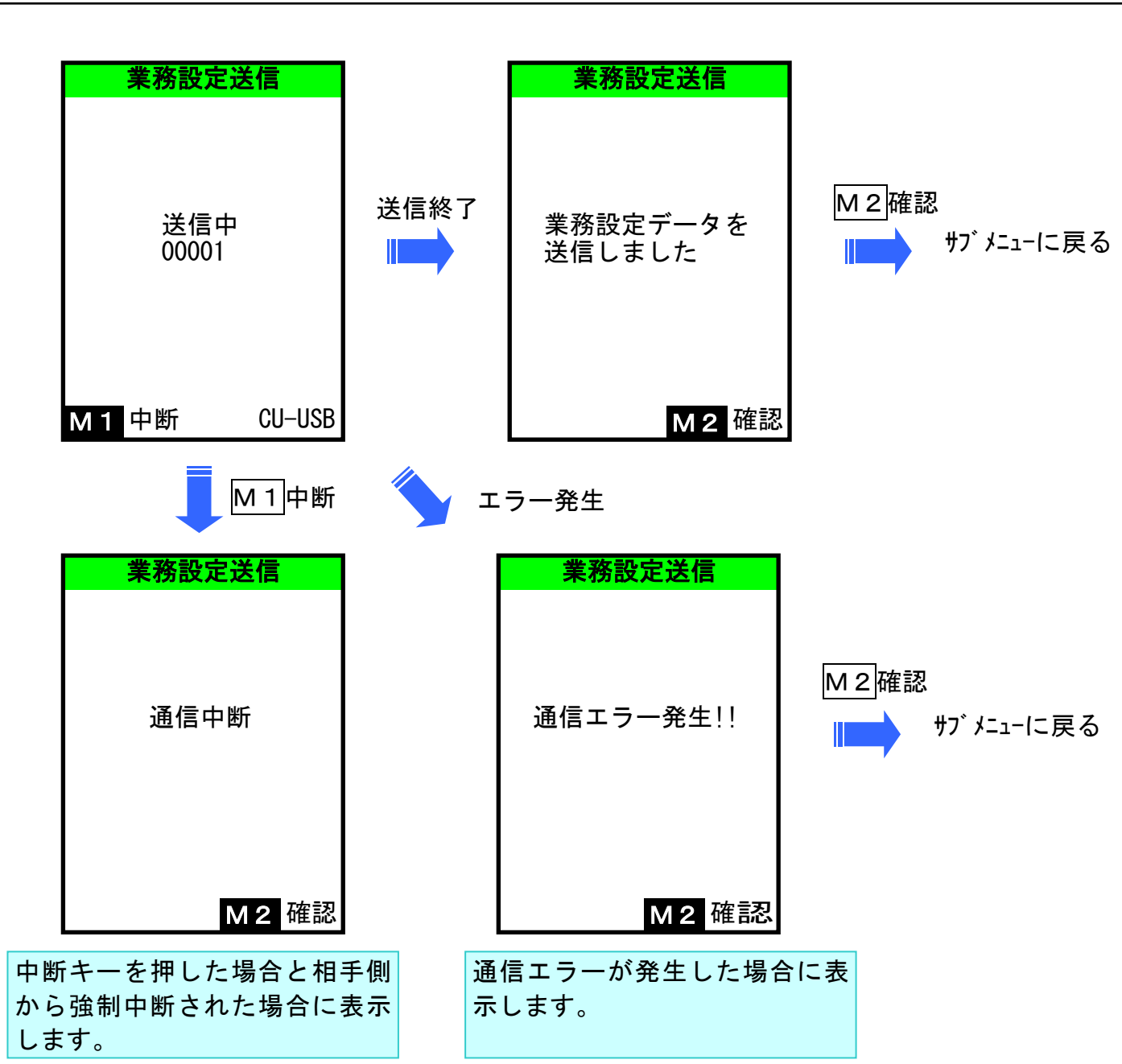
現在の業務設定の内容を確認または変更するために、業務設定データをＰＣに送信します。

１）ハンディターミナルの「6.業務設定送信」を実行します。



２）ＰＣの業務設定画面において［業務設定受信］をクリックします。

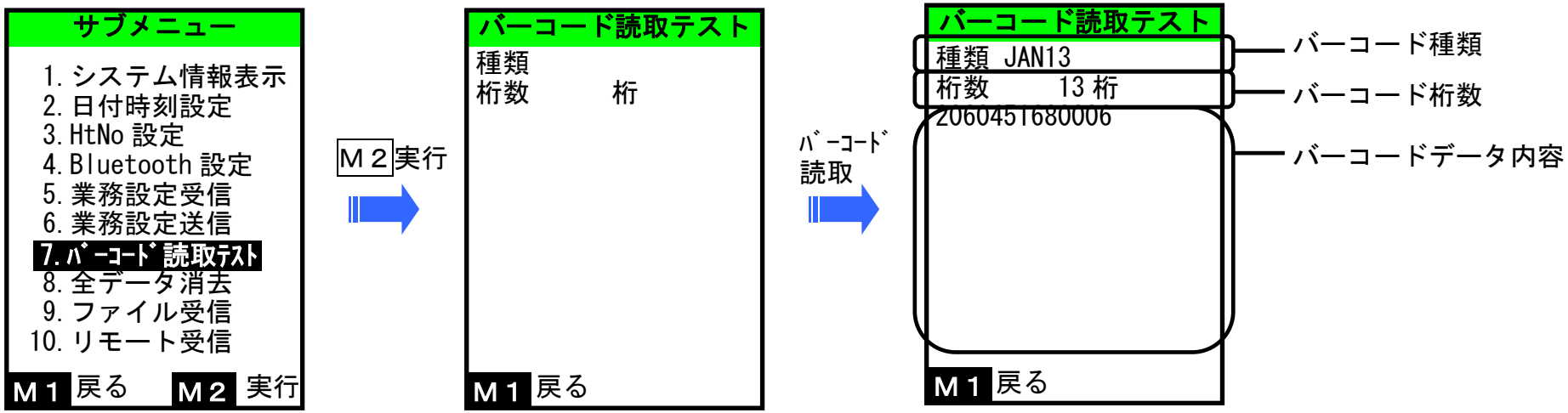



業務設定送信
送信中
00001
M１ 中断
CU-USB
送信終了
業務設定送信
業務設定データを
送信しました
M２ 確認
M２確認
ｻﾌﾞﾒﾆｭｰに戻る
M１中断
エラー発生
業務設定送信
通信中断
M２ 確認
業務設定送信
通信エラー発生!!
M２ 確認
M２確認
ｻﾌﾞﾒﾆｭｰに戻る
中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。
通信エラーが発生した場合に表示します。

ﾌｼｷﾞﾃｯｸ

３－１４－７ バーコード読取テスト

各種バーコードを読み取り、バーコードの種類，桁数，データ内容を表示します。



１８０桁を超えるバーコードデータを読み込んだ場合は、▲と▼ で表示をスクロールできます。

M１ ： サブメニューに戻ります

バーコード種類の表示

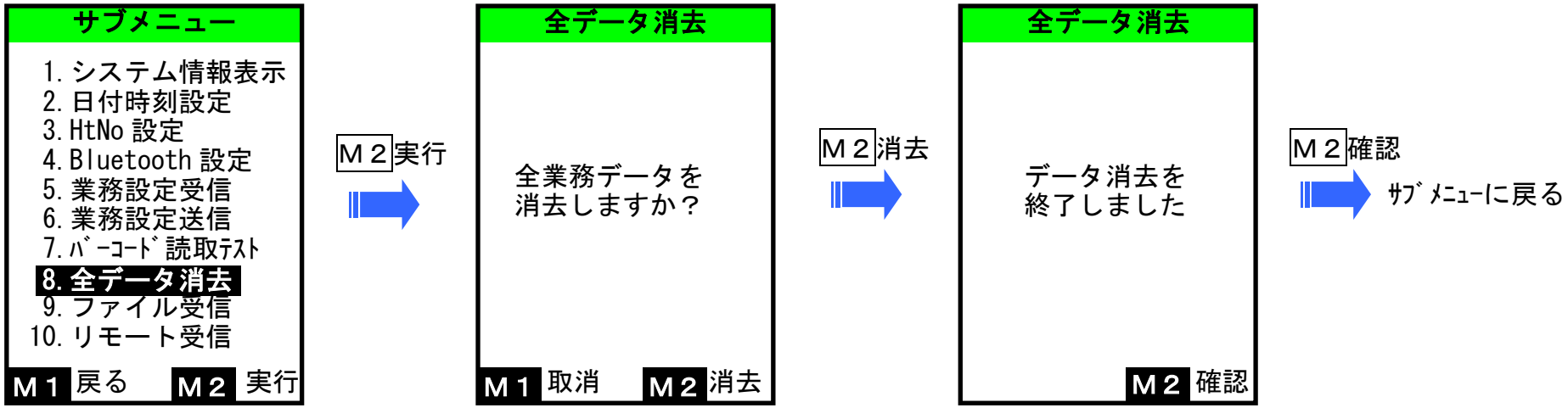
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ種類	JAN ｺｰﾄﾞ 13 桁	JAN ｺｰﾄﾞ 8 桁	UPC-A	UPC-E	ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ 2of5	ｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞﾄﾞ 2of5
表示文字列	JAN13	JAN8	JAN13	UPCE	STF	ITF

ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ種類	Code 39	Code 93	Code 128	Codabar (NW-7)	EAN-128	RSS
表示文字列	CODE39	CODE93	CODE128	NW7	EAN128	RSS

ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ種類	QR ｺｰﾄﾞ	Maxi ｺｰﾄﾞ	PDF417 ｺｰﾄﾞ	Data Matrix
表示文字列	QR ｺｰﾄﾞ	MAXI ｺｰﾄﾞ	PDF417 ｺｰﾄﾞ	DATAMATRIX

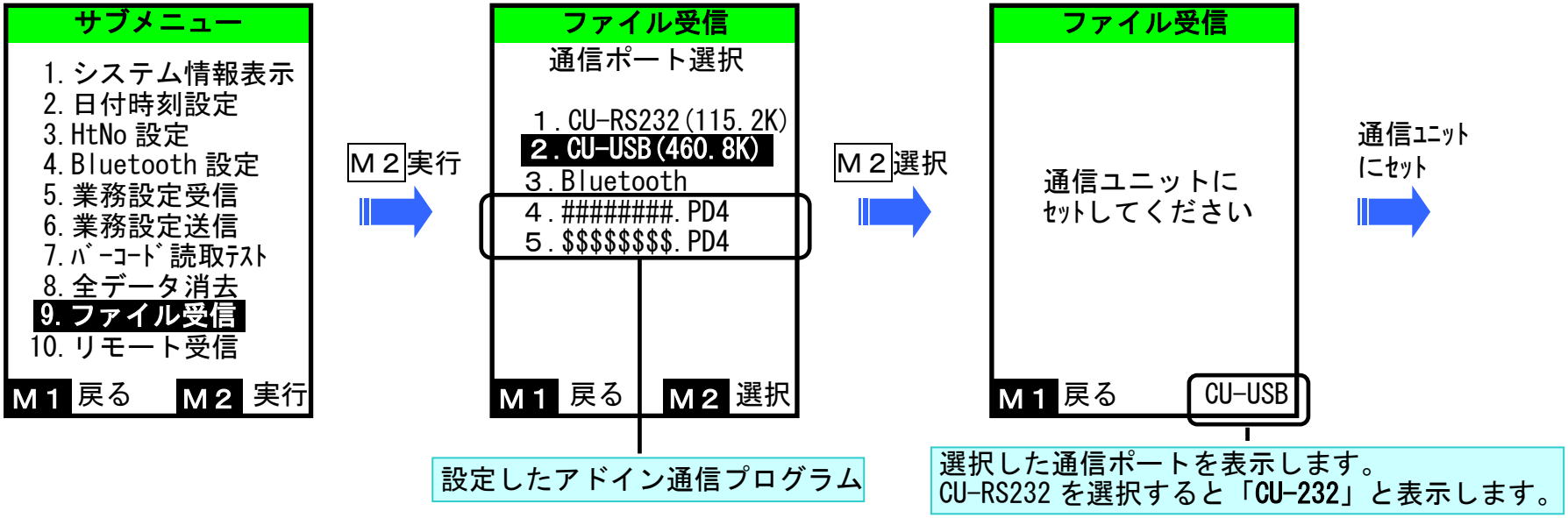
３－１４－８ 全データ消去

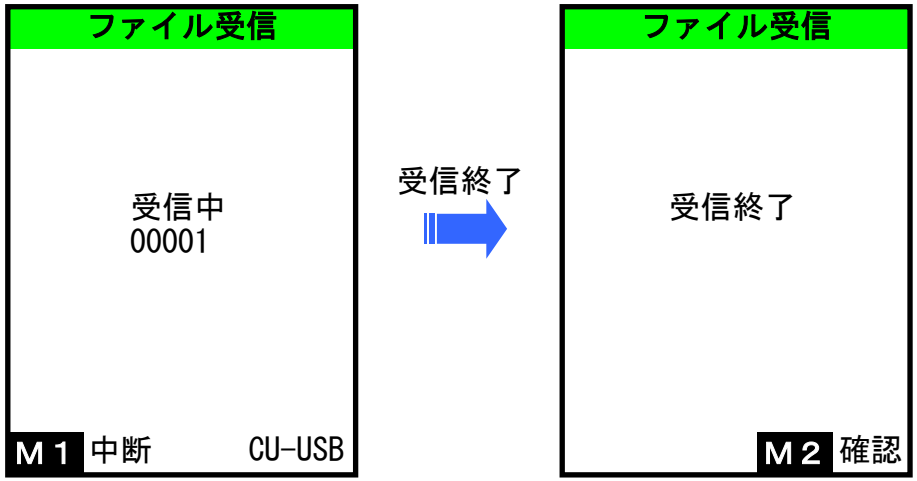
全業務のデータファイルを消去します。



３－１４－９ ファイル受信

マスターファイルやプログラムファイルを受信します。





M２確認 → ｻﾌﾞﾒﾆｭｰに戻る

実行中のプログラムである
ＡＳＴＰＫ８００．ＰＤ４は
受信しないでください。

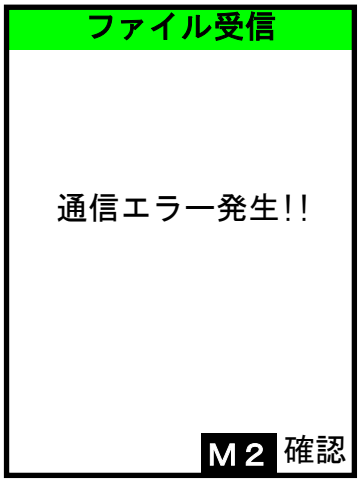
業務設定で設定したデータファイルを受信できますが、予め送信／削除してから受信して、受信後に再起動してください

＊ ファイル受信時のエラー発生

受信中断の場合

中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。

受信エラーの場合

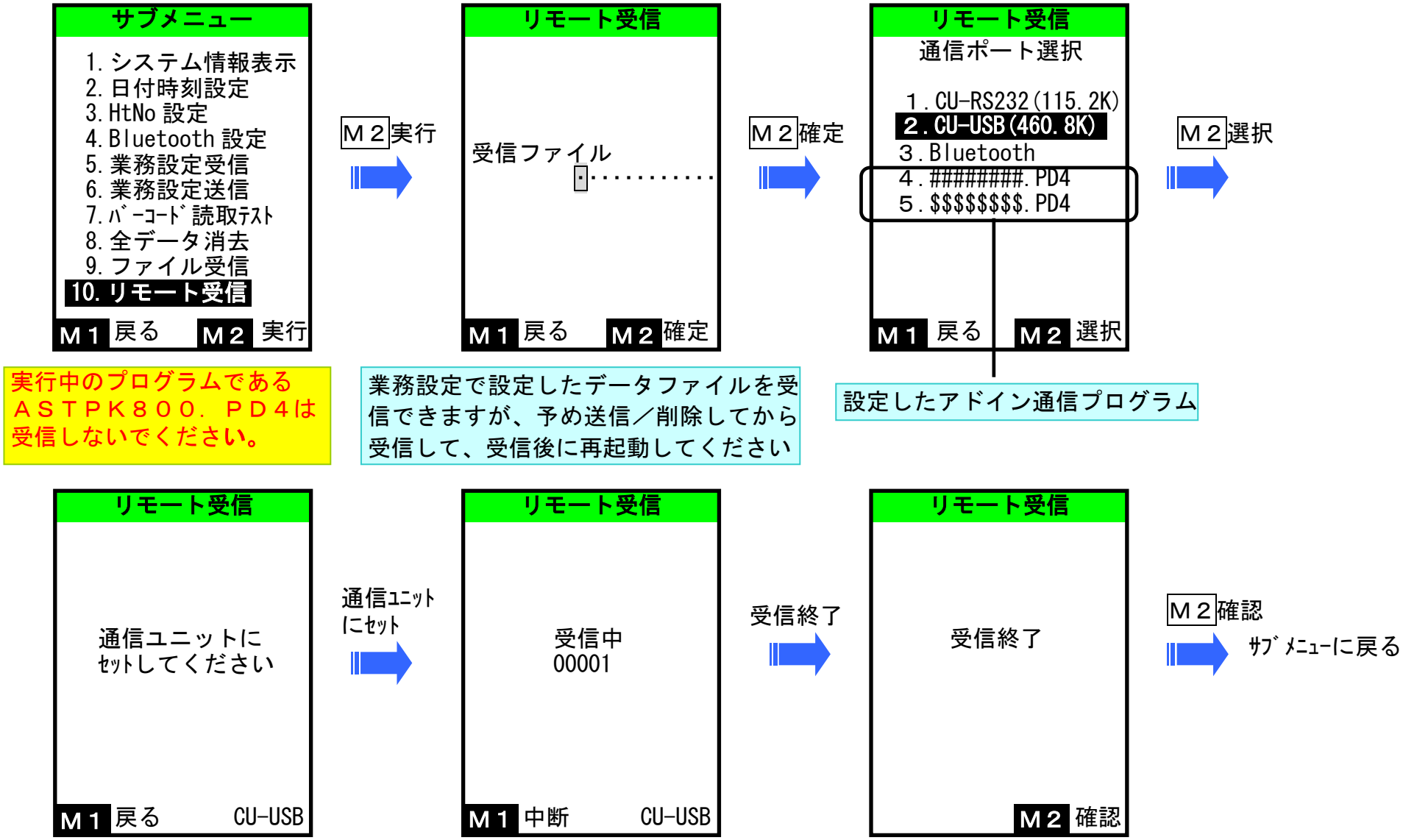


M２確認 → ｻﾌﾞﾒﾆｭｰに戻る

通信エラーが発生した場合に表示します。

３－１４－１０ リモート受信

「ＢｈｔＹｍＣｏｍ．ｅｘｅ通信プログラム」で設定したファイルをリモート受信します。

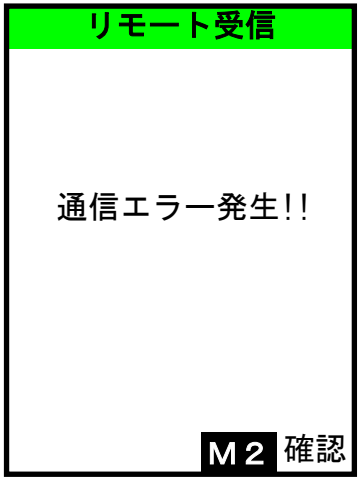


＊ ファイル受信時のエラー発生

受信中断の場合

中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。

受信エラーの場合



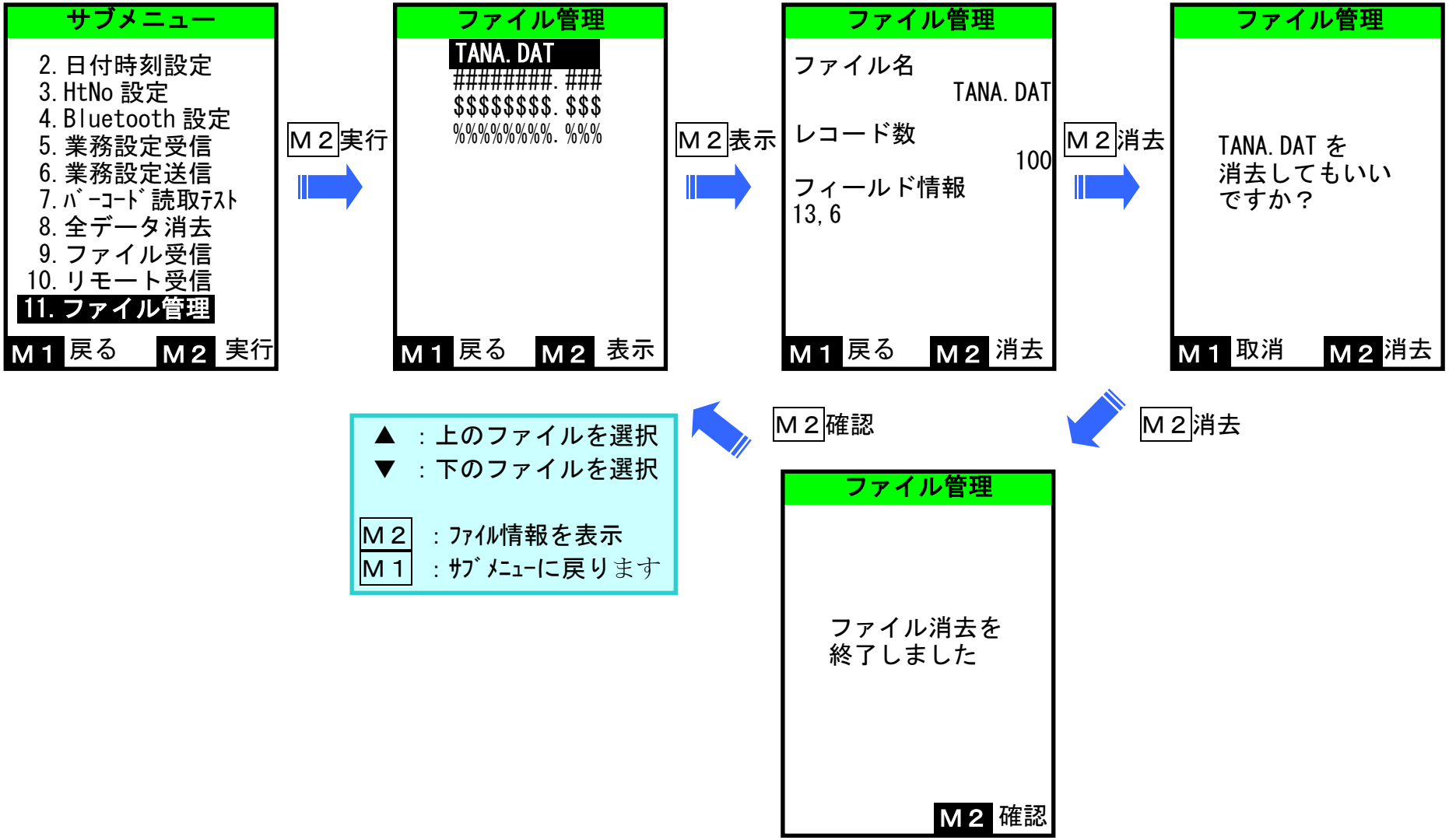
M２確認

ｻﾌﾞﾒﾆｭｰに戻る

通信エラーが発生した場合に表示します。

３－１４－１１ ファイル管理

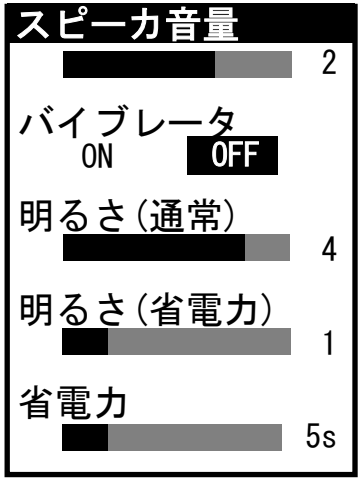
保存ファイルのファイル名リストを表示し、その中から選択したファイルのレコード数とフィールド情報を表示します。選択したファイルを消去することもできます。



SAMPLE

３－１５ ﾌﾞｻﾞｰ音量，ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰﾀ，画面の明るさおよび省電力設定

Ｍ１キーを３秒以上押すと設定画面を表示します。



スピーカ音量	業務設定において、ブザー周波数に０．１，２を設定した場合のみ、ブザー音量を０～３の４段階で調整できます。
バイブレータ	バイブレータのＯＮ/ＯＦＦを設定します。
明るさ(通常)	液晶画面のバックライトの明るさを１～５の５段階で調整できます。
明るさ(省電力)	省電力時の液晶画面のバックライトの明るさを０～５の６段階で調整できます。
省電力	省電力のために未使用時の液晶画面のバックライトを暗くするまでの時間を１～３０秒、１秒単位で設定します。

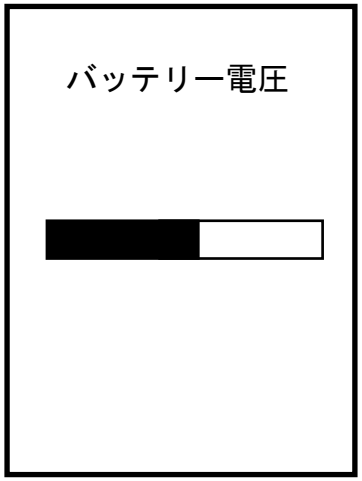
▲ ：上の設定を選択　　▼ ： 下の設定を選択
◀ ： 左を選択または設定を小さくします　　▶ ：右を選択または設定を大きくします
Ｍ１ （３秒以上押下）：前の画面に戻ります。
BS/C （1 秒以上押下）：前の画面に戻ります。
ＥＮＴ ，Ｍ２ ：前の画面に戻ります。

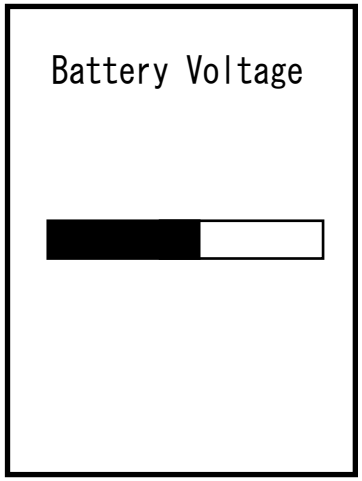
３－１６ バッテリー

所定時間充電しても消耗が早くなった場合は、新品に交換してください。

３－１６－１ バッテリー電圧表示

「サブメニュー」画面において、ＳＦ＋ＥＮＴを押している間、「バッテリー電圧」画面を表示します。

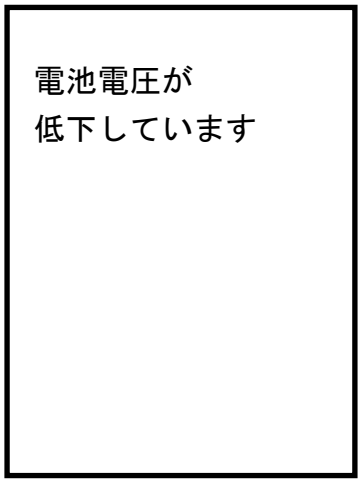


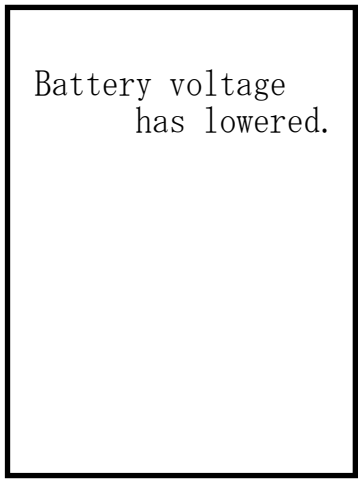


電池残量について
- バッテリー電圧は、電池の残量を正確に表示するものではありません。あくまでも目安にしてください。
- バッテリー電圧表示は、ＢＨＴの動作によって変動しますので、実際のバッテリー電圧と表示の間に誤差が発生することがあります。
- 電池残量が少なくなる前に、早めに充電するようにしてください。

３－１６－２ 電圧低下した場合

下記の画面が２秒間表示されてブザーが３回鳴ります。その後、通常の動作に戻ります。





このように場合は、電池カートリッジの充電時期が近づいています。
早めに充電してください。

３－１６－３ 電圧低下検出による電源オフの場合

電圧低下の画面が表示された後、電池の充電を行わず、そのまま使用すると、使用不可になり下記の画面が表示されてブザーが５回鳴り、自動的に電源がオフになります。電池の消耗度合により、ブザーが鳴らない場合もあります。

電池電圧が
低下しています

満充電した充電地カー
トリッジに交換または
充電してください

Battery voltage
has lowered.

Replace or recharge
The battery
cartridge

このように場合は、充電池カートリッジを交換また充電してください。

注意

充電池カートリッジ交換は、必ず電源をオフにしてから行なってください。データの消失を避けるため、電池を取り外し後３分以内に装着してください。

電池交換後、電源をオンして動作を確認してください。

３－１６－４ 充電池カートリッジを外してＢＨＴ－８００を保管する場合

ＢＨＴ－８００の電源をオフするときに電源キー［⏻］ を３秒以上押してください。
下記の画面が表示され、データのバックアップが開始されます。バックアップが終わって表示が消えてから充電池カートリッジを外してください。バックアップするデータ量によっては数十秒かかることがあります。

データ保存中.
バッテリをはずさ
ないでください

Now saving data
Do not remove
Battery until
Saving process
complete.